

基礎分野

【科目】日本語表現法	【単位数・時間】1単位（30時間）
【担当講師】吉井 千周	【開講時期】第1学期 【配当年次】1年
【所属・職位等】都城工業高等専門学校一般科目文科	准教授

【授業における到達目標】

社会科学に関する論点を整理しながら理解するためのコンピテンシーについて、アクティブ・ラーニングを通して習得することを目的とする。その結果、課題解決に向けての改善方法を多面的に模索できる能力を育成することを目的とする。

【授業の概要】

本講義では講義を3つのパートに分け、アクティブ・ラーニングを通して、以下の能力を養成することを目標とする。Ⅰ情報リテラシー・コンピテンシーをめぐる体系的な知識の理解、Ⅱ課題発見能力の向上、Ⅲコミュニケーション能力の向上、Ⅳ問題改善・解決のための提案力の向上、のプロセスを経て、学生にアクティブ・ラーニング手法のスキル獲得をうながす。

【アクティブ・ラーニング】

この授業自体がアクティブ・ラーニング技法を学ぶものであるが、主として KJ 法、Mindmap 法、ジグソー法等を用いたアクティブ・ラーニングを用いた授業展開を行う。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	授業の進め方とこの授業のねらい
第2回	情報収集力の向上 1
第3回	情報収集力の向上 2
第4回	情報分析力の向上 1
第5回	情報分析力の向上 2
第6回	課題発見力 1
第7回	課題発見力 2
第8回	プレゼンテーションスキル
第9回	構想力 1
第10回	構想力 2
第11回	表現力 1 [書く]
第12回	表現力 2 [話す]

回数	内容（方法）
第 13 回	表現力 3 [話し合う]
第 14 回	実行力
第 15 回	終了試験

【試験・課題等の内容】

授業を通して 5 回のレポートを課します(50 点)、また最終試験では、小論文を執筆してもらい、その合計点によって成績を判定します。(50 点)。

【評価方法】

レポート、及び最終試験の成績の合計によって判定します。

【テキスト】

河合塾 PROG 開発プロジェクト編著(2013)『問題解決のためのリテラシー強化書 講義編』河合塾

【参考文献】

常日頃から、新聞などを目を通しておくことが望ましい。

【授業外における学修方法及び時間】

自由なアイデアで多くの問題を解決できる能力を身につけましょう。質問がある場合は、senshu@cc.miyakonojo-nct.ac.jp のアドレスに「学校名・学科名・氏名」を必ず書いて送ってきて下さい。これらの情報が書いていない場合は返信しません。

基礎分野

【科目】看護物理学	【単位数・時間】1 単位（30 時間）	
【担当講師】野口 大輔	【開講時期】第 1 学期	【配当年次】1 年
【所属・職位等】都城工業高等専門学校 物質工学科 教授		

【授業における到達目標】

- 1) 身体/身体ケアに関する力学的原理の基礎を説明できる。
- 2) 検査・治療・処置に関する科学的裏付けを理解し説明できる。

【授業の概要】

人間の生活に必要な物理学の原理の基礎を想起し、看護技術の科学的裏付けや医療機器の仕組みについて理解する。

【アクティブ・ラーニング】

授業中に補足資料を配布し計算を必要とする問題を解いてもらう。その後、導いた具体的な解法をグループの学生に説明する。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	移動動作に必要な力の加減と物の量を表す単位について スカラーとベクトル、ベクトルの加法減法、力の単位
第2回	体位変換に役立つトルクの知識 トルクとてこ
第3回	仕事とエネルギー 運動量と撃力
第4回	安定と不安定 重心の求め方、重心と安定性
第5回	力のつり合い：牽引 牽引療法、牽引と滑車、ラッセル牽引法
第6回	作用・反作用 反対牽引、作用・反作用
第7回	摩擦 摩擦の種類と方向、斜面に働く摩擦力
第8回	比熱 温度の単位、比熱の定義
第9回	圧力の基礎知識 圧力とは、圧力を高さで見る
第10回	動圧と側圧 圧力の応用、ベルヌーイの定理、血圧
第11回	酸素と圧力の関係 ボンベの種類、ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則
第12回	比重 比重と密度、浮力、オートクレーブの原理
第13回	酸・アルカリと pH 酸性・アルカリ性、pH(ペーハー)、緩衝溶液

回数	内容（方法）
第 14 回	濃度 重量パーセント、容量パーセント、モル濃度、
第 15 回	浸透圧 Eq 濃度、浸透圧、浸透圧の求め方

【試験・課題等の内容】

定期試験は授業で使用した教科書および参考資料を中心に、重要語句の説明や計算問題を出題する。課題は適宜、計算問題を中心に行う。

【評価方法】

中間試験・終了試験、出欠状況を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

完全版ベッドサイドを科学するー看護に生かす物理学ー 学研メディカル秀潤社
物理課題(自作)

【参考文献】

【授業外における学修方法及び時間】

事前学習により、当該授業時間で進行する部分を高校基礎科学等の教科書にて復習すること。

基礎分野

【科目】 情報科学
【単位数・時間】 1 単位・30 時間
【担当講師】 金澤 洋司、宮川 泰一
【開講時期】 前期 【配当年次】 1 年
【所属・職位等】 有限会社 システムランド

【授業における到達目標】

1. コンピューターの役割や仕組みを理解し、その活用方法を習得する。
2. コンピューターを活用した情報の取り扱いやコミュニケーションにおけるリテラシーを理解する。

【授業の概要】

情報の基本的な考え方、情報処理の実際を学ぶとともに、コンピューター操作について学ぶ。
情報モラルとセキュリティ対策等を含むコンピューター活用の可能性を幅広く理解する科目である。
コンピューターの活用による統計処理の基本を学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

実際にパソコン操作を行いながら、実践レベルでの学習を行う。また、パワーポイントの応用としてグループ学習を取り入れ、プレゼンテーションの技術を身につけられるように学習する。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
第1回	情報モラル①（個人情報、コピー&ペーストと引用の違い） パソコンの基本操作		場所：情報科学室
第2回	情報モラル②（個人情報、著作権） ワード基礎①（文章作成・編集）		場所：情報科学室
第3回	情報モラル③（著作権問題） ワード基礎②（図の挿入、表の挿入）		場所：情報科学室
第4回	情報モラル④（著作権、CD コピー） ワード応用①（長文作成、見出し等）		場所：情報科学室
第5回	ワード応用②（見出し、ページ番号） エクセル基礎①（画面の説明、特徴）		場所：情報科学室
第6回	情報モラル⑤（アップロード動画、ウイルス対策） エクセル基礎②（データ入力、編集、数式）		場所：情報科学室
第7回	情報モラルとセキュリティ対策 エクセル応用①（表の編集、印刷）		場所：情報科学室
第8回	情報セキュリティ（ネットオークションの注意点） エクセル応用②（グラフ、データベース）		場所：情報科学室
第9回	情報セキュリティ（スマホ依存症） エクセル応用③（集計、分析）		場所：情報科学室
第10回	エクセル評価テスト パワーポイント基礎①		場所：情報科学室
第11回	情報モラル（メールの送信、BCC、CC）（SNS の信ぴょう性） パワーポイント基礎②（スライド、オブジェクト挿入）		場所：情報科学室

回数	内容（方法）	講師	備考
第12回	パワーポイント応用①（オブジェクトの挿入、アニメーション、画面操作）		場所：情報科学室
第13回	パワーポイント・プレゼンテーション（グループ発表）		場所：情報科学室
第14回	情報モラル パワーポイント応用		場所：情報科学室
第15回	情報モラル、クラウドの活用、メールの書き方 パワーポイントの応用 終了試験含む		場所：情報科学室

【科目関連及び進度について】

看護研究、統合看護技術につながる科目である。

【試験・課題等の内容】

必要時、課題を提示する。

【評価方法】

レポート課題および出席等により、総合的に評価する（100％）。

【テキスト】

情報リテラシー総合編 情報モラル&セキュリティ Windows8.1 富士通 FOM

【参考文献】

【授業外における学修方法及び時間】

授業後に復習を行い、前後の講義内容との関連性等に着目しながら学びを深める。

【その他】

USB の購入について、講義開始後に説明する。

基礎分野

【科目】心理学	【単位数・時間】1 単位(30 時間)
【担当講師】神垣 彬子	【開講時期】第 1 学期
【所属・職位等】南九州大学 非常勤講師	【配当年次】1 年

【授業における到達目標】

現代社会では多様な価値観や生活様式が認められており、それに伴い、医療現場における心理的ケアのニーズも複雑化しつつある。将来携わるであろう、対人スキルや客観的視点が重視される医療や福祉の現場で役立つ心理学の知識を習得することを目的とする。

【授業の概要】

医療現場で求められる人間の「こころ」に関する知識について、現代社会の特徴に重点を置きながら、社会心理学、教育心理学、臨床心理学、実験心理学の観点から講義する。客観的に物事を捉える視点を学び、医療現場における心理学の果たす役割について考える。

【アクティブ・ラーニング】

心理学の知識を必要とする、将来、直面することが想定される医療現場における場面に対するディスカッションやロールプレイングを通して、座学で学んだ知識を、実際の場面で応用可能な知識に深めた上で習得できるようになることを目指す。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第 1 回	心理学を学ぶための心構えー心理学とは科学であるー
第 2 回	心理学とはなにかを知る①：人間の心の「分析」
第 3 回	心理学とはなにかを知る②：心理学の歴史
第 4 回	人間の感覚と心理学との関係について理解する①：物事の認識
第 5 回	人間の感覚と心理学との関係について理解する②：記憶と忘却
第 6 回	人間の感覚と心理学との関係について理解する③：知覚と感覚
第 7 回	人間の成長を心理学的視点から捉える①：乳幼児期の発達
第 8 回	人間の成長を心理学的視点から捉える②：児童期の発達
第 9 回	人間の成長を心理学的視点から捉える③：青年期の発達
第 10 回	人間の成長を心理学的視点から捉える④：成人期・高齢期の発達
第 11 回	人間の性格や感情を心理学の理論を通して理解する①：性格とはなにか
第 12 回	人間の性格や感情を心理学の理論を通して理解する②：感情とはなにか

回数	内容（方法）
第 13 回	社会における心理学的問題のメカニズムと対処方法を知る①：集団心理
第 14 回	社会における心理学的問題のメカニズムと対処方法を知る②：リーダーシップ
第 15 回	社会における心理学的問題のメカニズムと対処方法を知る③：リフレーミングとアサーション

【試験・課題等の内容】

試験・課題については、いずれも講義内容に即したものを出题する。講義内容には、板書だけでなく口頭にて説明した内容も含まれる。そのため、受講時にノートを取ることを推奨する。

【評価方法】

定期試験（基礎用語の理解と指定評価方法テーマに対する論述問題）100 点の結果で評価する。

【テキスト】

新体系 看護学全書 基礎科目 心理学 メヂカルフレンド社

【参考文献】

適宜紹介する。

【授業外における学修方法及び時間】

授業後にノートの復習を必ず行い、前後の講義内容との関連性等に着目しながら学びを深める。

基礎分野

【科目】人間関係論	【単位数・時間】1単位(15時間)
【担当講師】保田浩美	【開講時期】第1学期
【所属・職位等】一般社団法人日本産業カウンセラー協会九州支部	【配当年次】1年

【授業における到達目標】

人と人とが信頼感をもち、共に支え合って生活することができるために必要な知識や技術について理解し、さらに、その内容を自分の言葉で表現したり、医療や福祉の現場における様々な人間関係の構築のための計画を立てたりすることができるようになることを目的とする。

【授業の概要】

医療現場で必要とされる人間関係に関する知識について、クライアントとの間の関係構築だけでなく、スタッフ間の関係構築にも焦点を当てて講義する。また、人が他者と関係を構築するために必要な知識や技術を学び、どのような場面でどのような形でそれらの知識や技術を生かすことができるかを、自らの力で考える。

【アクティブ・ラーニング】

人間関係に問題が生じている様々な場面に対するディスカッションやロールプレイングを通して、座学で学んだ知識を、実際の場面で応用可能な知識に深めた上で習得できるようになることを目指す。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	人間関係論を学ぶための心構えー現代社会と人間関係ー
第2回	人間関係の「発達」における人とのかかわりの重要性について理解する：①愛着の形成
第3回	人間関係の「発達」における人とのかかわりの重要性について理解する：②遊びの中で育つ人間関係
第4回	人間関係の「発達」における人とのかかわりの重要性について理解する：③青年期以降の人間関係の特徴
第5回	人間関係を円滑に結ぶための知識と技術を知る①：公と私の切り替え
第6回	人間関係を円滑に結ぶための知識と技術を知る②：カウンセリングマインド
第7回	人間関係を円滑に結ぶための知識と技術を知る③：多様性を認めるということ

【試験・課題等の内容】

試験・課題については、いずれも講義内容に即したものを出题する。講義内容には、板書だけでなく口頭にて説明した内容も含まれる。そのため、受講時にノートを取ることを推奨する。

【評価方法】

定期試験（基礎用語の理解と指定評価方法テーマに対する論述問題）100 点の結果で評価する。

【テキスト】

看護診断のためのよくわかる中範囲理論 学研メディカル秀潤社
系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院

【参考文献】

適宜紹介する。

【授業外における学修方法及び時間】

授業後にノートの復習を必ず行い、前後の講義内容との関連性等に着目しながら学びを深める。

基礎分野

【科目】 家族関係論	【単位数・時間】 1 単位(15 時間)	
【担当講師】 金子 幸	【開講時期】 通年	【配当年次】 3 年
【所属・職位等】 南九州大学都城キャンパス 人間発達学部 子ども教育学科講師		

【授業における到達目標】

家族および家族関係について理解を深める。

【授業の概要】

講義やグループワーク、演習を行い、自らの考えを深める授業である。

【アクティブ・ラーニング】

グループワークや演習により、自らの考えを述べたり、意見交換をとおして考えをまとめたりする。

【授業計画】

回数	内容・方法	備考
第 1 回～第 2 回	1. 家族看護の対象理解 1) 家族関係 (1)家族とは (2)家族構造 (3)家族機能 (4)現代の家族とその課題 ①現代家族の様相 ②現代家族の課題	
第 3 回～第 4 回	2. 家族看護を支える理論と介入法 1) 家族を理解するための理論 (1)家族発達理論 (2)家族システム論 2) 家族に変化をもたらすための介入 (1)家族療法 (2)家族を支える介入	
第 5 回～第 7 回	3. 家族看護展開の方法 1) 家族アセスメント	

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。適宜レポート課題あり。

【評価方法】

終了試験 70%、レポート課題 30%

【テキスト】

系統看護学講座 家族看護学 医学書院

【授業外における学修方法及び時間】

毎回、1 時間程度の事前学習、事後学習を要する。

基礎分野

【科目】社会学	【単位数・時間】1単位（30時間）
【担当講師】菊井 高雄	【開講時期】第2学期
【所属・職位等】国立大学法人 宮崎大学 医学部医学科	【配当年次】1年 准教授

【授業における到達目標】

- (1) 人間形成のメカニズムとプロセスが理解できる。
- (2) 人間の社会的行動を社会学的視座から理解できる。
- (3) 自分自身の考え方で社会を読み解くこと＝主体性を志向する。

【授業の概要】

(授業のねらい)

「社会学」は人間の社会的行動（社会生活）に潜む一定の規則性（社会関係、社会秩序など）とその因果関係を体系的に研究するものです。本講義を通して社会学という領域の見方・考え方を知り、学生諸君の個人的行動・事象を社会（ミクロにもマクロにも）と結びつけて解釈し理解する楽しみを見つけて下さい。

【アクティブ・ラーニング】

高校社会科のような「暗記の強要」はしない。その分、考え方の理解と日常生活における具体的な適用を重視する。講義中は口述筆記も必要なので、ノートをとる技術を磨いてほしい。また、課題に対する予習と講義の復習を時々やってほしい。なお、アクティブ・ラーニングと呼ばれる双方向的な講義スタイルも取り入れる予定。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	社会の中の人間：あなたは社会のために作られた？
第2回	文化と価値：あなたが社会の中で無意識に学んでしまうもの
第3回	集団と個人：誰があなたを形成するのか
第4回	自殺と社会：生まれる前から自殺率が決められているとしたら？
第5回	宗教と資本主義：水と油と思ったら、本当は仲良し？
第6回	自由からの逃走：人はどうしてカリスマに弱いのか？
第7回	潜在的機能の話：意図せざる結果がもたらす悲喜劇
第8回	場面と対面：空気の読めない君がなぜ疎まれるのか
第9回	都市の人間関係：田舎ものにはわからない複雑で高級な仕掛け
第10回	逸脱と社会変動：アメリカで犯罪が多発する理由？
第11回	社会病理現象：「子ども問題」の根っこを探ると何が出てくる？

回数	内容（方法）
第 12 回	家族・家庭・世帯：類語の語義・略歴を探る
第 13 回	家族の本質：社会制度としての家族
第 14 回	配偶者選択の理論と課題
第 15 回	家族と医療

【試験・課題等の内容】

出席状況と筆記試験（教科書・自筆ノート・配布資料持ち込み可）で総合的に判断する。
筆記試験では、客観式と記述式を併用する予定。

【評価方法】

出席と筆記試験（出席：30 点、筆記試験：70 点）

【テキスト】

社会学入門 改訂版 （井上 俊著）放送大学教育振興会、1993 年

【参考文献】

講義中に紹介する。

【授業外における学修方法及び時間】

冬休みに読書又は視聴課題を出す。

基礎分野

【科目】生活文化論	【単位数・時間】1 単位（15 時間）
【担当講師】桑畑 洋一郎	【開講時期】第 1 学期 【配当年次】1 年
【所属・職位等】国立大学法人 山口大学 人文学部人文学科 准教授	

【授業における到達目標】

認知症等を患った高齢者に対する在宅医療・在宅看護をベースにして、①人の生と死により深く携わるために対象者の「生活文化」を把握することの重要性を理解すること、②「生活文化」を把握するために必要な姿勢や身構えを理解することの2点を到達目標とする。

【授業の概要】

在宅医療や在宅看護に関するドキュメンタリー映像を見ながら、「生活文化」を把握した上での医療・看護と、それによって人の生と死を豊かにすることを学んでいく。集中講義で実施する予定である。

【アクティブ・ラーニング】

授業中にコメント収集アプリを用いてコメントを集める。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	授業の概要の説明、この授業における「生活文化」とは何か
第2回	「在宅医療」に関するドキュメンタリーの視聴と振り返り①
第3回	「認知症患者の在宅看護」に関するドキュメンタリーの視聴と振り返り①
第4回	第1日目の総括
第5回	「在宅医療」に関するドキュメンタリーの視聴と振り返り②
第6回	「認知症患者の在宅看護」に関するドキュメンタリーの視聴と振り返り②
第7回	「認知症患者の在宅看護」に関するドキュメンタリーの視聴と振り返り③
第8回	第2日目の総括、授業全体の総括

【試験・課題等の内容】

2日間それぞれに、授業を受けての感想と考察を記述して提出してもらう。

【評価方法】

上記の感想と考察を元に評価を行う。

【テキスト】

なし

【参考文献】

必要に応じて授業内で適宜呈示する。

【授業外における学修方法及び時間】

- ・関連しそうなことについての新聞やニュースを把握しておくこと。
- ・授業で取り上げた内容を、個人的経験や、今後実習等に参加した際の経験と照らし合わせてみること。

基礎分野

【科目】教育学	【単位数・時間】1単位（30時間）	
【担当講師】山田 裕司	【開講時期】2学期	【配当年次】1年
【所属・職位等】南九州大学 人間発達学部子ども教育学科	准教授	

【授業における到達目標】

本授業を通して、教育学の基礎的な知識を学ぶと共に、ひとを「教育」すること、ひとが「学ぶ」ことを支援するために必要な知識・技術を学びます。これらの知識・技能の学びを通して、年齢期やひとり一人に応じた教授法を身につけていきます。

具体的な到達目標は以下の通りです。

- (1). 乳幼児の発達の特徴を学ぶと共に、子どもたちの健康指導に係る講座の企画とその実施方法についての知識と技法を身につける。
- (2). 成人期における学び（リカレント教育、継続教育などの生涯学習）の特徴を学ぶと共に、成人を対象とした保健衛生に係る講座の企画とその実施方法についての知識と技法を身につける。
- (3). 生涯を通して学び続ける重要性について、生涯学習の視点から学ぶ。
- (4). 年齢期に応じた教授法について、その技術（教授法）を身につける。
- (5). 他科目（小児・成人看護等）との関連性を認識し、看護の専門的な知識の学びを深める。

【授業の概要】

本授業では、教育学の基礎的な知識に関する講義と、社会的課題となっている教育事象について講義を行います。基礎的な知識では、乳幼児教育と生涯学習・社会教育について中心的に行います。また、教育事象では、学生の皆さんが経験してきた学校教育や家庭教育、キャリア教育を題材とし、「なぜ、学校教育では〇〇に取り組んでいるのか」、「□□の教育的意味は何か」について講義していきます。

また、講義と同時並行で、乳幼児期と成人期を対象とした講座の企画にも取り組みます。対象となる年齢期の特徴を踏まえた講座を企画し実施することを通して、自らが調べた/知っている知識や情報を伝える技法について学んでいきます。なお、講座の企画はグループワークを通して行うため、協調性やリーダーシップといった能力の育成も図っていきます。

【アクティブ・ラーニング】

本講義では学生の主体性を育むために、講義では一方的に話を進めるのではなく、学生が考えて発言する機会を積極的に取り入れます。また、グループで講座の企画に取り組むことにより、協調性やリーダーシップ、傾聴力などのコンピテンシー能力の育成を図ります。さらに、グループ発表では、発表者は自己評価とグループ評価を行うと共に、聞いている学生は他者評価を行うことで、能動的な学修の推進を図っています。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	教育学の基礎：学校教育と教育問題 （講義を中心に、学校教育制度について学びます）
第2回	幼児教育の基礎：保育所、幼稚園、認定こども園 （講義を中心に、保育・幼児教育制度について学びます）
第3回	世界の幼児教育と幼児教育講座の説明 （レジャエミリア教育など、世界の幼児教育について講義すると共に、幼児教育講座の企画について解説します）

回数	内容（方法）
第4回	幼児期の遊びと、幼児教育講座の企画（1） （前半は幼児教育に関する講義、後半はグループワークを行います）
第5回	幼児期の年齢別特徴と、幼児教育講座の企画（2） （前半は幼児教育に関する講義、後半はグループワークを行います）
第6回	愛着と自己肯定感と、幼児教育講座の企画（3） （前半は幼児教育に関する講義、後半はグループワークを行います）
第7回	保育・幼児教育施設的环境と、幼児教育講座の企画（4） （前半は幼児教育に関する講義、後半はグループワークを行います）
第8回	幼児教育講座の発表（1） （企画した講座を発表すると共に、発表しない学生は他者評価を行います）
第9回	幼児教育講座の発表（2） （企画した講座を発表すると共に、発表しない学生は他者評価を行います。また、発表後は、個人及びグループにて振り返りを行います）
第10回	生涯学習・社会教育という学びと、生涯学習講座の説明 （学校卒業後の「社会人の学び」について講義すると共に、生涯学習講座の企画について解説します）
第11回	教科書制度と、生涯学習講座の企画（1） （前半は生涯学習に関する講義、後半はグループワークを行います）
第12回	リカレント教育・継続教育と、生涯学習講座の企画（2） （前半は生涯学習に関する講義、後半はグループワークを行います）
第13回	学校教育における生きる力と、生涯学習講座の企画（3） （前半は生涯学習に関する講義、後半はグループワークを行います）
第14回	生涯学習講座の発表（1） （企画した講座を発表すると共に、発表しない学生は他者評価を行います）
第15回	生涯学習講座の発表（2） （企画した講座を発表すると共に、発表しない学生は他者評価を行います。また、発表後は、個人及びグループにて振り返りを行います）

【試験・課題等の内容】

試験はレポートにて評価します。具体的な試験問題は、最終授業後に提示します。

なお、本授業では教科書を指定しないため、授業中に配付した資料や授業中の解説をメモするようにしてください。試験問題はこの範囲から出題します。

【評価方法】

試験の成績、グループワーク（企画・取組・発表・自己評価）にて評価します。

- ・試験の成績：70%
- ・グループワーク：30%

【テキスト】

必要に応じて資料を配付します。

【参考文献】

必要に応じて文献・資料を紹介します。

【授業外における学修方法及び時間】

予習・復習課題を提示します。予習課題は次回の授業時までには調べるようにしてください。

また、復習にあたっては、次の点に留意してください。

- ・ 小児保健、成人看護など、看護学の専門科目をしっかりと学び、復習してください。教育学にて学ぶ内容と関連しています。
- ・ 教育学に関わる教育事象はニュースや新聞などで取り上げられることが多いです。子ども、学校などのキーワードを基に、ニュースや新聞を読んでください。

基礎分野

【科目】基礎看護英語	【単位数・時間】1単位（30時間）
【担当講師】西村 德行	【開講時期】通年
【所属・職位等】都城工業高等専門学校一般科目名誉教授	【配当年次】1年

【授業における到達目標】

- ・看護に必要な英語の意味が分かる。
- ・看護に必要な英語表現が使えるようになる。
- ・看護に関する英語文献を読んで理解できる。

【授業の概要】

- ・毎回の授業で「はじめての看護英語」の既習の語句・表現に関して復習テストを実施する。
- ・「看護系学生のための総合英語」については、与えられた英語の文章を一定時間内に読んで、内容を把握する練習を実施する。

【アクティブ・ラーニング】

- ・「看護系学生のための総合英語」の読解練習では、二人ずつペアになって、与えられた内容把握の問題を考えていく。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	「はじめての看護英語」第1回 「看護系学生のための総合英語」Unit1
第2回	「はじめての看護英語」第2回 復習テスト第1回 「看護系学生のための総合英語」Unit2
第3回	「はじめての看護英語」第3回 復習テスト第2回 「看護系学生のための総合英語」Unit3
第4回	「はじめての看護英語」第4回 復習テスト第3回 「看護系学生のための総合英語」Unit4
第5回	「はじめての看護英語」第5回 復習テスト第4回 「看護系学生のための総合英語」Unit5
第6回	「はじめての看護英語」第6回 復習テスト第5回 「看護系学生のための総合英語」Unit6
第7回	復習テスト第6回 「看護系学生のための総合英語」まとめ
第8回	中間試験 「はじめての看護英語」第7回
第9回	「はじめての看護英語」第8回 復習テスト第7回 「看護系学生のための総合英語」Unit7
第10回	「はじめての看護英語」第9回 復習テスト第8回 「看護系学生のための総合英語」Unit8
第11回	「はじめての看護英語」第10回 復習テスト第9回 「看護系学生のための総合英語」Unit9
第12回	「はじめての看護英語」第11回 復習テスト第10回 「看護系学生のための総合英語」Unit10

回数	内容（方法）
第 13 回	「はじめての看護英語」第 1 2 回 復習テスト第 1 1 回 読解練習問題（1）
第 14 回	「はじめての看護英語」復習テスト第 1 2 回 読解練習問題（2）、「看護系学生のための総合英語」まとめ
第 15 回	最終試験

【試験・課題等の内容】

- ・「はじめての看護英語」：毎回配布する練習問題より選択して出題する。
- ・「看護系学生のための総合英語」：教科書の問題と毎回配布する練習問題より選択して出題する。

【評価方法】

毎回実施する復習テスト・中間試験・最終試験の結果を総合的に評価する。

【テキスト】

- ・はじめての看護英語 医学書院
- ・English for Nursing Students 看護系学生のための総合英語 南雲堂

【授業外における学修方法及び時間】

毎回実施する復習テストの学習に 1 時間程度要する

基礎分野

【科目】看護英会話	【単位数・時間】1単位（30時間）
【担当講師】川北 直子	【開講時期】通年 【配当年次】2年
【所属・職位等】宮崎県立看護大学看護学部 教授	

【授業における到達目標】

- 【1】研究 (research)手法(method)の1つであるアンケート調査(questionnaire survey)の基本的な手順(procedure)を理解し、調査計画(research plan)から発表(presentation)までを体験する。
- 【2】異なる文化的背景(cultural background)を持つ対象をとらえるために必要な視点を理解する。
- 【3】（【1】【2】の学習を通して）英語の語彙を増やし、主に「話す」・「聞く」ことに慣れる。

【授業の概要】

- 【1】英語での口頭での(oral)アンケート調査(questionnaire survey)
 - ・調査参加者(participants)に合ったグループテーマ(theme, topic)を設定する
 - ・聴き取り調査(interview)で必要な情報を相手から引き出し、答えやすいようサポートする。
 - ・調査結果(results)にもとづいた分析(analysis)内容を、英語で発表(presentation)する。
- 【2】異文化理解(cross-cultural understanding)
 - ・異なる生活文化についての短い講義(lecture)を聴き、「看護学生的」情報分類について考える。
 - ・グループで調べ学習を行い、報告(report)する。

【アクティブ・ラーニング】

グループ学習を中心に進めます。1人1人が責任を持って、意見交換・調査・分析・発表などにしっかりと貢献しましょう。「あきらめずに理解しようとする」「あきらめずに伝えようとする」姿勢が重要です。わからないときには遠慮なく質問しましょう。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	Self-introduction / assessment test Introduction to oral questionnaire survey, Survey group making
第2回	Group making, Topic setting & planning
第3回	Oral questionnaire survey (preparation & pilot study)
第4回	Oral questionnaire survey (interview)
第5回	Oral questionnaire survey (interview continued)
第6回	Oral questionnaire survey (interview continued), Summing up survey results
第7回	Summing up survey results, analysis
第8回	Analysis, making slides and preparing for presentation
第9回	Preparing for presentation, Presentation

回数	内容（方法）
第 10 回	Presentation
第 11 回	Introduction to 'Cross-cultural understanding for nursing students', group making
第 12 回	Group research
第 13 回	Group research
第 14 回	Preparing for group report
第 15 回	Group report

【試験・課題等の内容】

期末試験のかわりに 2 回のグループ発表を行います。
必要に応じて、小テスト・課題の提出を求めます。

【評価方法】

発表・(35pt x 2 回), 授業・グループ学習への貢献(20pt), 提出物 + journal (10pt)

【テキスト】

プリント等で配布します

【参考文献】

辞書必携。電子辞書・携帯アプリ（種類は指定し、希望者は授業中にダウンロードします）は可。
翻訳ソフト・ライン辞書は使用禁止。

【授業外における学修方法及び時間】

隔週で授業を行いますので、次回までに必要な準備学習や練習をその都度指示します。

基礎分野

【科目】生涯スポーツ論	【単位数・時間】1単位（15時間）
【担当講師】榮樂 洋光	【開講時期】第1学期
【所属・職位等】国立大学法人鹿屋体育大学	【配当年次】1年
スポーツ・武道実践科系	講師

【授業における到達目標】

健康の保持増進や楽しみを目的とする生涯スポーツの意義を理解する。また、様々な尺度や計算方法を使用し指標を知るとともに、運動による心身への効果を理解できるようになる。

【授業の概要】

健康の保持増進や楽しみを目的とする生涯スポーツの意義を理解する。また、様々な運動による心身への効果について学び、実践を通じた効果についても学んでいく。

【アクティブ・ラーニング】

小テスト・アンケートの実施 授業実践前後によるグループ・全体トークの実施

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	運動が健康に及ぼす影響について知る 体力とは、体力の定義
第2回	運動が健康に及ぼす影響について知る POMS 尺度を用いた運動の効果
第3回	有酸素運動と無酸素運動 運動の種類について知る
第4回	有酸素運動と無酸素運動 よい有酸素運動とは
第5回	健康に良いスポーツとは 適度な運動強度について知る
第6回	体力と健康の関係
第7回	疲労の防止法
第8回	肥満とその解消方法

【試験・課題等の内容】

レポート課題を与えます。書式を揃えて提出してください。

【評価方法】

授業への出席および取り組み状況（60点）、レポート（30点）により評価します

【テキスト】

適宜、配布します。

【参考文献】

適宜、紹介します。

【授業外における学修方法及び時間】

各回のふり返し学習を実施し（与えられたテーマについて）、生涯スポーツの理解を深める（各回1時間）

基礎分野

【科目】スポーツ実技	【単位数・時間】1 単位（30 時間）	
【担当講師】榮樂 洋光	【開講時期】第 1 学期	【配当年次】2 年
【所属・職位等】国立大学法人鹿屋体育大学	スポーツ・武道実践科系	講師

【授業における到達目標】

様々なスポーツ種目の特徴を理解し、ルールやマナーを守って楽しむ実技を目指す。そのためにも準備や片付け等についても、協力しながら実践してく。また、身体を動かすことによる心身に及ぼす影響への理解を深めていく。

【授業の概要】

様々な種類のスポーツを通して、スポーツが身体に及ぼす影響への理解を深めていく。また、体育館や公共施設の使用など、使用場所や環境に応じたルールやマナーを理解していく。更にはスポーツを通して仲間とのコミュニケーション作りについても深めていく。

【アクティブ・ラーニング】

小テスト・アンケートの実施 授業実践前後によるグループ・全体トークの実施

【授業計画】

回数	内容（方法）
第 1 回	体育館を活用したスポーツ①
第 2 回	体育館を活用したスポーツ①
第 3 回	体育館を活用したスポーツ②
第 4 回	体育館を活用したスポーツ②
第 5 回	体育館を活用したスポーツ③
第 6 回	体育館を活用したスポーツ③
第 7 回	テニスとソフトテニスの基礎から応用
第 8 回	テニスとソフトテニスの基礎から応用
第 9 回	障がい者スポーツの紹介と実践、イニシアティブゲームの紹介と実践
第 10 回	障がい者スポーツの紹介と実践、イニシアティブゲームの紹介と実践
第 11 回	ゴルフ（練習場における打球、マナー）の実践
第 12 回	ゴルフ（練習場における打球、マナー）の実践
第 13 回	体育館を活用したスポーツ④
第 14 回	体育館を活用したスポーツ④
第 15 回	体育館を活用したスポーツ④

【試験・課題等の内容】

最終回にレポート課題を与えます。書式を揃えて提出してください。

【評価方法】

授業への出席および取り組み状況（70 点）とレポート評価（30 点）により評価します。

【テキスト】

適宜、資料配付します。

【参考文献】

適宜、紹介します。

【授業外における学修方法及び時間】

各回のふり返し学習（種目、ルール等の学び、）を実施し、実践種目への理解を深める（各回 1 時間）

専門基礎分野

【科目】解剖生理学Ⅰ

【単位数・時間】2単位(45時間)

【担当講師】駒田直人¹⁾ 小森 宏之²⁾ 阿南隆一郎³⁾ 斎藤朗毅⁴⁾ 澤口朗⁵⁾

【開講時期】第1学期

【配当年次】1年

【所属・職位等】

1)都城医療センター副院長 2)都城医療センター外科医長

3)都城医療センター臨床研究部長 4)都城医療センター泌尿器科医師

5)国立大学法人宮崎大学医学部解剖学講座

【授業における到達目標】

正常な人体の細胞・組織・器官の構造を理解する。

【授業の概要】

正常な人体の細胞、組織、器官の構造と機能及び各機能を関連づけて教授する。

【アクティブ・ラーニング】

事前学習を行い、授業で自発的に質疑する。

【授業計画】

回数	内容・方法	講師	備考
第1回～ 第2回	1. 解剖生理学を学ぶための基礎知識 1)人体の素材としての細胞・組織 2)構造と機能からみた人体	駒田	
第3回～ 第4回	2. 老化のしくみ 3. 外部環境からの防御 1)皮膚の構造と機能 2)生体の防御機能 3)体温の調節機能		
第5回～ 第9回	2. 栄養の消化と吸収 1)口・咽頭・食道の構造と機能 (1)口・咽頭・食道の構造 (2)口・咽頭・食道の機能 2)腹部消化管の構造と機能 (1)胃・小腸・大腸の構造 (2)胃における消化 (3)小腸における消化 (4)栄養素の消化と吸収 3)膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能	小森	
第10回～ 第13回	4. 呼吸と血液のはたらき 1)呼吸器の構造と機能 (1)上気道 (2)下気道と肺 (3)胸膜・縦隔 2)内呼吸と外呼吸 3)呼吸運動 4)呼吸器量 5)ガス交換とガス運搬 6)肺の循環と血流 7)換気障害と拡散障害 8)血液の組成と機能		

回数	内容・方法	講師	備考
第14回～ 第18回	5. 血液の循環とその調節 1) 心臓の構造 2) 心臓の拍出機能 (1) 心臓の興奮とその伝播 (2) 心電図 (3) 心臓の収縮 2) 末梢循環系の構造 (1) 血管の構造 (2) 肺循環の血管 (3) 体循環の動脈 (4) 体循環の静脈 3) 血液循環の調節 (1) 血圧 (2) 血液の循環 (3) 血圧・血流量の調節 (4) 微小循環 4) リンパとリンパ管 (1) リンパ管の構造 (2) リンパの循環	阿南	
第19回～ 第20回	6. 体液の調節と尿の生成 1) 腎臓の構造と機能 2) 排尿路（尿管・膀胱・尿道）の構造と機能 3) 体液の調節 7. 生殖機能 1) 男性生殖器の構造と機能	斎藤	
第21回～ 第22回	8. 解剖学示説見学実習	澤口	校外授業

【科目関連及び進度について】

・微生物学や生化学の知識を基に本科目につなげ、さらに看護技術の学習進度を踏まえて授業計画を立案する。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院

【参考文献】

ステップアップ解剖生理学ノート（サイオ出版）
からだの地図帳 講談社

【授業外における学修方法及び時間】

・毎回1時間程度の事前学習、事後学習を要する。ナーシングチャンネルの視聴を含む。

専門基礎分野

【科目】解剖生理学Ⅱ	【単位数・時間】2 単位 (45 時間)
【担当講師】吉住秀之 ¹⁾ 外山勝浩 ²⁾ 高橋重文 ³⁾ 石井隆雄 ⁴⁾ 古川教恵 ⁵⁾ 田中治成 ⁶⁾	
【開講時期】第 1 学期	【配当年次】1 年
【所属・職位等】1) 都城医療センター病院長・都城医療センター附属看護学校学校長 2) 都城医療センター耳鼻咽喉科部長 3) 宮田眼科医師 4) 都城医療センター内科医師 5) 都城医療センター整形外科医長 6) 都城医療センター産科医師	

【授業における到達目標】

正常な人体の細胞・組織・器官の構造と機能および各機能の関連性を理解する。

【授業の概要】

正常な人体の細胞、組織、器官の構造と機能及び各機能を関連づけて教授する。

【アクティブ・ラーニング】

事前学習を行い、授業で自発的に質疑する。

【授業計画】

回数	内容・方法	担当講師	備考
第 1 回	1. 神経系の構造と機能 1) 神経細胞と支持細胞 2) ニューロンでの興奮の伝導 3) シナプスでの興奮の伝導	吉住	
第 2 回	2. 脊髄と脳 1) 脊髄の構造と機能 2) 脳の構造と機能		
第 3 回	3. 脊髄神経と脳神経 1) 脊髄神経の構造と機能 2) 脳神経の構造と機能		
第 4 回	4. 脳の高次機能 1) 脳波と睡眠 2) 記憶 3) 本能行動と情動行動 4) 内臓調節機能 5) 中枢神経系の障害		
第 5 回	5. 運動機能と下行伝導路		
第 6 回	6. 感覚機能と上行伝導路		
第 7 回	1. 耳の構造 1) 外耳 2) 中耳 3) 内耳 2. 聴覚 1) 中耳の役割 2) 内耳での感音機構 3) 聴力の検査 3. 平衡感覚 1) 三半規管と耳石器 2) 眼振 (ニスタグムス)	外山	
第 8 回	4. 外気道 1) 鼻 (外鼻、鼻腔、副鼻腔) 2) 咽頭 3) 喉頭 4) 発声と構音 5. 嗅覚と味覚 1) 嗅覚器 (鼻) の構造と機能 2) 味覚器 (舌) の構造と機能		
第 9 回	1. 眼球の構造 2. 眼球附属器 1) 眼筋 2) 眼瞼および結膜 3) 涙器	高橋	
第 10 回	3. 視覚 1) 調節と屈折 2) 視細胞と視物質 3) 網膜での情報処理 4) 色覚 5) 暗順応と明順応 6) 視力と視野 7) 瞳孔と対光反射		
第 11 回	1. 自律神経による調節 1) 自律神経の構造と機能 2. 内分泌系による調節 1) 内分泌とホルモン 2) ホルモンの化学構造と作用機序	石井	

回数	内容・方法	担当講師	備考
第12回	3. 全身の内分泌腺と内分泌細胞 1) 視床下部－下垂体系 2) 甲状腺と副甲状腺 3) 膵臓 4) 副腎 5) 性腺 6) その他の内分泌腺		
第13回	4. ホルモン分泌の調節 1) 神経性調節 2) 物質の血中濃度による自己調節 3) 促進・抑制ホルモンによる調節 4) 負のフィードバック 5) 正のフィードバック		
第14回	5. ホルモンによる調節の実際 1) ホルモンによる糖代謝の調節 2) ホルモンによるカルシウム代謝の調節 3) ストレスとホルモン 4) 乳房の発達と乳汁分泌 5) 高血圧をきたすホルモン		
第15回	1. 骨格とは 1) 人体の骨格 2) 骨の形態と構造 3) 骨の組織と組成 4) 骨の発生と成長 5) 骨の生理的な機能	吉川	
第16回	2. 骨の連結 1) 関節 (1) 関節の一般構造 (2) 関節の正常と可動性 (3) 関節運動の障害 2) 不動性の連結		
第17回	3. 骨格筋 1) 骨格筋の構造 2) 骨格筋の作用 3) 骨格筋の神経支配 4. 体幹の骨格と筋 1) 脊柱 2) 胸郭 3) 背部の筋 4) 胸部の筋 5) 腹部の筋		
第18回	5. 上肢の骨格と筋 1) 上肢帯の骨格 2) 自由上肢の骨格 3) 上肢帯の筋群 4) 上肢の筋群 5) 前腕の筋群 6) 手の筋群 7) 上肢の運動		
第19回	6. 下肢の骨格と筋 1) 下肢帯と骨盤 2) 自由下肢の骨格 3) 下肢帯の筋群 4) 大腿の筋群 5) 下腿の筋群 6) 足の筋 7) 下肢の運動		
第20回	7. 頭頸部の骨格と筋 1) 神経頭蓋 2) 内臓頭蓋 3) 頭部の筋 4) 頸部の筋 8. 筋肉の収縮 1) 骨格筋の収縮機構 2) 骨格筋収縮の種類と特性 3) 不随意筋の収縮の特徴		
第21回	1. 女性生殖器の構造と機能 1) 卵巣 2) 卵管・子宮・膣 3) 外陰部・会陰部 4) 乳腺 5) 女性の生殖機能	田中	
第22回	2. 受精と胎児の発生 1) 生殖細胞と受精 2) 初期発生と着床 3) 胎児と胎盤 (1) 胎盤と臍帯 (2) 生殖器の分化と発達 (3) 妊娠中の母体の変化 (4) 分娩 (5) 胎児の血液循環		

【科目関連及び進度について】

・微生物学や生化学の知識を基に本科目につなげ、さらに看護技術の学習進度を踏まえて授業計画を立案する。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院

【参考文献】

ステップアップ解剖生理学ノート（サイオ出版）
ナーシング・サブリエイメージできる解剖生理学（メディカ出版）
からだの地図帳 講談社

【授業外における学修方法及び時間】

- ・ 毎回 1 時間程度の事前学習、事後学習を要する。ナーシングチャンネルの視聴を含む。

専門基礎分野

【科目】	生化学	【単位数・時間】	1 単位・30 時間(15 回)		
【担当講師】	高橋 利幸	【開講時期】	後期(9 月～)	【配当年次】	1 年
【所属・職位等】	都城工業高等専門学校物質工学科 准教授				

【授業における到達目標】

生体物質の基礎的知識とその物質代謝について理解する。

【授業の概要】

生命の維持のために必要な人体の細胞レベルでの物質代謝の基礎的な知識を学ぶ。また、本科目での学習内容を栄養学や各病態学における学習につなげる。

【アクティブ・ラーニング】

授業においては、関連する科目（解剖生理学、栄養学）などを想起しながら理解する。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
第1回	生体の成り立ち生体分子	高橋	
第2回	タンパク質の性質		
第3回	酵素の性質と働き		
第4回	糖質の代謝		
第5回	脂質の代謝		
第6回	アミノ酸およびタンパク質の代謝		
第7回	核酸の役割		
第8回	ホルモン		
第9回	ビタミン		
第10回	内部環境の恒常性（ホメオスタシス）		
第11回	消化・吸収と栄養価		
第12回	体液		
第13回	血液		
第14回	尿		
第15回	免疫系・運動系・消化器系		
	終了試験		

【科目関連及び進度について】

生化学の知識から病理学、栄養学・薬理学につながる科目である。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

わかりやすい生化学（別冊ノート付）第5版 ヌーベルヒロカワ

【参考文献】

ナーシング・サプリ イメージできる生化学・栄養学（メディカ出版）

【授業外における学修方法及び時間】

毎回1時間程度の事前学習、事後学習を要する。

【科目】栄養学
【単位数・時間】1 単位・15 時間
【担当講師】宮永 朋子
【開講時期】後期 【配当年次】1 年次
【所属・職位等】都城医療センター栄養管理室長

人体に必要な栄養素とその働きおよび健康状態に応じた栄養摂取の方法を学ぶ。

解剖生理学及び生化学で学習した知識をもとに、人間が発育・成長し、健全な生活を営むために必要な栄養の基礎を学ぶ。また、健康障害により栄養管理を必要とする人に対する臨床栄養や管理、栄養サポートチームについても学習する。

授業においては、関連する科目（看護技術Ⅲ：食事）を想起しながら、栄養管理を必要とする人の看護へと発展していく。

回数	内容（方法）	講師	備考
第1回	1. 栄養学と看護 1) 栄養とは 3) 保健医療における栄養学 2) 栄養素と人間の栄養状態 4) 看護と栄養		週1回の 間隔
第2回	2. 栄養素の種類と働き 1) 糖質 2) 脂質 3) タンパク質 4) ビタミン 5) ミネラル 6) 食物繊維 7) 水 3. 食物の消化と栄養素の吸収・代謝 1) 食物の消化 2) 栄養素の吸収 3) 血漿成分と栄養素 4) 栄養素の代謝 5) 吸収・代謝産物の排泄		
第3回	4. エネルギー代謝 1) 食品のエネルギー 2) 体内のエネルギー 3) エネルギー代謝の測定 4) エネルギー消費		
第4回	5. 食事と食品 6. ライフステージと栄養		
第5回	7. 臨床栄養 1) 病院食 2) 経腸栄養製品 3) 疾患・症状別食事療法 (1) 糖尿病患者患者の食事療法 (2) 腎臓病患者の食事療法 (3) 摂食・嚥下障害患者の食事療法		
第6回	7. 臨床栄養 1) 場面別の栄養管理 (1) 術前・術後の栄養管理 ①胃切除後②人工肛門造設後（大腸切除後） (2) がんの食事療法		
第7回	8. 健康づくりと食生活 9. 栄養サポートチーム（NST） 1) NSTの機能と役割 2) NSTにおける看護師の役割		
第8回	終了試験		

【科目関連及び進度について】

前期に看護技術Ⅲ（食事）に食事の目的、食事援助について学習する。生化学の開講後に開始。

【試験・課題等の内容】

授業で学習した内容から出題する。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

系統看護学講座専門基礎分野 人体の構造と機能〔3〕栄養学 医学書院
糖尿病食事療法のための食品交換表 第6版 日本糖尿病協会・文光堂

【参考文献】

ナーシング・サブリ イメージできる生化学・栄養学（メディカ出版）

【授業外における学修方法及び時間】

毎回1時間程度の事前学習、事後学習を要する。

専門基礎分野

【科目】微生物学	【単位数・時間】1単位・30時間
【担当講師】後藤義孝	【開講時期】前期
【所属・職位等】国立大学法人宮崎大学農学部獣医学科名誉教授	【配当年次】1年

【授業における到達目標】

医療現場に必要な基礎知識として病原微生物はもとより、広く微生物の性状を理解し、多様化する感染症とその予防や診断、治療について学習することで質の高い看護を提供することを目指す。

【授業の概要】

看護者は、医療従事者媒介感染を起こさないための知識と技術、細心の注意と遵守が求められる。微生物が人体に影響を及ぼす影響を中心に、人体の免疫機能および感染症についての基本的な知識を教授する。

【アクティブ・ラーニング】

授業においては、関連する科目（病理学Ⅰ、病理学Ⅴ：感染症、看護技術Ⅳ：感染防止の技術）と関連させながら学習する。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
第1回～ 第2回	微生物とは 1) 微生物の性質 2) 微生物と人間 3) 予防接種、ワクチン、抗毒素	後藤	
第3回	細菌の性質 1) 形態と特徴 2) 培養環境と栄養 3) 遺伝 4) 分類 5) 常在細菌叢 真菌の性質 1) 形態と特徴 2) 増殖 3) 分類 4) 栄養と培養	後藤	
第4回	原虫の性質 1) 特徴と基本構造 2) 病原原虫の種類 ウィルスの性質 1) 特徴 2) 構造と各部分の機能 3) 増殖 4) 分類	後藤	
第5回	感染と感染症 1) 微生物感染の機構 2) 感染の成立から発症・治癒まで 3) 細菌感染の機構 4) 真菌感染の機構 5) 原虫感染の機構 6) ウイルス感染の機構	後藤	
第6回	感染源・感染経路からみた感染症 1) 経口感染 2) 経気道感染 3) 接触感染 4) 経皮感染 5) 母児感染	後藤	
第7回	感染に対する生体防御機構 1) 自然免疫のしくみ 2) 獲得免疫のしくみ 3) 粘膜免疫のしくみ 4) 感染の徴候と症状	後藤	
第8回	滅菌と消毒 1) バイオハザードとバイオセーフティー 2) 滅菌・消毒の意義と定義 3) 滅菌法 4) 濾過除菌 5) 消毒と消毒薬	後藤	

回数	内容（方法）	講師	備考
第 9 回	感染症の検査と診断 1) 病原体を検出する方法 2) 生体の反応から診断する方法	後藤	
第 10 回	感染症の治療 1) 化学療法の基礎 2) 各種化学療法薬	後藤	
第 11 回	病原細菌と細菌感染症 1 1) グラム陽性球菌 2) グラム陰性球菌 3) グラム陰性好気性桿菌 4) グラム陰性通性桿菌 5) カンピロバクター属	後藤	
第 12 回	病原細菌と細菌感染症 2 6) グラム陽性桿菌 7) 抗酸菌と放線菌 8) 嫌気性菌 9) スピロヘータ 10) マイコプラズマ 11) リケッチア目 12) クラミジア科	後藤	
第 13 回	病原真菌と真菌感染症 1) 深在性真菌症をおこす真菌 2) 深部皮膚真菌症をおこす真菌 3) 表在性真菌症をおこす真菌 病原原虫と原虫感染症 1) 根足虫類 2) 鞭毛虫類 3) 孢子虫類 4) 絨毛虫類	後藤	
第 14 回	病原ウイルスとウイルス感染症 1 1) RNA ウィルス	後藤	
第 15 回	病原ウイルスとウイルス感染症 2 2) DNA ウィルス 3) ウィルスの臨床的分類	後藤	

【科目関連及び進度について】

看護技術Ⅲ 感染防止の技術につながるよう先行して開講

【試験・課題等の内容】

講義で学習した内容から、試験を出題する。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進[4] 微生物学 医学書院

【授業外における学修方法及び時間】

毎回 1 時間程度の事前学習、事後学習を要する。

【科目】治療法総論

【単位数・時間】1 単位（30 時間）

【担当講師】横山幸三¹⁾ 中川かな子²⁾ 仮上 透³⁾ 加治屋芳樹⁴⁾ 駒田直人⁵⁾

【開講時期】第 2 学期

【配当年次】1 年時

【所属・職位等】1)横山全身管理センター 2)公益財団法人宮崎移植推進財団臓器移植コーディネーター
3)都城医療センター理学療法士長 4)都城医療センター画像診断センター長・放射線科部長 5)都城医療センター副院長

健康障害に対して行われる手術療法及び麻酔法について理解し、人体に及ぼす影響について理解する。

健康障害に対して行われる主要な治療の目的、種類、方法および治療が人体に及ぼす影響について理解する。

健康障害に対して行われるリハビリテーション療法について理解し、人体に及ぼす影響について理解する。

健康障害に対して行われる放射線療法について理解し、人体に及ぼす影響について理解する。

健康障害に対して行われる内視鏡的治療について理解し、人体に及ぼす影響について理解する

手術療法では、手術侵襲が生体に及ぼす影響を教授する。

術前・術中・術後管理について呼吸管理、輸液・輸血管理、栄養管理を含めた内容で教授する。

臓器移植では、移植の種類と移植に伴う心身への影響を学び、それを基礎に臓器移植における看護師の役割について学ぶ。

リハビリテーションの基本的な考え方を理解し、基礎看護学の看護技術Ⅰ（活動・体位・休息）と関連させながら教授する。

放射線療法の基本的な考え方や治療について教授する。

内視鏡的治療では、内視鏡検査および治療についての基本的な考え方を理解し、各病理学で学習する器官系統ごとの治療へとつなげていく。

解剖生理学や臨床看護総論（急性期の看護）想起しながら、臨床看護総論（治療を受ける患者の看護）および成人看護方法論Ⅱ（急性期の看護）へとつなげていく。

解剖生理学、Ⅰ・Ⅱ、病理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを想起しながら、学習する。

肺理学療法、介助方法や松葉杖の使用については、実践やグループ活動を通して学ぶ。

<放射線療法>

関連する科目（臨床看護総論：治療を受ける患者の看護）へつなげていく。

<内視鏡的治療>

解剖生理学Ⅰ（消化器系）や病理学Ⅲ（消化器系）を想起しながら、看護方法論および成人看護方法論へとつなげていく。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
1	外科的治療とは 手術侵襲と生体の反応 手術侵襲と麻酔の役割	横山	
2	麻酔法 術前管理・術中管理・術後管理	横山	
3	全身麻酔・局所麻酔	横山	
4	呼吸管理 体液管理	横山	
5	栄養管理 輸血療法	横山	
6	移植の分類、移植免疫と拒絶反応、臓器保存と再灌流障害 移植の臨床 臓器移植を受ける患者、家族の思い 臓器移植に対する提供者、家族の思い 脳死判定基準の改定に伴う最近の動向	中川	
7	リハビリテーションの概念 回復過程とリハビリテーション	仮上	
8	リハビリテーションの方法 不動・低活動の予防 活動の促進に向けた援助	仮上	
9	肺理学療法 摂食嚥下訓練	仮上	3回目は、実習室を使用
10	放射線とは 画像診断の役割 放射線治療の役割	加治屋	
11	X線診断の特徴と成り立ち CT検査の特徴と成り立ち MRI検査の特徴と成り立ち 核医学検査の特徴と成り立ち	加治屋	
12	放射線治療の原理 放射線治療の基礎 正常組織の有害反応 放射線治療の特徴と目的 照射法 IVR	加治屋	
13	内視鏡的治療の特徴 管腔内視鏡治療	駒田	手術療法が開始後に開講
14	体腔内視鏡手術	駒田	
15	画像ガイド下の治療	駒田	

【科目関連及び進度について】

病理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・臨床看護総論、成人看護方法論Ⅱにつながる内容の科目である。

【試験・課題等の内容】

試験は、学習した内容から出題する

【評価方法】

手術療法、放射線療法、内視鏡的治療を合わせて評価する。

筆記試験 100%

【テキスト】

＜手術療法＞＜臓器移植＞

系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院

＜リハビリテーション療法＞

看護学テキストシリーズ NiCE リハビリテーション看護 改訂第2版 南江堂

＜放射線療法＞

系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院

＜内視鏡的治療＞

系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院

【参考文献】

成人看護学 急性期看護Ⅰ 南江堂

成人看護学 急性期看護Ⅱ 南江堂

【授業外における学修方法及び時間】

毎回1時間程度の事前学習、事後学習を要する。

専門基礎分野

【科目】病理学Ⅰ 【単位数・時間】1単位 30時間
 【担当講師】駒田 直人¹⁾ 斎藤朗毅²⁾
 【開講時期】通年 【配当年次】1年
 【所属・職位等】1) 都城医療センター副院長 2) 都城医療センター泌尿器科医師

【授業における到達目標】

- ・人体における病的状態の原因、発生機序、経過について理解する。
- ・腎・泌尿器系統の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。

【授業の概要】

本授業では、解剖生理学の知識をふまえ、炎症や循環障害、腫瘍など臓器の違いをこえて共通にみられる病気の原因や病気の成り立ちについて教授する。その後、腎・泌尿器系の代表的疾患の原因・特徴・病理的変化や反応について教授する。

【アクティブ・ラーニング】

事前学習を行い、授業で自発的に質疑を行う。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
	病理学総論		
第1回	1. 病理学の領域 1) 看護と病理学 2) 病気の原因	駒田	
第2回	2. 細胞・組織の傷害と修復 1) 細胞の損傷と適応 2) 組織の修復と創傷治癒		
第3回	3. 炎症と免疫 1) 炎症とその分類 2) 免疫と免疫不全 3) アレルギーと自己免疫疾患		
第4回	4. 感染症 1) 感染と宿主の防御機構 2) おもな病原体と感染症 3) 感染症の治療と予防		
第5回	5. 代謝障害 1) 脂質代謝障害 2) タンパク質代謝障害 3) 糖尿病 4) その他の代謝障害		
第6回	6. 老化と死 1) 個体の老化と老年症候群 2) 加齢に伴う諸臓器の変化 3) 個体の死と終末期医療		
第7回	7. 先天異常と遺伝子異常 1) 先天異常 2) 遺伝子の異常と疾患 3) 先天異常・遺伝子異常の診断と治療		

第 8・9 回	8. 腫瘍 1) 腫瘍の定義と分類 2) 悪性腫瘍の広がりと影響 3) 腫瘍の発生病理 4) 腫瘍の診断と治療 5) 腫瘍の統計		
第 10・11 回	9. 乳腺の疾患 まとめ		
	腎・泌尿器系		
第 12 回	1. 慢性腎臓病・腎不全 1) 症状 2) 腎機能検査・尿検査 3) 薬物療法・食事療法・生活指導・透析療法 腎移植	斎藤	本科目第 3 回終了後から第 12 回以降内容を開講する
第 13 回	2. 腎炎・膀胱炎 1) 症状 2) 血液検査・腎生検・尿検査 3) 安静療法・食事療法・薬物療法		
第 14 回	3. 腎・尿路結石 1) 症状 2) 画像検査 3) ESWL・TUR・PNL など		
第 15 回	4. 腎がん・尿管がん・膀胱がん 1) 症状 2) 膀胱鏡検査・排泄性腎盂造影・超音波検査・尿細胞診・経尿道的生検 3) 回腸導管造設術・放射線療法など		

【科目関連及び進度について】

解剖生理学 I 第 1.2 回の終了後に、本科目第 1 回を開講する。

解剖生理学 I 第 19.20 回「体液の調節と尿の生成」の終了後に、本科目第 12 回～15 回を開講する。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進[1] 病理学 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器 医学書院

【参考文献】

ナーシング・サブリ イメージできる病態生理学（メディカ出版）

【授業外における学修方法及び時間】

ナーシングチャンネルの視聴も併用し、授業前後に 1 時間程度の学習を要する。

専門基礎分野

【科目】病理学Ⅱ	【単位数・時間】1 単位 30 時間
【担当講師】今津善史 ¹⁾ 剣田昌伸 ²⁾	
【開講時期】第 2 学期	【配当年次】1 年
【所属・職位等】1)都城医療センター呼吸器内科医長 2)都城医療センター循環器内科部長	

【授業における到達目標】

呼吸器系および循環器系の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。

【授業の概要】

本授業では、解剖生理学の知識をふまえ、呼吸器系・循環器系の代表的な疾患の原因・特徴・病理的变化や反応について教授する。

【アクティブ・ラーニング】

事前学習を行い、授業で自発的に質疑する。

【授業計画】

回数	内容・方法	担当講師	備考
第 1 回	1. 呼吸器感染症 1) 肺炎 (1) 症状と病態生理、分類、種類 (2) 主な検査 (3) 主な治療法：薬物療法、予防接種 2) インフルエンザ (1) 症状と病態生理、感染経路 (2) 主な検査：咽頭ぬぐい液・鼻腔ぬぐい液検査 (3) 主な治療法：薬物療法、予防接種	今津	週に 1 回のペースで講義を計画する。
第 2 回	2. 気道疾患 1) 気管支喘息 (1) 症状と病態生理、発作の種類 (2) 主な検査：呼吸機能検査、血液検査 (3) 主な治療法：薬物療法、吸入 2) 気管支拡張症 (1) 症状と病態生理 (2) 主な検査：胸部 X 線検査、胸部 CT (3) 主な治療法：薬物療法、吸入療法、酸素療法、禁煙		
第 3 回	3. 慢性閉塞性肺疾患 1) 症状と病態生理 2) 主な検査：胸部 CT、呼吸機能検査 3) 主な治療：禁煙、薬物療法、呼吸リハ、在宅酸素療法		
第 4 回	4. 肺腫瘍 1) 肺癌 (1) 症状と病態生理、分類 (2) 主な検査 (3) 主な治療法：外科療法、放射線療法、化学療法		
第 5 回	5. 間質性肺炎 1) 主な症状と病態生理 2) 主な検査：胸部 CT、呼吸機能検査 3) 主な治療法：化学療法		
第 6 回	6. 肺結核 1) 症状と病態生理、感染経路、病型 2) 主な検査：胸部 X 線検査、胸部 CT、喀痰検査、抗酸菌検査 3) 主な治療法：化学療法 4) 院内感染対策と予防 7. 自然気胸 1) 症状と病態生理、種類 2) 主な検査：胸部 X 線検査、胸部 CT 3) 主な治療法：外科療法		

回数	内容・方法	担当講師	備考
第7回	8. 過換気症候群 1) 症状と病態生理 2) 主な治療法 9. 睡眠時無呼吸症候群 1) 症状と病態生理 2) 主な検査：ポリソムノグラフィー 3) 主な治療法		
第8回	1. 虚血性心疾患 1) 狭心症 (1) 症状と病態生理、分類 (2) 主な検査：心電図、運動負荷心電図、心エコー (3) 主な治療法：薬物療法、経皮的冠状動脈インターベンション	剣田	週に1回のペースで講義を計画する。
第9回	1. 虚血性心疾患 2) 心筋梗塞 (1) 症状と病態生理、合併症 (2) 主な検査：心電図、心臓マーカー、心エコー、心臓カテーテル検査 (3) 主な治療法：再灌流療法（PCI、CABG、血栓溶解療法） リハビリテーション		
第10回	2. 心不全 1) 症状と病態生理と分類、合併症 2) 主な検査：胸部X線検査、心電図、心エコー、BNP測定 3) 主な治療法：薬物療法、補助循環装置		
第11回	3. 血圧異常 1) 症状と病態生理、基準と分類 2) 主な治療法：薬物療法、生活習慣への指導		
第12回	4. 不整脈 1) 症状と病態生理と種類 2) 主な検査：心電図、ホルター心電図 3) 主な治療法：薬物療法、ペースメーカー植え込み、植込み型除細動器、カテーテルアブレーション		
第13回	5. 弁膜症 1) 症状と病態生理と種類 2) 主な検査：胸部X線検査、心電図、心エコー 3) 主な治療法：薬物療法、手術療法		
第14回	6. 動脈系疾患 1) 大動脈解離 (1) 症状と病態生理と分類 (2) 主な検査：胸部X線検査、大動脈造影、CT (3) 主な治療法：薬物療法、手術療法		
第15回	7. 静脈系疾患 1) 深部静脈血栓症 (1) 症状と病態生理 (2) 主な検査：下肢静脈造影 (3) 主な治療法：抗凝固療法、静脈血栓摘出術 傘型フィルターによる下大静脈遮断術 2) 肺塞栓症		

回数	内容・方法	担当講師	備考
	(1) 症状と病態生理と種類 (2) 主な検査 (3) 主な治療法：血栓溶解、抗凝固療法、血栓破砕吸引療法		
	終了試験		

【科目関連及び進度】

解剖生理学Ⅰ（呼吸器系）、解剖生理学Ⅰ（循環器系）で学んだ知識と関連させて、呼吸器や循環器における疾患、症状、検査、治療について学ぶ。なお、本科目における知識は、専門分野Ⅱにおける看護で活用していく。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

筆記試験（配点：100点）＊循環器系は中間試験及び終了試験の結果をもって評価する。

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器 医学書院

【参考文献】

ナーシング・サプリ イメージできる病態生理学（メディカ出版）

【授業外における学修方法及び時間】 ※15時間（900分）

1. 呼吸器、循環器に関するナーシングチャンネル視聴
2. 呼吸器疾患、循環器疾患の病態・症状・検査・治療の理解を深めるための学習

専門基礎分野

【科目】病理学Ⅲ 【単位数・時間】1 単位 30 時間

【担当講師】小森宏之¹⁾ 加藤順也²⁾ 徳永修一³⁾

【開講時期】第 2 学期 【配当年次】1 年

【所属・職位等】

1) 都城医療センター外科医長 2) 都城医療センター栄養管理部長

3) 都城医療センター産婦人科医長

【授業における到達目標】

消化器系、生殖器系、内分泌系の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。

【授業の概要】

講義をとおして知識を深める解剖生理学の知識をふまえ、病態、症状、検査、治療について教授する。

【アクティブ・ラーニング】

解剖生理学の知識を想起しながら理解し、看護方法論へと発展させる。

事前学習を行い、授業で自発的に質疑する。

【授業計画】

回数	内容・方法	担当講師	備考
第 1 回 第 2 回	1. 食道・胃の疾患 1) 食道アカラシア、胃食道逆流症 2) 胃・十二指腸潰瘍 胃炎 3) 食道がん、胃がん 2. 主な検査及び治療法 1) 上部消化管内視鏡検査 2) 上部消化管造影 3. 主な治療法 1) 食道再建術 2) 内視鏡的ポリープ切除術 3) ピロリ菌除菌治療 4) 胃切除術 5) 胃全摘術		週に 1 回のペースで講義を計画する。
第 3 回 第 4 回	1. 腸・腹膜の疾患と病態生理 1) 大腸がん（結腸・直腸・直腸） 2) イレウス 3) 過敏性腸症候群、潰瘍性大腸炎、 4) クローン病 4) 虚血性大腸炎、腹膜炎（急性・慢性）、虫垂炎 5) ヘルニア、憩室炎 2. 主な検査法 3. 主な治療法 1) 手術療法 2) 人工肛門造設術		
第 5 回	1. 肝臓の疾患 1) 肝炎（急性・慢性）2) 肝硬変、門脈圧亢進症、肝不全 3) 肝臓がん 2. 主な検査法 1) 門脈血管造影 3. 主な治療法 1) 肝庇護療法 2) インターフェロン療法 3) 内視鏡的硬化療法 4) 肝切除術 5) 肝移植		
第 6 回	1. 胆嚢・膵臓の疾患 1) 胆石症 2) 急性胆嚢炎・胆管炎 3) 胆管がん 4) 膵炎（急性・慢性） 5) 膵臓がん 2. 主な検査法 1) 内視鏡的逆行性胆膵管造影（ERPD）、胆道造影		

回数	内容・方法	担当講師	備考
	2)内視鏡的逆行性胆管膵管造影法 3. 主な治療法 1) 腹膜鏡下胆嚢摘出術		
第 7 回	1. 性分化疾患 1) 主な疾患の病態生理 (1) 半陰陽 (2) 性染色体異常 (3) 遺伝子変異による性分化異常 2) 主な検査法 3) 主な治療	徳永	週に1回のペースで講義を計画する。
第 8 回 第 9 回	2. 臓器別疾患 1) 主な疾患の病態生理 (1) 外陰の疾患 (2) 膣の疾患 (3) 子宮の疾患 (4) 卵管の疾患 (5) 卵巣の疾患 (6) 骨盤内炎症性疾患 2) 主な検査法 3) 主な治療		
第 10 回	3. 機能的疾患 1) 疾患の病態生理 (1) 月経異常・月経随伴症状 (2) 更年期障害 (3) 不妊症 (4) 不育症 2) 主な検査法 3) 主な治療		
第 11 回	4. 性感染症 1) 疾患の病態生理 2) 主な検査法 3) 主な治療		
第 12 回	1. 糖尿病 1) 疾患の病態生理 2) 主な検査法 2) 主な治療	加藤	週に1回のペースで講義を計画する。
第 13 回	2. 高尿酸血症、痛風 1) 疾患の病態生理 2) 主な検査法 2) 主な治療		
第 14 回	3. 甲状腺疾患 1) 主な疾患の病態生理 (1) 慢性甲状腺炎 (2) バセドウ病 (3) 甲状腺機能低下症 (4) 甲状腺腫瘍 2) 主な検査 3) 主な治療		
第 15 回	4. 副甲状腺機能低下症、副甲状腺機能亢進症 1) 疾患の病態生理 2) 主な検査法 2) 主な治療		
第 16 回	5. 脂質異常症 1) 疾患の病態生理 2) 主な検査法 2) 主な治療 6. クッシング病 1) 疾患の病態生理 2) 主な検査法 2) 主な治療		
	終了試験		

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

筆記試験（配点：100 点）

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器系 医学書院
新体系 看護学全書 成人看護学⑩ 女性生殖器 メヂカルフレンド社
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝 医学書院

【参考文献】

ナーシング・サプリー イメージできる病態生理学（メディカ出版）

【授業外における学修方法及び時間】 ※15 時間（900 分）

1. 消化器系疾患、女性生殖器系疾患、内分泌・代謝系疾患に関するナーシングチャンネル視聴
2. 消化器系疾患、女性生殖器系疾患、内分泌・代謝系疾患の病態・症状・検査・治療の理解を深めるための学習

専門基礎分野

【科目】病理学Ⅳ 【単位数・時間】2単位(45時間)
 【担当講師】末原雅人¹⁾ 吉川教恵²⁾ 外山勝浩³⁾ 福田達也⁴⁾ 田畑雅士⁵⁾ 新屋俊明⁶⁾
 中山文子⁷⁾
 【開講時期】第1学期 【配当年次】2年
 【所属・職位等】1)一般社団法人藤元メディカルシステム藤元総合病院神経内科医師
 2)都城医療センター整形外科医長 3)都城医療センター耳鼻科部長 4)宮田眼科医師
 5) 都城医療センター歯科・口腔外科部長 6) 都城医療センター歯科・口腔外科医長
 7) 都城医療センター皮膚科医師

【授業における到達目標】

1. 脳・神経系の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。
2. 骨・筋系の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。
3. 皮膚の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。
4. 眼の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。
5. 耳鼻の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。
6. 歯、口腔の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。

【授業の概要】

解剖生理学の知識をふまえ、病態、症状、検査、治療について教授する。

【アクティブ・ラーニング】

授業においては関連する科目（解剖生理学Ⅰ、病態学、薬理学Ⅰ）などを想起しながら理解する。
 また、事前学習や復習を行い、授業で自発的に質疑する。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
	脳神経系		
1回目	主な症状・徴候と病態生理 1) 意識障害 2) 高次機能障害 3) 運動機能障害 4) 感覚機能障害	末原	
2回目	主な症状・徴候と病態生理 5) 自律性のある機能の障害 6) 頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア 7) 髄膜刺激症状 8) 頭痛 9) めまい		
3回目	脳梗塞 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療		
4回目	脳出血・クモ膜下出血 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療		
5回目	1. ギランバレー症候群 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 多発性硬化症 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療		
6回目	1. 筋ジストロフィー 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 重症筋無力症 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 3. てんかん 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療		

回数	内容（方法）	講師	備考
7 回目	1. パーキンソン病 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 筋委縮性側索硬化症 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療		
	感覚系：耳鼻咽喉		
8 回目	主な症状と病態生理 1) 聴覚障害 2) 平衡感覚障害 3) 味覚・臭覚障害 4) 嚥下障害	外山	
9 回目	1. 中耳炎 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. メニエール病 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 3. 副鼻腔炎 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療		
10 回目	1. 舌がん 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 喉頭がん 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療		
	感覚器系：眼		
11 回目	1. 白内障 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 緑内障 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療	福田	
12 回目	1. 網膜剥離 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 網膜症 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療		
	感覚器系：歯・口腔		
13 回目	1. 齲蝕 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 辺縁性歯周炎 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療	田畑 新屋	
14 回目	1. 口腔がん 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療		
	感覚器系：皮膚		
15 回目	1. アトピー性皮膚炎 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 熱傷 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 3. 褥瘡 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療	中山	
16 回目	1. 白癬 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 帯状疱疹 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 3. 疥癬 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療		
	骨・筋系		
17 回目	主な症状と病態生理 1) 疼痛 2) 形態異常 3) 関節運動異常 4) 神経障害 5) 異常歩行 6) 筋肉の障害	吉川	

回数	内容（方法）	講師	備考
18 回目	1. 骨折（大腿骨近位部骨折・上腕骨顆上骨折・腰椎圧迫骨折） 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 脱臼 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療		
19 回目	1. 脊髄損傷 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 末梢神経損傷 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療		
20 回目	1. 関節リウマチ 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 変形性関節症 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療		
21 回目	1. 椎間板ヘルニア 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 腰部脊柱管狭窄症 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 3. 骨粗鬆症 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療		
22 回目	1. 骨肉腫 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. ロコモティブシンドローム 3. 廃用症候群		
	終了試験		

＊「講師」は、特にオムニバス形式の場合、単元担当者または当該授業時間の担当者名を記載する。「備考」は、開始時期や授業間隔について記載する。

【科目関連及び進度について】

解剖生理学で学習した骨格、筋、脳神経、感覚器の解剖と生理を関連づけて学習していく。

【試験・課題等の内容】

適宜、事前課題を要する。終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

筆記による終了試験 100%

（脳神経系：30 点 骨・筋系：25 点 感覚器系：耳鼻 15 点 眼 10 点 歯 10 点 皮膚 10 点）

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 脳・神経 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 運動器 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 皮膚 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 眼 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 耳鼻咽喉 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 歯・口腔 医学書院

【参考文献】

病気がみえる 脳・神経 メディックメディア
 病気がみえる 運動器 メディックメディア
 系統看護学講座 疾病のなりたちと回復促進 病理学
 系統看護学講座 人体の構造と機能 解剖生理学

【授業外における学修方法及び時間】

1. ナーシングチャンネル 脳・神経系 骨・筋系 感覚器系
2. 脳・神経系 骨・筋系 感覚器系に関する解剖生理、講義内容を深める

専門基礎分野

【科目】病理学Ⅴ 【単位数・時間】1 単位(30 時間)
 【担当講師】 入江慎二¹⁾ 石井隆雄²⁾ 中山文子³⁾ 濱田浩朗⁴⁾
 【開講時期】通年 【配当年次】2 年
 【所属・職位等】1)都城医療センター周産期・母子医療副センター長・新生児集中治療室長
 2)都城医療センター内科医師 3)都城医療センター皮膚科医師
 4)都城医療センター整形外科医長

【授業における到達目標】

主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。

【授業の概要】

解剖生理学の知識をふまえ、感染症の病態、症状、検査、治療について教授する。

【アクティブ・ラーニング】

授業においては関連する科目（解剖生理学Ⅰ、病態学、薬理学Ⅰ）などを想起しながら理解する。
 また、事前学習や復習を行い、授業で自発的に質疑する。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
	感染症		
1 回目	1. 症状と病態生理 1) 感染症とは 2) 感染の成立と免疫 3) 感染症の病態生理 4) おこりやすい症状	入江	
2 回目	2. 主な検査法 1) 塗抹・培養検査 2) 抗原検査 3) 抗体検査 4) HIV 検査 5) 毒素の検査 6) 原虫・寄生虫検査		
3 回目	3. 主な疾患 1) 性感染症 2) HIV/AIDS 感染症 3) 悪性腫瘍・幹細胞移植・固形臓器移植に伴う感染症 4) 新興・再興感染症		
4 回目	4. 主な治療法 1) 抗菌薬 2) 抗真菌薬 3) 抗ウイルス薬 4) 一次予防・二次予防 5) 予防接種		
	血液・リンパ系		
5 回目	1. 病態及び症状 2. 主な検査 1) 骨髄穿刺 2) 骨髄生検	石井	
6 回目	3. 主な疾患 1) 貧血 2) 白血球減少症 3) 白血病 4) 悪性リンパ腫 5) 多発性骨髄腫 6) 成人T細胞白血病 7) 血栓性血小板減少性紫斑病(TTP) 8) 免疫性血小板減少性紫斑病(ITP) 9) 播種性血管内凝固(DIC) 10) 血友病		

回数	内容（方法）	講師	備考
7 回目	4. 主な治療 1) 化学療法 2) 輸血 3) 造血幹細胞移植 4) 文化誘導療法 5) 分子標的療法 6) 遺伝子治療		
	アレルギー		
8 回目	1. 病態及び症状 1) 免疫反応と病気 2) アレルギーに関与する免疫担当細胞と化学物質 3) アレルギーのしくみ Ⅰ型アレルギー Ⅱ型アレルギー Ⅲ型アレルギー Ⅳ型アレルギー	中山	
9 回目	2. 主な検査 1) 血液検査 2) スキンテスト		
10 回目	3. 主な疾患 1) 気管支喘息 2) アレルギー性鼻炎 3) アトピー性皮膚炎 4) 接触性皮膚炎 5) アナフィラキシーショック		
11 回目	4. 主な治療 1) 薬物療法		
	膠原病		
12 回目	1. 病態生理と症状 1) 膠原病とは 2) 自己免疫疾患とその機序 3) 関節痛・関節炎 4) 皮疹 5) 筋力低下 6) 腎炎 7) 血管炎 8) レイノー現象	濱田	
13 回目	2. 主な検査 1) 一般検査 2) 結成・免疫学的検査		
14 回目	3. 主な疾患 1) 関節リウマチ 2) 全身性エリテマトーデス 3) 多発性筋炎 4) シェーグレン症候群 5) 抗リン脂質抗体症候群 6) ベーチェット病		
15 回目	4. 主な治療 1) 一般療法 2) 薬物療法		

＊「講師」は、特にオムニバス形式の場合、単元担当者または当該授業時間の担当者名を記載する。「備考」は、開始時期や授業間隔について記載する。

【科目関連及び進度について】

解剖生理学で学習した血液・リンパ系の解剖と生理、病態学の免疫機能、感染防御機能を関連づけて学習していく。

【試験・課題等の内容】

適宜、事前課題を要する

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4] 血液・造血器 医学書院

【授業外における学修方法及び時間】

各病態学に関する解剖生理、講義内容を深めるための学習

専門基礎分野

【科目】薬理学Ⅰ 【単位数・時間】 1 単位（15 時間）
【担当講師】佐藤 栄梨 【開講時期】第 2 学期 【配当年次】 1 年
【所属・職位等】都城医療センター 副薬剤部長

【授業における到達目標】

薬物の特性と薬物療法の概要を理解する。

【授業の概要】

薬物および薬物療法全体に共通する内容について学ぶ。薬理作用、薬物動態、薬物使用の有益性と危険性については、解剖生理学と関連づけながら学ぶ。薬効の個人差に影響する因子については、老年看護学・小児看護学とも関連づけて学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

授業においては、関連する科目を想起しながら学習する。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
第 1 回	薬理学を学ぶにあたって		
第 2 回	薬が作用する仕組み		
第 3 回	薬物の相互作用		
第 4 回	薬効の個人差に影響する因子		
第 5 回	薬物使用の有益性と危険性		
第 6 回	薬物動態の応用と薬物と食品の相互作用		
第 7 回	薬と法律		
	終了試験		

【科目関連及び進度について】

身体の生理的反応、薬理作用について、解剖生理学Ⅰ、生化学で学習した内容と関連させて学ぶため、解剖生理学Ⅰ、生化学が終了した後に、開講する。

また、「薬物と食品の相互作用」については、栄養学が終了した後に計画する。

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進〔3〕薬理学 医学書院

【参考文献】

イラストで理解できるかみくだき薬理学 南江堂 町谷安紀著

【授業外における学修方法及び時間】

毎回 1 時間程度の事前学習、事後学習を要する。

専門基礎分野

【科目】薬理学Ⅱ	【単位数・時間】1単位（30時間）
【担当講師】佐藤 栄梨	【開講時期】第2学期 【配当年次】2年
【所属・役職等】都城医療センター 副薬剤部長	

【授業における到達目標】

主な治療薬・麻酔薬の薬理作用を理解する。

【授業の概要】

薬理学Ⅰの知識に基づいて、病態学と関連づけて教授する。

【アクティブ・ラーニング】

授業においては関連する科目（病態学、薬理学Ⅰ、看護技術：与薬）などを想起しながら理解する。また、事前学習や復習を行い、授業で自発的に質疑する。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
第1回	抗アレルギー薬・抗炎症薬 1) 抗ヒスタミン薬・抗アレルギー薬 2) 抗炎症薬 3) 関節リウマチ治療薬 4) 痛風・高尿酸血症治療薬 5) 片頭痛治療薬		
第2回	末梢神経作用薬 1) 自律神経作用薬 4) 筋弛緩薬 2) 交感神経作用薬 5) 局所麻酔薬 3) 副交感神経作用薬		病理学Ⅳ（脳神経系）の学習進度を考慮して計画する。
第3回	循環器系作用薬 1) 抗高血圧 5) 利尿薬 2) 狭心症治療薬 6) 脂質異常症治療薬 3) 心不全治療薬 7) 血液に作用する薬物 4) 抗不整脈薬		
第4回	中枢神経作用薬 1) 全身麻酔薬 5) 気分障害治療薬 2) 催眠薬 6) パーキンソン症候群治療薬 3) 抗不安薬 7) 抗てんかん薬 4) 抗精神病薬 8) 麻薬性鎮痛薬		精神看護方法論Ⅰ（疾患・治療・検査）の学習進度を考慮して計画する。
第5回	呼吸器系作用薬 1) 気管支ぜんそく治療薬 2) 鎮咳薬・去痰薬・呼吸促進薬		
第6回	消化器系作用薬 1) 消化性潰瘍医療薬 2) 健胃・消化薬と消化管運動促進薬 3) 制吐薬 4) 止痢薬 5) 潰瘍性大腸炎・クローン病治療薬 6) 駆虫薬		
第7回	生殖器・泌尿器系作用薬 1) 女性生殖器作用薬 2) 男性生殖器作用薬 3) 泌尿器作用薬		
第8回	物質代謝系作用薬 1) ホルモンとホルモン拮抗薬 2) ビタミン		
第9回	抗感染症薬 1) 感染症治療の基礎		病理学Ⅴ（感染症）の学習進度を

回数	内容（方法）	講師	備考
	2) 抗感染症薬		考慮して計画
第 10 回	抗感染症薬 1) 感染症治療の基礎 2) 抗感染症薬		
第 11 回	抗がん薬 1) 抗がん薬の基礎 2) 抗がん薬		
第 12 回	抗がん薬 1) 抗がん薬の基礎 2) 抗がん薬		
第 13 回	免疫治療薬 1) 免疫抑制薬 3) 予防接種薬 2) 免疫増強薬		
第 14 回	免疫治療薬 1) 免疫抑制薬 3) 予防接種薬 2) 免疫増強薬		病理学Ⅴ（感染症）の学習進度を考慮して計画する。
第 15 回	まとめ		

【科目関連及び進度について】

- ・病理学との関連が深い科目であることから、病理学の学習進度を踏まえ授業計画を立案する。

【試験・課題等の内容】

- ・学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。
- ・終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

- ・終了試験 100%

【テキスト】

- ・系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学 医学書院

【授業外における学修方法及び時間】

- ・毎回 1 時間程度の事前学習、事後学習を要する。

専門基礎分野

【科目】保健医療論Ⅰ	【単位数・時間】1単位（15時間）
【担当講師】吉住 秀之	【開講時期】第1学期 【配当年次】1年
【所属・職位等】都城医療センター院長・都城医療センター附属看護学校校長	

【授業における到達目標】

医学・医療の歴史の変遷について理解し、これからの時代における望ましい医療の在り方について学ぶ。また、国立病院機構及び母体病院での医療の特徴を理解する。

【授業の概要】

医学の現状と課題について学ぶことから、保険医療全般についての理解を深め、看護の学習へ発展させる。また、国立病院機能の役割と機能は、身近な存在である保険医療機関として医療への理解を深められるよう教授する。

【アクティブ・ラーニング】

授業においては関連する科目（看護学概論、社会学）などを想起しながら理解する。

【授業計画】

回数	内容（方法）	備考
第1回	1. 医学・医療のあゆみ 1)古代の医学 2) 中世の医学 3) 近代医学 4) 現代医療の基盤	
第2回	2. 今後の医学・医療の方向	
第3回	3. 健康と疾病 1)健康の概念 2)) 疾病の概念 3) 生活と健康	
第4回	4. 医学と医療 1)医学と医療の違い 2) 現代医療の本質 3) 医療における医師の義務と看護師の役割 4) チーム医療	
第5回	5. 国立病院機構が担う医療 1)国立病院機構の役割と機能 2)診療事業 (1) 5 疾病 がん・精神・脳卒中、糖尿病・急性心筋梗塞	
第6回	5. 国立病院機構が担う医療 1) 診療事業 (1)5 事業 救急医療・災害医療・周産期医療・小児医療・小児救急・へき地医療 (2)セーフティネット分野の医療	
第7回	5. 国立病院機構が担う医療 2)臨床研究事業 3) 都城医療センターの医療 (1)都城医療センターの特徴 (2)都城医療センターが地域で担う役割	
第8回	終了試験	

【科目関連及び進度について】

医療の現状と課題について学ぶことから、保健医療全般についての理解を深め、看護の学習へ発展させる内容であるため、看護学概論の学習進度が進んだ段階で計画する。

【試験・課題等の内容】

課題は適宜提示する。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度① 医療学総論 メガカルフレンド社

【授業外における学修方法及び時間】

毎回1時間程度の事前学習、事後学習を要する。

専門基礎分野

【科目】保健医療論Ⅱ	【単位数・時間】1単位 15時間
【担当講師】吉住 秀之	【開講時期】第2学期
【所属・職位等】都城医療センター院長・都城医療センター附属看護学校校長	【配当年次】2年

【授業における到達目標】

1. 生命に対する価値観や倫理観を養う。
2. 我が国の医療供給体制、および医療をめぐる諸問題をとらえ、生命に対する価値や倫理について理解できる。

【授業の概要】

保健医療論Ⅰに基づいて、生命に対する価値や倫理について教授する。

【アクティブ・ラーニング】

授業においては関連する科目（看護学概論、社会学）などを想起しながら理解する。また、事前学習や復習を行い、授業で自発的に質疑する。

【授業計画】

回数	内容（方法）	備考
第1回	医療保険制度、提供体制	
第2回	医療倫理	
第3回	患者の権利、説明と同意	
第4回	臨床医学研究と医療倫理	
第5回	告知・終末期医療	
第6回	先端医療と医療倫理	
第7回	医療安全と医療倫理	

【科目関連及び進度について】

看護学概論、社会学が終了した後に開講する。また、看護研究や各看護学の学習へつなげられるように進度を計画する。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

筆記試験 100%

【テキスト】

新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度① 現代医療論 メヂカルフレンド社

【授業外における学修方法及び時間】

保健医療に関する講義内容を深めるための学習

【科目】社会福祉	【単位数・時間】 2 単位（4 5 時間）
【担当講師】 安藤 実和子	【開講時期】 通年 【配当年次】 1 年
【所属・職位等】 認定社会福祉士	

【授業における到達目標】

現代の医療・福祉を取り巻く諸問題・環境について把握し、社会福祉制度や社会福祉サービスについての現状と課題について学習する。また、医療従事者として必要な社会福祉の仕組みや知識等を理解し、制度や多職種・機関等との連携・協働についても知ることができる。

【授業の概要】

1. 生活と社会福祉
2. 社会保障制度と社会福祉
3. 社会保険制度
4. 社会福祉の歴史と動向
5. 社会福祉の諸制度と施策
6. 社会福祉行政のしくみと民間活動

【アクティブ・ラーニング】

- ・講義に関する事前課題提示
- ・グループワーク（演習を含む）
- ・校外学習
- ・DVD 等の視聴

【授業計画】

回数	内 容 等	
第 1 回	・「生活と社会福祉」	①社会福祉の意義 ②生活基盤と社会福祉
第 2 回	・「生活と社会福祉」	①ライフサイクル・家族観の多様化 ②社会福祉援助技術と集団の役割
第 3 回	・「社会保険制度と社会福祉」	①社会保障制度の目的・機能・構成 ②社会保障制度の現状と課題
第 4 回	・「社会保険制度」(1)	①社会保険制度の役割と変遷 ②医療保険制度の概要（健康保険）
第 5 回		①医療保険制度（国民健康保険・高齢者医療制度） ②わが国の医療提供体制としくみ
第 6 回	・「社会保険制度」(2)	①介護保険制度の創設 ②介護保険制度の概要
第 7 回		③介護保険制度保険給付のしくみ ④介護保険財政と苦情解決のしくみ ⑤介護保険の現状と今後の課題
第 8 回	・「社会保険制度」(3)	①年金保険制度の概要・体系等 ②年金保険制度の現状と課題
第 9 回	・「社会保険制度」(4)	①雇用保険制度 ②労働者災害補償保険制度

回数	内 容 等	
第 10 回	・「社会福祉の歴史と動向」	①社会福祉の歴史変遷と社会福祉基礎構造改革 ②社会福祉の現状と今後の課題への取り組み
第 11 回	・「社会福祉の諸制度と施策」(1)	①生活保護制度に関する法と施策 ②生活保護制度の概要と実施
第 12 回	・「社会福祉の諸制度と施策」(2)	①生活困窮者自立支援制度 ②障害者福祉の概要
第 13 回	・「社会福祉の諸制度と施策」(3)	①障害者総合支援法の体系と施策 ②障害種別の施策と関係法
第 14 回	・「社会福祉の諸制度と施策」(4)	①障害児福祉制度に関する法と施策 ②児童福祉制度の概要と施策
第 15 回	・「社会福祉の諸制度と施策」(5)	①児童福祉制度（子育て支援・社会的養護）
第 16 回		② " （児童虐待・ひとり親の支援等） ③児童福祉の最近の制度改正と課題 ④校外学習に向けての事前学習
第 17 回	・校外学習	・都城市社会福祉協議会
第 18 回		
第 19 回	・「社会福祉の諸制度と施策」(6)	①高齢者福祉に関する法と施策 ②高齢者福祉実施体制のしくみ
第 20 回	・「社会福祉の諸制度と施策」(7)	①高齢者福祉の施策と関係法 ②老人福祉の現状と課題
第 21 回	・「福祉行政のしくみと民間活動」	①社会福祉の実施体制と財政 ②社会福祉の関わる機関と専門職・民間活動
第 22 回	・科目のまとめ、振り返り	

【科目関連及び進度について】

- ・「保健医療論Ⅰ」にて、医学・医療の歩みや医療の提供について学習した内容と連動させながら、「人」の生活と社会福祉を関連させ学習を進める。

【試験・課題等の内容】

- ・社会福祉全般に関するもの（講義にて使用するプリントを活用）
- ・国家試験等を参考にした問題

【評価方法】

- ・科目終了時客観試験
- ・校外学習等のレポート
- ・講義への取り組み姿勢に対する評価

【テキスト】

- ・健康支援と社会保障制度「社会福祉」

【参考文献】

- ・国民の福祉と介護の動向
- ・福祉系雑誌、新聞等の時事問題に関する記事

【授業外における学修方法及び時間】

- ・校外学習（社会福祉協議会へ）

専門基礎分野

【科目】公衆衛生学	【単位数・時間】1単位（30時間）	
【担当講師】森田 直美	【開講時期】第1学期	【配当年次】2年
【所属・職位等】元 三股町役場保健師		

【授業における到達目標】

疾病予防に関する概念を理解し、人が健康な生活を送るための公衆衛生学的アプローチを学ぶ。

【授業の概要】

授業計画のとおり

【アクティブ・ラーニング】

教室内でのグループ・ディスカッション

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	公衆衛生のエッセンス
第2回	公衆衛生の活動対象
第3回	公衆衛生のしくみ
第4回	疫学・保健統計
第5回	環境と健康、国際保健
第6回	感染症とその予防対策
第7回	公衆衛生看護とは、母子保健
第8回	成人保健、歯科保健
第9回	高齢者保健
第10回	精神保健、障害者保健、難病保健
第11回	学校と保健
第12回	職場と保健
第13回	健康危機管理、災害保健
第14回	保健所見学（都城保健所）
第15回	保健所見学（都城保健所）

【科目関連及び進度について】

公衆衛生の基本、保健活動の基盤となる法や施策、生活者の健康増進について学ぶことから、1年次の保健医療論Ⅰ、社会福祉、看護学概論、2年次の関係法規と関連づけて学習する。

【試験・課題等の内容】

講義でふれた内容（制度やしきみ、法律や統計など）

【評価方法】

終講時客観試験

【テキスト】

統計看護学講座 専門分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度② 医学書院

【参考文献】

国民衛生の動向 2021/2022

【授業外における学修方法及び時間】

講義内容の予習・復習について1時間程度の自己学習に取り組む。

専門基礎分野

【科目】関係法規	【単位数・時間】1単位（30時間）
【担当講師】村上 和明	
【開講時期】第1学期	【配当年次】2年
【所属・役職等】都城医療センター事務部長	

【授業における到達目標】

- ・医事法の体系的理解と、その他保健医療福祉に関する法律の概要を理解する。

【授業の概要】

- ・社会の動向及び法律と関連づけて教授する。

【アクティブ・ラーニング】

- ・授業においては関連する科目（社会学、社会福祉、看護学概論）などを想起しながら理解する。また、事前学習や復習を行い、授業で自発的に質疑する。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
第1回	法の概念 日本国憲法の成立 基本的人権		
第2回	看護法①		
第3回	看護法②		
第4回	医療法①		
第5回	医療法②		
第6回	医療法③		
第7回	保健衛生法①		
第8回	保健衛生法②		
第9回	中間試験		
第10回	薬務法		
第11回	環境衛生法 環境法		
第12回	社会保険法		
第13回	福祉法		
第14回	労働法と社会基盤整備		

回数	内容（方法）	講師	備考
第 15 回	終了試験・解説学習		

【科目関連及び進度について】

医療や看護に関連する法律について学ぶことから、社会の動向についての理解を深め、看護の学習へ発展させる内容であるため、保健医療論Ⅱと同時進行で学習し、1 年次の保健医療論Ⅰ、社会福祉、看護学概論などに関連づけて学習する。

【試験・課題等の内容】

- ・ 学生の理解度を確認しながら適宜課題を提示する。
- ・ 中間試験及び終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

- ・ 中間試験 50%
- ・ 終了試験 50%

【テキスト】

- ・ 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔4〕看護関係法令 医学書院
- ・ 看護六法 新日本法規

【参考文献】

【授業外における学修方法及び時間】

- ・ 毎回 1 時間程度の事前学習、事後学習を要する。

専門分野 I

【科目】看護学概論	【単位数・時間】1 単位(30 時間)
【担当講師】山中 真弓	【開講時期】第 1 学期
【所属・職位等】教育主事	【配当年次】1 年
	【実務経験】看護師 8 年、厚生労働技官 3 年

【授業における到達目標】

看護をとらえる様々な視点を学び、看護に対する自らの考えを述べることができる。
 看護をとらえる視点は、①「人間」「健康」「環境」「生活」などの看護を定義する構成要素 ②保健統計 ③保健師助産師看護師法と関連法 ④看護倫理 ⑤看護理論家の考え
 ⑥多職種との連携 ⑦看護の歴史

【授業の概要】

①「人間」「健康」「環境」「生活」などの看護を定義する構成要素 ②保健統計 ③保健師助産師看護師法と関連法 ④看護倫理 ⑤看護理論家の考え ⑥他職種との連携 ⑦看護の歴史
 の視点について、講義やグループワーク、全体討議を行い、自らの考えを述べる機会が多い授業である。

【アクティブ・ラーニング】

- ・事例を用いたグループワークを行い、全体発表・検討会を行う。
- ・授業においては、自らの考えを発言する機会が多くする。

【授業計画】

回数	内容・方法	備考
第 1 回	看護を定義する構成要素を理解する 「環境」とは 「人間」とは	
第 2 回	看護を定義する構成要素を理解する 「健康」とは 「生活」とは	
第 3 回	看護ケアとは 看護の感性、看護の質保証	
第 4 回	保健統計からみる健康や看護	
第 5 回	看護理論家の考え ナイチンゲール	
第 6 回	看護理論家の考え ヘンダーソン	
第 7 回	看護理論家の考え ロイ	
第 8 回	看護倫理について理解できる(グループワーク) 人間関係に必要な倫理についてこれまでの経験から自らの考えを明確にし、それを基盤に看護倫理について理解する	
第 9 回	看護者の倫理綱領について理解する	
第 10 回	保健師助産師看護師法の制定過程と法の解釈	
第 11 回	人材確保法の制定過程と法の解釈	
第 12 回	他職種の役割と機能を知り、連携の必要性について理解する	
第 13 回	看護の歴史	
第 14 回	「看護」について考える(グループワーク・全体発表) テーマ:看護であること看護でないこと	
第 15 回	「看護」について考える(グループワーク・全体発表) テーマ:看護であること看護でないこと	

【科目関連及び進度について】

基礎分野「心理学」「社会学」「人間関係論」や専門基礎分野「関係法規」等と関連があり、本科目の内容は、看護学を学ぶ基礎となる。

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

グループディスカッションの際には事前にレポート課題を提示する。

【評価方法】

終了試験 80%、レポート 20%

【テキスト】

新体系看護学全書 基礎看護学1 看護学概論 メヂカルフレンド

看護学テキストシリーズ NiCE 看護倫理 南江堂

【参考文献】

国民衛生の動向

【授業外における学修方法及び時間】

今回の授業に対する事前の課題を提示するため、毎回1時間程度の事前学習を要する。

専門分野 I

【科目】看護理論 【単位数・時間】1 単位（30 時間）
 【担当講師】山中真弓¹⁾ 小倉裕香²⁾ 【開講時期】第 1 学期 【配当年次】2 年
 【所属・職位等】1) 教育主事 2) 専任教員
 【実務経験】1) 看護師 8 年・厚生労働技官 3 年 2) 看護師 6 年

【授業における到達目標】

1. 看護において理論を学ぶ意義をとらえ、各看護理論の概要が理解できる。
3. 看護の具体的場面について看護理論を用いて意味づけすることができる。

【授業の概要】

理論とは何かをとらえ、各看護理論の概要を理解し、看護理論を活用し実際の看護場面について意味付けする。

【アクティブ・ラーニング】

- ・各看護理論の概要を理解したのち、看護理論を活用して実際の看護場面について各自検討し発表する。

【授業計画】

回数	内容（方法）	担当
第 1 回	1. 理論とは何か 2. 理論の種類—広範囲理論、小範囲理論、中範囲理論	小倉
第 2 回	フロレンス・ナイチンゲール『看護覚書』が看護に示すもの	小倉
第 3 回	人間の基本的ニーズと看護: ヴァージニア・ヘンダーソン	小倉
第 4・5 回	1. 患者の援助へのニーズを満たすとは: アーネスティン・ウィーデンバック 2. 看護場面への応用(グループワーク)	小倉
第 6・7 回	1. 人間関係理論における看護師患者関係: ヒルデガート・ペップロウ 2. 看護場面への応用(グループワーク)	山中
第 8・9 回	1. セルフケアできる人間と看護: ドロシア・オレム 2. 看護場面への応用(グループワーク)	山中
第 10・11 回	1. 看護師の臨床技能の習得段階と看護の創造: バトリシア・ベナー 2. 看護場面への応用(グループワーク)	山中
第 12・13 回	1. 看護過程記録-プロセスレコードによる相互作用の分析: アイダ・オランダ 2. 実習場面をとりあげた自己分析	山中
第 14・15 回	看護理論を用いた看護実践の検討	山中

【科目関連及び進度について】

看護概論や看護技術Ⅴ(看護過程)で学んだ内容を、看護理論という視点で統合する。新たに登場する看護理論も多いが、1 年次の基礎看護学実習Ⅰ、2 年次の基礎看護学実習Ⅱでの体験を看護理論を使い意味づけする。

本科目での学びが看護実習に用いることとなる。3 年次の課題研究演習では、看護理論を用いることとなる。

【試験・課題等の内容】

グループワークに取り組むため、事前にレポート課題を提示する。

提出されたレポートは、個別指導を実施する。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

終了試験 50% (50 点) 課題レポート 50% (50 点)

【テキスト】

看護理論 20 の理解と実践への応用 (南江堂)

看護実践に活かす中範囲理論 第 2 版 (メジカルフレンド社)

看護覚え書 (日本看護協会)

看護の基本となるもの (日本看護協会)

【参考文献】

やさしく学ぶ看護理論 日総研

超入門 事例で学ぶ看護理論 学研

ペプロー 人間関係の看護論 医学書院

ワトソン看護論 ヒューマンケアリングの科学 医学書院

ベナー 看護論 新訳版 医学書院

セルフケア概念と看護実践 へるす出版 他

【授業外における学修方法及び時間】

15 時間の自己学習時間は文献検討、グループでのディスカッション、資料の作成等の時間とする。

専門分野 I

【科目】看護研究	【単位数・時間】1 単位(30 時間)
【担当講師】山中 真弓	【開講時期】通年 【配当年次】2 年
【所属・職位】教育主事	【実務経験】看護師 8 年、厚生労働技官 3 年

【授業における到達目標】

看護研究の意義と研究方法を理解し、看護研究に取り組み発表することができる。

【授業の概要】

1. 看護研究の意義が理解できる。
2. 研究に取り組み、研究計画書の作成、データ収集、論文作成、研究発表ができる。

【アクティブ・ラーニング】

研究テーマが同じメンバーとともに看護研究に取り組む。

【授業計画】

回数	内容	演習
第 1 回	看護研究とは 研究疑問の導き	エピソード分析
第 2 回	研究疑問の焦点化	エピソード分析
第 3 回	看護研究のプロセス 研究疑問の焦点化 文献検索	文献検索
第 4 回	クリティークとは	クリティーク 研究テーマの絞り込み
第 5 回	研究の種類と方法	
第 6 回	研究の種類と方法 研究における倫理的配慮	
第 7 回	データ分析方法 統計処理	統計処理
第 8 回	データ分析方法 質的データ	質的データの分析
第 9 回	研究計画書作成	研究計画書作成
第 10 回	考察 論文作成	
第 11 回	研究発表について	
第 12 回		研究活動
第 13 回		研究活動
第 14 回	研究発表	
第 15 回	研究発表	

【科目関連及び進度】

本科目までに学んだ看護学の分野からテーマを決定していく。論文の記述に関しては、「日本語表現」で学んだことを活かすこと。

3 年次には、「課題研究演習」で各自、事例研究に取り組むこととなる。

【試験・課題等の内容】

研究テーマに従いグループを編成する。各グループに指導教員が指導を担当する。指導教員から指導を得ながら、それぞれ研究活動を行う。

【評価方法】

評価表(ルーブリック評価)に基づく研究活動に対する評価 60%
課題レポート 40%

【テキスト】

黒田裕子の看護研究 Step by Step 医学書院
看護師・保健師をめざす人のやさしい統計処理 保険・医療データの活用 実教出版

【参考文献】

新 楽しい統計学 ヘリシティ出版
看護における研究 日本看護協会出版会

【授業外における学修方法及び時間】

15 時間の自己学習時間は研究活動の時間である。

【科目】看護技術Ⅰ

【単位数・時間】1 単位(30 時間)

【担当講師】 間宮みどり¹⁾ 上野敏幸²⁾ 上田杏香³⁾ 桑原真奈⁴⁾ 横尾征八⁵⁾ 三輪祐子⁶⁾

【開講時期】第 1 学期

【配当年次】1 年

【所属・職位等】 1)2) 専任教員 3)4)5)6) 都城医療センター看護師

【実務経験】 1) 看護師 12 年 2) 看護師 7 年

- ・看護援助を行う際の基本的な考え方を理解するとともに、看護技術の習得・発展のための学習方法を理解する
- ・人の安全・安楽を守り、自然治癒力を最大限引き出すための環境の意義とそのニーズを満たすための援助方法について理解する
- ・生活するうえで欠かせない、活動・睡眠・休息の意義を理解し、そのニーズを満たすための援助ができる

- ・看護技術の概念について基本的な考え方を学ぶ
- ・環境についての講義とベッドメイキング、臥床患者のリネン交換の演習を行う授業である。演習後には技術のチェックを行い技術の習得を行う
- ・活動においては、自らの身体を動かしながら演習を中心とした授業を行う。休息と睡眠においては自己の生活を振り返りながら学びを深められるように行う。演習後は技術チェックを行う

- ・ 学生が積極的に講義に参加し自己の発言を述べる
- ・ 事例を用いた演習を行い、グループワークを通して意見交換を行い看護の方法を深める
- ・ 演習時は事前課題をもとに実践し、グループで振り返りを行う。事前課題をもとに意見交換をしながら学びを深める

回数	内容（方法）	担当	備考
第 1 回	看護技術の概念	間宮	
第 2 回	環境の意義 療養生活の環境	上野	本科目第 2 回 終了後
第 3 回	病室環境のアセスメントと調整		
第 4 回	ベッド周囲の環境整備		
第 5 回 第 6 回	ベッドメイキング、環境整備（演習） 20 名の少人数で行う	上野 上田 桑原	
第 7 回	臥床患者のリネン交換、環境整備（演習） 20 名の少人数で行う		
第 8 回	ベッドメイキング（技術チェック） 20 名の少人数で行う		
第 9 回	活動の意義、種類	上野	本科目第 1 回 終了後
第 10 回	姿勢と体位		
第 11 回	休息と睡眠		
第 12 回	安楽、レクリエーションの意義、廃用症候群の予防		

回数	内容（方法）	担当	備考
第13回	安楽な体位の保持と体位変換、ボディメカニクス（演習） 20名の少人数で行う		
第14回	体位変換、移動・移送援助（演習） 20名の少人数で行う	上野	
第15回	車いすへの移乗・移動（技術チェック） 20名の少人数で行う	横尾 三輪	

【科目関連及び進度について】

物理学的原理の基礎を理解し、看護技術実施の科学的裏付けが必要なことから、看護物理学第7回履修後から本科目第2回、本科目第9回を履修するのがのぞましい。
解剖生理学Ⅱ（身体の支持と運動）履修後から、本科目第9回を履修するのがのぞましい。

【試験・課題等の内容】

＜看護技術の概念＞なし

＜環境＞＜活動・体位・休息＞

演習の前には事例患者に対する看護について各自で事前課題を行い望む

【評価方法】

＜看護技術の概念＞なし

＜環境＞終了試験 50% 技術チェック「ベッドメイキング」

＜活動・体位・休息＞終了試験 50% 技術チェック「車いすへの移乗・移動」

技術チェックについては、評価基準に則り、評価が行う。

技術チェックの合格をもって単位認定とする。

【テキスト】

＜看護技術の概念＞

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院

＜環境＞＜活動・体位・休息＞

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

【参考文献】

＜看護技術の概念＞

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔1〕 看護学概論 医学書院

＜環境＞

看護覚え書 フローレンスナイチンゲール

＜活動・体位・休息＞

からだの地図帳 新版 講談社

【授業外における学修方法及び時間】

授業前に事前テキストにて事前学習を行い、授業後には振り返りを行う。

15時間の自己学習時間は、本科目に関連するナースングチャンネルを視聴したり、テキストを用いながら、技術練習を行う。技術の習得ができるまで反復練習を要する。

専門分野 I

【科目】看護技術Ⅱ 【単位数・時間】1 単位（30 時間）
 【担当講師】一柳 明日香¹⁾ 尾前りさ²⁾ 田畑小春³⁾
 【開講時期】通年 【配当年次】1 年 【所属・職位等】専任教員
 【実務経験】1) 看護師 7 年 2) 3) 都城医療センター看護師

【授業における到達目標】

1. 身体の清潔の意義を理解し、清潔・衣生活の援助の目的、方法について理解する
2. 清潔・衣生活のニーズを満たすための援助の方法を理解する
3. 安全・安楽に留意しながら、清拭、寝衣交換、洗髪の技術を習得する

【授業の概要】

清潔の意義とその援助の目的を理解し、対象の日常生活行動（ADL）に合わせた清潔・衣生活の援助を考える基礎的知識を学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

- ・講義、課題については自ら思考する機会とする。
- ・演習では、講義で学んだことをもとに視聴覚教材で学習し、根拠に基づいた具体的な方法を理解する。
- ・看護技術の習得に向けて、学生同士で学び合い、気づきを共有し、事例に応じた看護技術の方法を習得する。

【授業計画】

回数	内容（方法）	担当	備考
第 1 回	清潔の意義	一柳	週に 1 回のペースで講義を計画する。
第 2 回	清潔に影響を及ぼす因子 援助方法の種類	一柳	
第 3 回	整容の意義とその援助	一柳	
第 4 回	口腔ケアの意義とその援助	一柳	
第 5 回	衣服を用いることの意義と選択	一柳	
第 6 回	援助の実際 病衣・寝衣交換（演習）	一柳	実習室使用。 20 人ずつの演習に分けて実施。
第 7 回	援助の実際 洗髪	一柳 尾前 田畑	
第 8 回	援助の実際 洗髪（演習）	一柳 尾前 田畑	実習室使用。 20 人ずつに分けて、演習を実施。
第 9 回	洗髪の技術チェック	一柳 尾前 田畑	第 8 回終了後、2 週間以上間隔をあけて第 9 回を計画する

回数	内容（方法）	担当	備考
第 10 回	援助の実際 入浴・シャワー浴、清拭	一柳 尾前 田畑	
第 11 回	援助の実際 部分浴・陰部洗浄	一柳	
第 12 回	援助の実際 清拭 （演習）	一柳 尾前 田畑	実習室を使用。 20 人ずつに分けて実施。
第 13 回	清拭の技術チェック	一柳 尾前 田畑	第 12 回終了後、2 週間 以上間隔をあけて第 13 回を計画する
第 14 回	患者の状態に合わせた清潔の援助の判断 （講義・演習）	一柳	第 14・15 回は 2 コマ続 きで計画する
第 15 回			

【科目関連及び進度について】

解剖生理学Ⅰで学んだ皮膚の構造と機能、生体の防御機能と関連させて学ぶ。

また、演習時には、看護技術Ⅰ（環境）で学んだ療養環境調整に関する技術や看護技術Ⅰ（活動・体位・休息）で学んだ安楽な姿勢・体位の保持や体位変換、ボディメカニクスに関する知識を用いて演習を行う。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

洗髪、清拭の技術習得

【評価方法】

終了試験 100%（100 点）

※洗髪の技術、清拭・寝衣交換の技術についてはチェックに必要な講義、演習が終了後に行う。

技術チェックについては、評価基準に則り、評価を行う。不合格の場合は、再度技術チェックを行い、技術チェックの合格をもって単位認定とする。

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院

根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

【参考文献】

看護技術プラクティス 学研

新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社

看護技術がみえる vol. 1 基礎看護技術 メディックメディア

看護技術ベーシックス 医学芸術新社

【授業外における学修方法及び時間】

15 時間の自己学習時間は、本科目に関連するナースングチャンネルの視聴、技術練習等に取り組む。

専門分野 I

【科目】看護技術Ⅲ 【単位数・時間】 1 単位(30 時間)
 【担当講師】 一柳明日香¹⁾ 上野敏幸²⁾ 坂元美寿々³⁾ 東郷綾美⁴⁾
 【開講時期】 第 1 学期 【配当年次】 1 年
 【所属・職位等】 1) 2) 専任教員 3) 都城医療センター看護師 4) 都城医療センター副看護師長
 【実務経験】 1) 2) 看護師 7 年

【授業における到達目標】

日常生活援助（食事・排泄）のニーズを満たすための基本的援助技術を習得することができる。

【授業の概要】

生活する上でかかすことのできない食事に関する基本的知識をもとに、食事の援助が必要な対象者へ安全、安楽な援助技術を講義やグループワーク、演習を通して学ぶ。
 また、排泄のメカニズムや排泄の援助を受ける対象者の倫理的態度、排泄の援助の実際を講義やグループワーク、演習で学ぶ授業である。

【アクティブ・ラーニング】

- ・グループワークを行い、意見交換を行うことで安全、安楽な援助の理解を深める。
- ・授業においては、自らの考えを発言する機会をつくる。
- ・演習においては、実践を通して振り返りを行い安全、安楽で倫理的な援助技術の理解を深める。
- ・排泄場面の事例をもとに患者が苦痛に感じていることは何か、看護師としてどのような援助が必要か検討する。

【授業計画】

回数		内容（方法）	講師	備考
第 1 回	食事	・ 食事の意義 ・ 摂食、嚥下、消化、吸収のメカニズム	上野	・ 看護技術Ⅰ：活動・体位・休息終了後 ・ 看護技術Ⅴ：コミュニケーション終了後 ・ 解剖生理学：消化器と同時期
第 2 回		・ 栄養状態のアセスメント ・ 食事摂取に関する身体機能のアセスメント ・ 食欲のアセスメント ・ 摂食嚥下機能のアセスメント		
第 3 回		・ 食事の援助 ・ 摂食機能訓練の方法と実際		
第 4 回		・ 食事援助の実際（食事介助）（演習）		
第 5 回		・ 非経口的栄養摂取の方法と実際 ・ 経管栄養法の方法と管理		
第 6 回	排泄	1. 自然排尿・排便の基礎知識 2. 排泄のメカニズム 3. 排泄の援助を受ける対象者の倫理的配慮	一柳	・ 看護技術Ⅰ：活動・体位・休息終了後 ・ 看護技術Ⅴ：コミュニケーション終了後 ・ 看護技術Ⅳ：感染防止の技術終了後（導尿の技術） ・ 解剖生理学：消化器および腎・泌尿器系終了後または同時期 床上排泄の援助お
第 7 回		4. 排泄に関する観察とアセスメント 5. 自然排泄を阻害する要因とその援助		
第 8 回		6. 自然排尿・排便を促す援助 7. 排泄・トイレの歴史		
第 9 回		8. 排泄の援助、自然排尿を促す援助の実際 技術演習（床上排泄の援助）尿器を使った援助		
第 10 回		9. 排泄の援助 自然排便を促す援助；便秘		

回数	内容（方法）	講師	備考
第 11 回	10. 排泄障害のある患者への援助 排便障害への援助、尿失禁・便失禁	一柳	よび導尿の技術演習は、1 回の授業人数を半数とする。
第 12 回	床上排泄技術チェック		
第 13 回	11. 排泄障害のある患者への援助 浣腸の知識と実際		
第 14 回	12. 排泄障害のある患者への援助 排尿障害への援助 尿閉、導尿		
第 15 回	13. 排泄障害のある患者への援助 排尿障害への援助の実際 導尿の技術演習		

【科目関連及び進度について】

解剖生理学：消化器系、腎・泌尿器系 看護技術Ⅰ：活動・体位・休息 看護技術Ⅴ：コミュニケーション、看護技術Ⅳ：感染防止の技術、栄養学

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

グループディスカッションおよび演習の前後にはレポート課題を提示する。

【評価方法】

筆記試験（配点：100 点）のうち食事について 35 点、排泄 65 点

排泄の技術チェックについては、評価基準に則り評価を行う。なお、合格をもって単位履修とする。

【テキスト】

- ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院）
- ・根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）

【参考文献】

看護技術プラクティス第 3 版（学研メディカル秀潤社）
看護技術がみえる 2（メディックメディア）

【授業外における学修方法及び時間】

- ・次回の授業に対する事前の課題を提示するため、毎回 1 時間程度の事前学習を要する。
- ・ナースিংチャンネルの視聴（60 分）

専門分野 I

【科目】看護技術Ⅳ 【単位数・時間】1 単位・30 時間
 【担当講師】成田知穂¹⁾ 上野敏幸²⁾ 間宮みどり³⁾ 【開講時期】通年
 【配当年次】1 年
 【所属・職位等】1) 都城医療センター副看護師長・感染管理認定看護師 2) 3)専任教員
 【実務経験】2) 看護師 7 年 3) 看護師 12 年

【授業における到達目標】

1. 看護師が感染防止のための実践を行うことの必要性を理解し、感染を予防するための基本的な知識・技術を習得することができる。
2. 看護における学習支援の目的を理解し、様々な対象・状況に応じた学習支援を理解できる。
3. 看護記録の法的位置付けと目的、機能を理解し、記載、管理する上での留意することを理解できる。
4. 連携における報告の目的と報告に係る適切な方法を理解できる。

【授業の概要】

感染防止技術は、感染の成り立ち、標準予防策、経路別感染対策、無菌操作など患者の安全・安楽を脅かす感染を防止するための、基本的知識と技術を講義と演習を通して学習する。

学習支援は、患者の健康を支える学習支援の視点を基盤として、学習支援における看護師の役割、学習支援の対象と対象に応じた学習支援の方法と内容を学習する。

記録・報告は、看護記録の法的位置づけ、看護記録の目的と機能、情報管理、報告の意義と状況に応じた適切な報告方法を学習する。

【アクティブ・ラーニング】

演習や技術練習時は、学生同士で協働しながら実践と振り返りを行う。そこから得た気づきを取り上げ根拠と関連づけることで理解を深めていく。講義では、グループワークを取り入れて自らの考えを発言しながら意見交換することで気づきを共有し、理解を深めていく。

【授業計画】

回数	内容・方法		講師	備考
第 1 回	感 染 防 止 の 技 術	1.感染防止の基礎知識 1) 感染成立の条件 2) 院内感染の防止 3) 清潔と不潔の考え方 4) ゾーニング	成田	微生物学の 開講後に開 始する。
第 2 回		2.標準予防策(スタンダード・プリコーション) 1) 手指衛生 (1) 手指衛生の種類 (2) 衛生的手洗い 3.個人防護用具(PPE) (1) PPE の種類 (2) PPE の適切な使用方法	成田	
第 3 回		4.感染経路別予防策 1) 接触予防策 2) 飛沫予防策 3) 空気予防策 5.洗浄・消毒・滅菌 1) 洗浄 2) 消毒と滅菌	成田	
第 4 回		6.無菌操作 1) 無菌操作の実際 (1) ゾーニング (2) 滅菌包装の開き方 (3) 滅菌物の 取り扱い (4) 滅菌手袋の着用 7.感染性廃棄物の取り扱い 8.針刺し防止策	成田	

回数	内容・方法		講師	備考
第5・6回		演習 1) 衛生的な手洗い 2) ゴーグル 3) PPE の着脱 4) 滅菌包装の開き方 5) 滅菌物の取り出し方 6) 滅菌物の受け渡し方(鍋子・綿球) 7) 滅菌手袋の着脱	成田	20名ずつで実施
第7回		技術チェック 1) 衛生的な手洗い 2) ゴーグル 3) PPE の着脱 4) 滅菌包装の開き方 5) 滅菌物の取り出し方 6) 滅菌物の受け渡し方(鍋子・綿球) 7) 滅菌手袋の着脱	成田 上野	
第8回	学習支援	1. 看護における学習支援 1) セルフケアの概念と教育 2) 健康教育と看護の役割 3) 学習ニーズと学習支援の方向性	間宮	
第9回		2. 学習支援の対象と領域 1) 学習支援の対象者 2) 学習支援の場 3. 学習支援の進め方 1) 学習内容 2) 学習支援方法 4. 学習支援におけるアプローチの方法 1) 個人へのアプローチ 2) 集団へのアプローチ 3) 学習支援のプロセスに影響を及ぼす要因	間宮	
第10回		5. 学習支援計画 1) 学習支援案・支援計画について 2) 学習支援計画立案	間宮	
第11回		6. 学習支援の実践 1) 学習支援の実践(演習)	間宮	
第12回		7. 学習支援の評価 1) 学習支援評価の視点 2) 評価の活用	間宮	
第13回		1. 看護記録 1) 看護記録規定 2) 看護記録の目的と機能 3) 看護記録の現状 4) 看護記録の記載基準 5) 看護記録の構成	間宮	
第14回		2. 個人情報の取り扱い 1) 個人情報とは 2) 個人情報の取り扱いに関する法律 3) 個人情報の取り扱いと倫理	間宮	
第15回		3. 報告 1) 報告の意義 2) 報告する内容 3) 報告する方法 4) 報告する時期 5) 報告する相手	間宮	

【科目関連及び進捗について】

感染防止技術は、微生物学で学習する感染を起こす病原体についての理解が前提知識として必要である。

学習支援は、専門分野Ⅱの患者教育・患者指導につながる学習内容である。

記録・報告は、臨地実習での個人情報の取り扱いや報告の実践、看護マネジメントにつながる内容である。

【試験・課題等の内容】

- 1) ①筆記試験 ②随時・終講時レポート
- 2) 技術チェック（感染防止の技術）

【評価方法】

- 1) 科目終了時客観試験
- 2) レポート

（配点 感染防止技術：45 点、学習支援：35 点、記録・報告：20 点）

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③（医学書院）

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②（医学書院）

根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）

【参考文献】

看護技術プラクティス 第3版 学研メディカル秀潤社

【授業外における学修方法及び時間】

ナーシングチャンネルの視聴（60 分）

微生物学・病理学Ⅰ・看護技術Ⅰ（環境）等と関連付けながら学習する。

専門分野 I

【科目】看護技術Ⅴ 【単位数・時間】2単位（60時間）
 【担当講師】小倉裕香¹⁾ 船木見奈子²⁾ 間宮みどり³⁾ 河野トモ子⁴⁾
 【開講時期】通年 【配当年次】1年 【所属・職位等】1) 2) 3) 専任教員
 4) 都城医療センター看護師
 【実務経験】1) 看護師6年 2) 看護師11年 3) 看護師12年

【授業における到達目標】

対象を理解し、科学的根拠に基づいた看護実践に必要な技術であるコミュニケーション、フィジカルアセスメント、看護過程展開について修得する。

【授業の概要】

コミュニケーションでは、「人間関係論」や「心理学」における学びを土台に、医療者としてのコミュニケーションにおける基本的知識および態度について学習する。

フィジカルアセスメントでは、バイタルサインの測定およびフィジカルイグザミネーションによる観察や測定技術を習得し、臨床判断に基づいた具体的なアセスメントの過程を講義・演習を通して理解する。

看護過程展開では、推論について学び、看護における問題解決のために理論的な知識を用いて看護を展開する方法を学習する。

【アクティブ・ラーニング】

- ・コミュニケーション：実習後により例・悪い例をもとにコミュニケーションに必要なものは何か考え、意見交換する。
- ・フィジカルアセスメント：事例を用いて臨床判断にて演習を行い、意見交換や討議を行う。
- ・看護過程：推論、問題解決の思考過程について事例を用いた演習を行う。

【授業計画】

回数	内容・方法	講師	備考
第1回	コミュニケーションの概念 医療におけるコミュニケーションの意義・目的 コミュニケーションの構成要素	間宮	基礎看護学 実習Ⅰ（見 学実習）の 時期を考慮 して計画す る。
第2回	コミュニケーションに影響を及ぼす因子		
第3回	効果的なコミュニケーションの技術 コミュニケーション障害がある人への対応		
第4回	コミュニケーション技術向上のための方法		
第5回	ヘルスアセスメント及びフィジカルアセスメントの目的 観察の視点と内容、観察の方法	船木	
第6回	バイタルサインの基礎知識		

回数	内容・方法	講師	備考	
第7回	バイタルサインの測定（演習）	船木河野	20名ずつの少人数制とする。 観察に必要な物品、測定具及びシミュレーターなどの準備を行う。	
第8回	呼吸器・循環器・消化器のフィジカルイグザミネーション			
第9回	脳神経・感覚器・運動器のフィジカルイグザミネーション			
第10回	バイタルサインの測定（技術チェック）	船木河野		
第11回	症状・徴候からのフィジカルアセスメント（熱がある・胸が痛い・胸が苦しい：呼吸器・循環器）			
第12回	症状・徴候からのフィジカルアセスメント（お腹が痛い・むくみがある・おしっこの調子が悪い：消化器・腎泌尿器）			
第13回	症状・徴候にからのフィジカルアセスメント（頭がいたい・ふらふらする・しゃべりにくい：脳神経・運動器）			
第14回	臨床推論の思考過程（演習）	船木河野		
第15回				
第16回	看護過程の意義、看護過程と看護 看護過程の構成と看護理論	小倉		
第17回	推論について			
第18回 ～ 第20回	ロイ適応看護モデルに基づく看護過程展開 情報収集、行動のアセスメント（生理的適応様式）			
第21回 第22回	行動のアセスメント （自己概念様式、役割機能様式、相互依存様式）			
第23回	関連図			
第24回 第25回	刺激のアセスメントと看護診断			
第26回	看護目標設定と看護計画立案			
第27回 第28回	看護介入の実際			
第29回	評価			
第30回	終了試験			

【科目関連及び進度について】

- ・コミュニケーションについては、「看護学概論」「心理学」「人間関係論」の講義が開講してから開始する。
- ・フィジカルアセスメントについては、「病理学」「臨床看護総論（症状別）」の進度と合わせて開講する。
- ・看護過程については、看護学概論が終講した後に開講する。また、臨床看護総論と並行し、進度を計画する。

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

グループディスカッションの際には事前にレポート課題を提示する。

【評価方法】

＜コミュニケーション＞ 終了試験 100%

＜フィジカルアセスメント＞終了試験 80%（60 点）、課題・レポート 20%（15 点）

＊技術チェックについては、評価基準に則り、評価を行う。

技術チェックの合格をもって単位認定とする。

＜看護過程展開＞ 課題・レポート評価 100%

【テキスト】

＜コミュニケーション＞

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ 医学書院

＜フィジカルアセスメント＞

フィジカルアセスメントガイドブック 目と手と耳でここまでわかる 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ 医学書院

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 医学書院

看護技術プラクティス 学研

からだの地図帳 講談社

＜看護過程展開＞

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ（医学書院）

ザ・ロイ適応看護モデル（医学書院）

看護過程に沿った対症看護（学研メディカル秀潤社）

病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程＋病態関連図 3 版（医学書院）

看護診断ハンドブック 第 11 版（医学書院）

【参考文献】

＜フィジカルアセスメント＞

フィジカルアセスメントがみえる（メディックメディア）

【授業外における学修方法及び時間】

＜コミュニケーション＞＜看護過程展開＞

毎回 1 時間程度の事前学習を要する。

＜フィジカルアセスメント＞

毎回 1 時間程度の事前・学習を行い、本科目に関連するナースングチャンネルの視聴、技術練習などに取り組む。

専門分野 I

【科目】看護技術VI	【単位数・時間】1 単位 30 時間
【担当講師】船木見奈子 ¹⁾ 上野敏幸 ²⁾ 間宮みどり ³⁾ 作元辰也 ⁴⁾ 久留裕子 ⁵⁾ 清 唯 ⁶⁾	
【開講時期】1 学期	【配当年次】2 年
【所属・職位等】1) 2) 3) 専任教員	4) 都城医療センター臨床工学士
	5) 6) 都城医療センター看護師
【実務経験】1) 看護師 11 年	2) 看護師 7 年 3) 看護師 12 年

【授業における到達目標】

＜検査時の看護＞

1. 検査の種類、意義、目的について理解する
2. 検査の方法を理解する
3. 検査を安全、安楽、正確に実施するために看護師の役割について理解する
4. モデル人形を用いて真空採血管による静脈血採血の技術を習得する

＜穿刺・洗浄＞

1. 穿刺・洗浄の種類、目的、適応、方法について理解する
2. 穿刺・洗浄の実際を理解し、介助に必要な看護技術を理解する

＜呼吸管理に必要な看護技術＞

1. 呼吸管理に必要な看護技術を身につける
2. モデル人形を用いて、一時的吸引の技術を習得する

＜ME 機器を用いる患者の看護＞

1. ME 機器の原理や取り扱い、管理の知識を習得する

【授業の概要】

＜検査時の看護＞

検査の意義や目的、方法、看護師の役割を講義、演習を通して教授する

＜穿刺・洗浄＞

穿刺・洗浄する際の診療の補助技術や対象者への影響を教授する

＜呼吸管理に必要な看護技術＞

酸素吸入や気道内加湿法、排痰ケアによる呼吸管理についての技術を講義、演習をとおして教授する。

＜ME 機器を用いる患者の看護＞

臨床現場で使用頻度の高いME機器を取り上げ、目的や原理や安全対策について教授する。

【アクティブ・ラーニング】

演習時は、根拠や評価基準に則り、学生同士協働しながら、気づきや考えを共有しながら、技術を習得できるようにする。

講義では、自らの考えを発言する機会を多くする。

臨床現場で使用頻度の高いME機器を取り上げ、医療安全と関連させながら、自ら発言する機会を多くする。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
1 回	検査時の看護 生体検査の目的、種類、看護師の役割	船木	
2 回	検査時の看護 検体検査の目的、種類、看護師の役割		

回数	内容（方法）	講師	備考
3 回	検査時の看護 モデル人形を用いた真空採血管による静脈血採血（演習）		講義終了し、2 週間後にチェック 20 人ずつ分けて演習
4 回	検査時の看護 モデル人形を用いた真空採血管による静脈血採血の技術チェック		2 週間後に再チェック
5 回	検査時の看護 検査時の看護の演習		20 人ずつに分けて演習
6 回	穿刺・洗浄 胸腔穿刺の援助の知識、援助の実際 胸腔ドレナージを受ける対象の援助の実際	間宮	
7 回	穿刺・洗浄 腹腔穿刺、腰椎穿刺の援助の知識、援助の実際		
8 回	穿刺・洗浄 骨髄穿刺の援助の知識、援助の実際 胃洗浄の援助の知識、援助の実際		
9 回	呼吸管理に必要な看護技術 酸素吸入療法、気道内加湿法	上野	
10 回	呼吸管理に必要な看護技術 排痰ケアの援助		
11 回	呼吸管理に必要な看護技術 一時的吸引法の実際（演習） 気道内加湿法の実際（演習）		講義終了し、2 週間後にチェック 20 人ずつに分けて演習
12 回	呼吸管理に必要な看護技術 一時的吸引技術チェック		2 週間後に再チェック
13 回	ME 機器を用いる患者の看護 医療機器を安全に使用する環境	作元	
14 回	ME 機器を用いる患者の看護 測定用医療機器の原理、目的、保守点検		
15 回	ME 機器を用いる患者の看護 治療用医療機器の原理、目的、保守点検		

【科目関連及び進度について】

病理学Ⅱ（呼吸器系）、病理学Ⅳ（脳・神経系）、病理学Ⅴ（血液・リンパ）を想起し、看護技術Ⅶ（与薬）につながる内容である。

【試験・課題等の内容】

モデル人形を用いた真空採血管による静脈血採血
モデル人形を用いた一時的吸引
終了試験は授業で教授した内容から出題する
適宜、事前課題を要する

【評価方法】

〈検査時の看護〉 35 点

筆記試験と技術チェックの可否と併せて、判定する。
技術チェックについては、評価基準に則り、評価を行う。
不合格の場合は再技術チェックを行い、年度内に合格する

〈穿刺・洗浄〉 20 点

筆記試験で判定する

〈呼吸管理に必要な看護技術〉 25 点

筆記試験と技術チェックの可否と併せて、判定する。

技術チェックについては、評価基準に則り、評価を行う。

不合格の場合は再技術チェックを行い、年度内に合格する

〈ME 機器を用いる患者の看護〉 20 点

筆記試験で判定する

【テキスト】

〈検査時の看護〉

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院

根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院

〈穿刺・洗浄〉

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院

〈呼吸管理に必要な看護技術〉

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論

根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院

〈ME 機器を用いる患者の看護〉

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論

【参考文献】

看護技術プラクティス 学研

新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社

看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術

看護技術ベーシックス 医学芸術新社

【授業外における学修方法及び時間】

〈検査時の看護〉

1. 技術習得のための学生同士の技術練習及びシミュレーターを活用したタスクトレーニングに取り組む。技術練習は、教員が指導可能な日を明示し、技術習得を目指す。
2. ナーシングチャンネル 基礎看護技術マスターシリーズ：血液の検査と静脈血採血
3. ナーシングチャンネル 看護師が行う静脈注射：採血

〈穿刺・洗浄〉

1. ナーシングチャンネル 穿刺と看護

〈呼吸管理に必要な看護技術〉

1. 技術習得のための学生同士の技術練習及びシミュレーターを活用したタスクトレーニングに取り組む。技術練習は、教員が指導可能な日を明示し、技術習得を目指す。
2. ナーシングチャンネル 【看護実践能力向上シリーズ】映像で理解する吸引技術、【看護実践能力向上シリーズ】医療事故を防ぐ人工呼吸ケア

〈ME 機器を用いる患者の看護〉

1. 使用頻度の高い ME 機器に関する安全対策や原理を深めるための学習

専門分野 I

【科目】看護技術Ⅶ 【単位数・時間】1 単位 30 時間
 【担当講師】神野美子¹⁾ 一柳明日香²⁾ 内藤亜紀³⁾ 榎田美香⁴⁾
 【開講時期】通年 【配当年次】2 年
 【所属・職位等】1) 2) 専任教員 3) 4) 都城医療センター看護師
 【実務経験】1) 看護師 28 年 2) 7 年

【授業における到達目標】

＜与薬＞

3. 薬物療法の目的、方法、看護師の役割について理解できる
4. 輸液療法の目的、方法、看護師の役割について理解できる
5. モデル用いて、筋肉内注射、点滴静脈内注射の一連の動作の看護技術を習得する

＜創傷管理＞

1. 創傷処置に伴う看護技術について理解する
2. 褥瘡予防の看護技術について理解する
3. 包帯法の技術を習得する

【授業の概要】

＜与薬＞

薬物療法、輸液療法についての看護技術を講義、演習を通して教授する

＜創傷管理＞

創傷管理、褥瘡予防、包帯法における看護技術を講義、演習を通して教授する

【アクティブ・ラーニング】

演習時は、根拠や評価基準に則り、学生同士協働しながら、技術を習得できるようにする。

講義では、自らの考えを発言する機会を多くする。

講義・演習を通して、与薬時に起こりやすいリスクを考える。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
1	薬物療法の理解、看護師の役割、患者への援助、 経口与薬法、口腔内与薬法の援助の実際	神野	
2	外用薬の与薬の援助の実際		
3	注射法の基礎知識とその援助、看護師の役割 ①皮下注射②皮内注射③筋肉内注射		
4	筋肉内注射の技術演習		3 日目終了後、1 週間以内 演習は 1 回の授業人数を半 数で実施する。
5	筋肉内注射の技術チェック		第 4 回講義終了 2 週間後に チェック 2 週間後に再チェック
6	注射法 ①静脈内注射②点滴静脈内注射③中心静脈内注射		
7	点滴静脈内注射の技術演習		第 6 回終了 1 週間以内 演習は 1 回の授業人数を半 数で実施する。
8			
9	点滴静脈内注射のチェック		第 7, 8 回講義終了 3 週間後 にチェック 2 週間後に再チェック

回数	内容（方法）	講師	備考
1 0	持続点滴中の患者の看護（講義・演習）		演習は 1 回の授業人数を半数で実施する。
1 1			
1 2	輸血療法時の看護		
1 3	創の治癒過程 創傷処置の目的、方法、管理 包帯法の目的、方法	一柳	
1 4	褥瘡の発生のメカニズム 褥瘡予防 褥瘡の評価と処置		
1 5	包帯法、創傷管理（演習）		

【科目関連及び進度について】

看護技術Ⅵ（検査時の看護）を想起し、看護技術Ⅵ（ME 機器を用いる患者の看護）、薬理学Ⅱ、病理学Ⅳ（皮膚）、成人看護方法論Ⅱと関連する科目である。

看護技術Ⅵ（ME 機器を用いる患者の看護）開始後、第 6 回の講義を開始する。病理学Ⅳ（皮膚）終了後、創傷管理を開始する。

【試験・課題等の内容】

モデルを用いた筋肉内注射、点滴静脈内注射

適宜、事前課題を要する

終了試験は授業で教授した内容から出題する

【評価方法】

〈与薬〉 80 点

筆記試験で判定する。技術チェックについては、評価基準に則り、評価を行う。

不合格の場合は再技術チェックを行い、年度内に合格する。

〈創傷管理〉 20 点

筆記試験で判定する

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院

【参考文献】

新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社

看護技術ベーシックス 医学芸術新社

看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア

看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア

看護技術プラクティス 学研

【授業外における学修方法及び時間】

〈与薬〉

4. 技術習得のための学生同士の技術練習及びシミュレーターを活用したタスクトレーニングに取り組む。技術練習は、教員が指導可能な日を明示し、技術習得を目指す。

5. ナーシングチャンネル 与薬、看護師が行う静脈注射

6. ナーシングチャンネル 看護実践能力向上シリーズ 与薬

〈創傷管理〉

ナーシングチャンネル 人体の構造と機能 第 4 巻 皮膚と粘膜

専門分野 I

【科目】臨床看護総論 【単位数・時間】1 単位（30 時間）
 【担当講師】神野美子¹⁾ 上野敏幸²⁾ 【開講時期】通年 【配当年次】1 年
 【所属・職位等】1) 2) 専任教員
 【実務経験】1) 看護師 28 年 2) 看護師 7 年

【授業における到達目標】

1. 各経過期の概念と患者の特徴を理解し、各経過期に応じた必要な看護について理解する。
2. 主な症状のメカニズムと患者の特徴をふまえた看護について理解する。
3. 治療を受ける患者の特徴を理解し、看護目標と援助方法について理解する。
4. 手術療法や化学療法、放射線療法による有害事象のメカニズムと患者の特徴をふまえた看護について理解する。

【授業の概要】

解剖生理や疾患の理解をふまえ、疾患により各経過期をたどる患者の特徴及び看護について理解できるよう教授する。また、各疾患によって生じる症状のメカニズムと必要な看護について享受し、主な治療として手術療法、放射線療法、化学療法について学び、患者の特徴と必要な看護について教授する。

【アクティブラーニング】

グループワークや授業中の発問や討議により、臨床判断に基づいて自ら思考する機会とする。

【授業計画】

回数		内容（方法）	講師	備考
1 回目	経過期に応じた看護	健康状態の維持・増進を目指す看護 健康状態の経過に基づく看護	神野	
2 回目		急性期における看護		
3 回目		慢性期における看護		
4 回目		リハビリテーション期における看護		
5 回目		終末期における看護		
6 回目	症状に応じた看護	呼吸困難のある患者の看護	上野	
7 回目		循環障害、浮腫のある患者の看護		
8 回目		発熱、脱水のある患者の看護		
9 回目		吐き気・嘔吐のある患者の看護 排泄障害のある患者の看護		
10 回目		認知機能・知覚機能障害のある患者の看護		
11 回目		痛みのある患者の看護		
12 回目	治療を受ける患者の看護	手術療法を受ける患者の看護	上野	
13 回目		放射線療法を受ける患者の看護		
14 回目		化学療法を受ける患者の看護		
15 回目				

【科目関連及び進度について】

解剖生理学、病態生理学、治療法総論、フィジカルアセスメントの学びを関連付け、臨床判断に基づいて思考する。

進度については、「経過期に応じた看護」「症状に応じた看護」については、解剖生理学、病態生理学、フィジカルアセスメントの進度を考慮して開講する。また、「治療を受ける患者の看護」については、治療法総論が終了後に開講する。

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

【評価方法】

試験の成績、レポート課題にて評価する。

- ①授業計画：第1回～第5回の範囲 35%
- ②授業計画：第6回～第11回の範囲 45%
- ③授業計画：第12回～第15回の範囲 20%

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学[4]，医学書院
看護過程に沿った対症看護 第4版，学研
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論，医学書院
系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学，医学書院
病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程＋病態関連図 3版，医学書院

【参考文献】

病気がみえる7 脳・神経 メディックメディア
病気がみえる8 腎・泌尿器 メディックメディア

【授業外における学修方法及び時間】※15時間

15時間の自己学習時間は、本科目に関連するナースングチャンネルの視聴、講義前後の課題に取り組む。

専門分野 I

【科目】基礎看護学実習Ⅰ	【単位数・時間】1 単位（4 5 時間）	
【開講時期】6 月、1 月	【配当年次】1 年	
【担当講師】間宮みどり	【所属・職位等】専任教員	【実務経験】看護師 12 年

【授業における到達目標】

＜基礎看護学実習 I：見学実習＞

1. 患者の入院生活の実際を知る。
2. 看護師が行っている看護活動の実際について理解する。
3. 患者との接し方の基本を学ぶ。

＜基礎看護学実習 I：日常生活援助実習＞

1. 患者のもつニーズと発生した理由を述べることができる。
2. 患者のニーズに応じて日常生活援助を実施することができる。
3. 受け持ち患者と良好な人間関係を保つことができる。
4. 患者を取り巻く保健医療チームの中で責任ある行動を取ることができる。

【授業の概要】

見学実習では、患者の生活している病床環境を理解し、看護活動の実際を学ぶ。また、患者とのコミュニケーションを通して、家とは違う場所で生活している患者の気持ちを理解し、相手を尊重した言葉遣いや態度を考え、行動することを学ぶ。

日常生活援助実習では、受け持ち患者を 1 名担当し、患者のもつニーズと発生した理由を明らかにし、患者のニーズに応じた日常生活援助を実践する。

【実習期間】

＜基礎看護学実習 I：見学実習＞

令和 3 年 6 月 2 日（水）のうち、7.5 時間

＜基礎看護学実習 I：日常生活援助実習＞

令和 4 年 1 月 17 日（月）～令和 4 年 1 月 28 日（金）のうち、37.5 時間

【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター

【授業計画】

詳細は、基礎看護学実習 I 要項参照

【評価方法】

評価基準をもとに看護実践や実習態度、実習記録を評価する。（配点：100 点）

【実習外における学修方法及び時間】

1. 実習要綱に示している実習前の事前学習、受け持ち患者の疾患及び症状、検査、治療、看護に伴う学習を行う。
2. 受け持ち患者に必要な看護技術の事前練習
3. その他、事前課題として提示したもの

専門分野 I

【科目】基礎看護学実習Ⅱ	【単位数・時間】2単位（90時間）
【開講時期】7月	【配当年次】2年
【担当講師】小倉裕香	【所属・職位等】専任教員 【実務経験】看護師6年

【授業における到達目標】

1. 受け持ち患者のアセスメントができる。
2. 受け持ち患者の看護問題を明確にできる。
3. 看護計画を立案できる。
4. 患者の状態に応じた援助を実施できる。
5. 実施した看護の評価ができる。
6. 受け持ち患者との関わりから自己の傾向・課題がわかる。
7. 看護チームの一員であることを自覚し、看護者として責任ある行動がとれる。

【授業の概要】

基礎看護学実習Ⅱでは、受け持ち患者を1名担当し、看護過程の思考過程を用いて対象を理解し、必要な看護を実践する。

【実習期間】

令和3年7月12日～令和3年7月30日のうち連続する12日間

【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター

【授業計画】

詳細は、基礎看護学実習Ⅱ 要項参照

【評価方法】

評価基準をもとに看護実践や実習態度、実習記録を評価する。（配点：100点）

【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習要項に示している実習前の事前学習、受け持ち患者の疾患及び症状、検査、治療、看護に伴う学習を行う。
2. 受け持ち患者に必要な看護技術の事前練習

専門分野Ⅱ

【科目】成人看護学概論	【単位数・時間】1単位（30時間）
【担当講師】間宮みどり	【開講時期】通年
【所属・職位等】専任教員	【配当年次】1年
	【実務経験】看護師 12年

【授業における到達目標】

1. 成人各期にある対象を身体的、精神的、社会的側面から理解し、成人期の健康問題と看護の役割を理解する。
2. 成人各期の特徴と発達課題、生活について理解し、健康レベルに応じた看護について理解する。

【授業の概要】

成人を取り巻く現代社会での個人の発達、健康に関する状況をもとに、成人期の人々が暮らす社会環境と健康維持について学習を深める。また、成人期の人々の健康障害に視点を置き、急性期看護、慢性期看護、終末期の看護の各健康段階に応じた看護の基礎知識を習得し、成人看護方法論の科目につなげる。看護の概念に関しては、エンパワメント、ストレス・コーピング、セルフケア等の考え方を知って対象の理解を深める。

【アクティブ・ラーニング】

学生の主体的な学習を進めるために、講義では学生が考え発言する機会をつくり、グループディスカッションを取り入れる。グループワーク・発表を通して発信力・協調性・傾聴力を高められるよう学習をすすめる。

【授業計画】

回数	内容（方法）	備考
1回目	成人看護の対象（講義）	
2回目	成長発達過程からみた成人の特徴～青年期（講義）	
3回目	成長発達過程からみた成人の特徴～壮年期（講義）	
4回目	成長発達過程からみた成人の特徴～向老期（講義）	
5回目	発達課題について（講義）	
6回目	成人期 青年期と壮年期・向老期の違い(グループワーク)	
7回目	成人の健康の動向(講義)	
8回目	成人を対象とした保健医療福祉対策(講義)	
9回目	健康障害をもつ成人に関わる基本的な視点(講義)	
10回目	成人期の健康生活を育む看護～ヘルスプロモーション(講義)	
11回目	健康レベルに対応した看護～健康の危機的状態への支援【急性期】(講義)	
12回目	健康レベルに対応した看護～慢性の病との共存を支える看護【慢性期】(講義)	
13回目	健康レベルに対応した看護～障害がある人の生活とリハビリテーション【回復期】(講義)	
14回目	健康レベルに対応した看護～人生の最期の時支える看護【終末期】(講義)	
15回目	地域・在宅への継続医療と看護 地域における包括ケアシステム・退院支援・退院後の看護	

【科目関連及び進度について】

看護学概論の授業が開講した後、5月後半頃より開講予定
2年次の成人看護方法論Ⅰ～Ⅲにつながる科目である。

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

グループディスカッションの際には事前にレポート課題を提示する。

【評価方法】

終了試験・課題レポートを含み 100%

【テキスト】

成人看護概論・成人保健	メヂカルフレンド社
国民衛生の動向	厚生労働統計協会

【参考文献】

【授業外における学修方法及び時間】

1. 成人各期の特徴について、課題を提示するため、事前課題に取り組む。内容についてはグループでまとめ時間内に発表し、内容を共有する。
2. 授業終了後に配布する課題に基づいて復習して、授業内容の理解を深める。次回の授業時に課題を提出し、授業開始時に小テストを行うので準備しておく。

専門分野Ⅱ

【科目】成人看護方法論Ⅰ **【単位数・時間】**2単位(60時間)
【担当講師】神野 美子¹⁾・酒井 茉那²⁾・福田 幸子²⁾・杉田 真美²⁾ 清水和彦³⁾
【開講時期】通年 **【配当年次】**2年
【所属・職位等】1)専任教員 2)宮崎東病院副看護師長 3)都城医療センター看護師
【実務経験】看護師 28年

【授業における到達目標】

1. 慢性期における成人の特徴と看護について理解することができる
2. 慢性期における成人期の糖尿病の事例をもとに、看護計画・支援計画を作成・実施することができる
3. 再燃と緩解を繰り返しながら、徐々に機能低下をすることにより、セルフケア再獲得の必要な患者・家族と看護の特徴を理解する
4. 進行性慢性期として、難病特に ALS 及び筋ジストロフィの事例をもとに、進行性の身体機能の低下により、日常生活行動が困難になり、自己概念のゆらぎ・障害受容の葛藤がある患者・家族と看護の特徴を理解する

【授業の概要】

慢性疾患や難病により、症状をコントロールし病気と共に生活を送るために、対象の心理・社会的変化を理解し、セルフマネジメントするための援助方法及び家族への支援について学ぶ

健康障害により日常生活が規制され、生涯にわたり身体機能障害とともに生きる対象の心理・社会的変化を理解し、身体機能障害への適応、残存機能の維持、社会復帰への援助方法及び家族への支援について学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

グループディスカッション、演習、ロールプレイ

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
	緩やかな経過をたどる慢性期の看護		
1 回目	慢性期にある成人の特徴と看護の役割～行動変容を促す支援・	神野美子	
2 回目	慢性期にある成人を理解するための概念・看護の概念	神野美子	
3 回目	緩やかな経過をたどる慢性期にある患者の看護 糖尿病患者の事例 対象理解	神野美子	
4 回目	緩やかな経過をたどる慢性期にある患者の看護 糖尿病患者の事例 対象理解	神野美子	
5 回目	緩やかな経過をたどる慢性期にある患者の看護 糖尿病患者が腎機能低下となった 治療と看護	清水和彦	3～4 回目と同時進行可能
6 回目	緩やかな経過をたどる慢性期にある患者の治療 糖尿病患者が腎機能低下となった 治療と看護	清水和彦	週 1 での計画
7 回目	緩やかな経過をたどる慢性期にある患者の看護 糖尿病患者の看護計画立案	神野美子	7～10 回目までは週 1 での計画
8 回目	緩やかな経過をたどる慢性期にある患者の看護 ～インシュリン皮下注射について	神野美子	

回数	内容（方法）	講師	備考
9 回目	緩やかな経過をたどる慢性期にある患者の看護 インシュリン自己注射の実際（技術演習）	神野美子	
10 回目	緩やかな経過をたどる慢性期にある患者の看護 インシュリン自己注射の実際（技術演習）	神野美子	
11 回目	緩やかな経過をたどる慢性期にある患者の看護 糖尿病患者の支援計画の立案	神野美子	11～14 回は隔週で計画
12 回目	緩やかな経過をたどる慢性期にある患者の看護 糖尿病患者の支援計画の立案	神野美子	
13 回目	緩やかな経過をたどる慢性期にある患者の看護 糖尿病患者の支援計画の立案	神野美子	
14 回目	緩やかな経過をたどる慢性期にある患者の看護 糖尿病患者の支援計画の実際（ロールプレイ）	神野美子	
15 回目	緩やかな経過をたどる慢性期にある患者の看護 糖尿病患者の支援計画の実際（ロールプレイ）	神野美子	
	進行性慢性期・再燃と寛解を繰り返す慢性期の看護		
16 回目	進行性慢性期・再燃と寛解を繰り返す慢性期の患者の特徴と看護の役割（講義） ～障害受容と価値の転換	神野美子	
17 回目	進行性慢性期にある患者の特徴 筋ジストロフィ患者にある患者の自己概念の揺らぎ・ボディイメージの変容と地域で生活するとりくみ	酒井茉那	17～20 回は同時進行可能
18 回目	進行性慢性期にある患者の看護 筋ジストロフィ患者の治療・看護の現状と政策医療	酒井茉那	
19 回目	進行性慢性期にある患者の特徴 神経難病・ALS の患者の意思決定への支援	福田幸子	
20 回目	進行性慢性期にある患者の看護 神経難病・ALS の患者の治療と看護の現状と政策医療	福田幸子	
21 回目	進行性慢性期にある患者の看護の実際 校外学習 ALS・筋ジストロフィ患者の看護の実際 宮崎東病院・南九州病院へ	酒井茉那 福田幸子	17～20 回は 21 回実施日前までに終了（9 月）
22 回目	再燃と寛解を繰り返す慢性期にある患者の特徴 感染症・結核である患者の療養生活の長期化により自立や社会復帰への意欲の減退	杉田真美	
23 回目	再燃と寛解を繰り返す慢性期にある患者の特徴 結核感染症の治療・看護の現状と政策医療	杉田真美	
24 回目	再燃と寛解を繰り返す慢性期にある患治療 関節リウマチの基礎療法とリハビリテーション	神野美子	
25 回目	再燃と寛解を繰り返す慢性期にある患者の看護 ボディイメージの変容・役割遂行困難	神野美子	
26 回目	再燃と寛解を繰り返す慢性期にある患者の看護 日常生活の援助	神野美子	
27 回目	再燃と寛解を繰り返す慢性期にある患者の看護 日常生活の援助	神野美子	
28 回目	再燃と寛解を繰り返す慢性期にある患者の看護 関節リウマチ患者の支援計画立案	神野美子	

回数	内容（方法）	講師	備考
29 回目	再燃と寛解を繰り返す慢性期にある患者の看護 関節リウマチ患者の支援計画立案	神野美子	
30 回目	慢性期にある患者の看護 ～地域で生活するうえでの社会資源の活用～の現状	神野美子	

【科目関連及び進度について】

病理学Ⅱ内分泌の授業が1年次に終了している上で、4月後半頃より開講予定
病理学Ⅴ関節リウマチの講義開始後24回目を計画

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。
終了試験は授業で教授した内容から出題する。
グループディスカッションの際には事前にレポート課題を提示する。

【評価方法】

終了試験について200点配点とする
1回目～15回目の内容で100点満点とする。
16回目～30回目の内容で100点満点とする。
科目の評価は、それぞれの試験の平均点とし、これが60点に満たない場合は、再試験とする。
再試験においては、支援計画も追加修正を行い、すべてのオムニバスの範囲について再試験とする。

【テキスト】

経過別看護 新体系看護学全書 専門分野Ⅱ 慢性期看護 メヂカルフレンド社
経過別看護 リハビリテーション看護 南江堂

【参考文献】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11]アレルギー 膠原病 感染症（医学書院）
系統看護学講座 成人看護学[8]腎・泌尿器（医学書院）
系統看護学講座 成人看護学[10]運動器（医学書院）
系統看護学講座 成人看護学[11]アレルギー 膠原病 感染症（医学書院）
系統看護学講座 基礎看護学（2） 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院
からだの地図帳 講談社
看護教育シリーズ 看護のためのアセスメント事例集 vol13「糖尿病教育入院患者の看護事例

【授業外における学修方法及び時間】

1. 糖尿病の事例を用いて、対象理解をすすめ看護計画立案及び支援計画立案に関する事前課題を提示するため、事前課題に取り組む。
使用教材：DVD 看護のためのアセスメント事例集 vol13「糖尿病教育入院患者の看護事例」をもとに、対象理解・看護計画立案を行う。
2. 成人期にあるALS・筋ジストロフィの患者の看護の実際については、NHO 宮崎東病院 NHO 南九州病院で学ぶ。

専門分野Ⅱ

【科目】成人看護方法論Ⅱ	【単位数・時間】2単位 45時間
【担当講師】船木見奈子 ¹⁾ 、山菅詠子 ²⁾	
【開講時期】通年	【配当年次】2年
【所属・職位等】1)専任教員	2)都城医療センター副看護師長・手術看護認定看護師
【実務経験】1)看護師 11年	

【授業における到達目標】

1. 急性期における対象と家族の看護について理解できる
2. 救急看護について理解できる
3. 集中治療について理解できる
4. 周手術期にある対象・家族の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、看護過程の展開ができる
5. 突然病気を発症し、治療を受ける対象と家族の看護について理解できる
6. 慢性疾患があり、急性増悪した対象と家族の看護について理解できる

【授業の概要】

1. 急性期における対象や家族の看護について教授する。
2. 救急看護における対象や家族の看護について教授する
3. 手術前・手術中・手術後の対象を援助する方法や術後合併症を予防するための方法を学ぶ。
4. 手術による機能障害や形態の変化を理解し、術後の健康回復を促進するための看護を学ぶ
5. 慢性疾患があり、急性増悪した対象、家族への看護やコントロールしながら、生活をしていくことを学ぶ

【アクティブ・ラーニング】

講義では、自らの考えを発言する機会を多くする。

事例を用いたペーパシミュレーションでは、グループワークを行い、演習や全体発表、検討会を行う

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
1	急性期の対象・家族の特徴と看護	船木	
2	救急医療における看護		
3	救急看護 演習		実習室を使用。 20人にずつに分けて実施。
4	集中治療における看護		
5	手術療法を受ける対象の看護 周手術期の看護の特徴、術前の看護	船木	
6	手術療法を受ける対象と家族の看護 術前の看護 演習		
7	手術療法を受ける対象と家族の看護 手術中の看護	手術室認定 看護師	
8	手術療法を受ける対象の看護 手術直後の看護、術後合併症予防の看護	船木	
9	手術療法を受ける対象の看護 術後合併症予防の看護		

回数	内容（方法）	講師	備考
10	手術療法を受ける対象と家族の看護 術後合併症予防の看護、退院支援の看護		
11	手術療法を受ける対象と家族の看護 胃切除を受ける対象の看護過程の展開	船木	隔週で講義
12	手術療法を受ける対象と家族の看護 胃切除を受ける対象の看護過程の展開		
13	手術療法を受ける対象と家族の看護 胃切除を受ける対象の看護過程の展開		
14	看手術療法を受ける対象と家族の看護 胃切除を受ける対象の看護過程の展開		
15	手術療法を受ける対象と家族の看護 胃切除を受けた対象の看護過程の展開		
16	手術療法を受ける対象と家族の看護 術後合併症のフィジカルアセスメント 演習		実習室を使用。 20人にずつに分けて実施。
17	突然発症し、治療を受ける対象と家族の看護 循環機能障害のある対象の特徴、心筋梗塞を発症した 対象のアセスメント対象と家族の特徴、	船木	4回目が終了後より開始
18	突然発症し、治療を受ける対象と家族の看護 心筋梗塞を発症した対象の治療・検査の目的、看護		
19	突然発症し、治療を受ける対象と家族の看護 心筋梗塞を発症し、手術をうける対象の術前の看護と 家族への看護		
20	突然発症し、治療を受ける対象と家族の看護 心筋梗塞を発症し、手術を受ける対象の術後から回復 過程への看護と家族への看護		実習室を使用。 20人にずつに分けて実施。
21	慢性疾患の急性増悪した対象と家族の看護 対象の特徴と看護、治療・検査の目的と看護	船木	4回目が終了後より開始
22	慢性疾患の急性増悪した対象と家族の看護 退院支援について		
	終了試験		

【科目関連及び進度について】

解剖生理学、病理学、看護技術Ⅴを想起しながら、学習していく。

【試験・課題等の内容】

適宜、事前課題を要する

終了試験は授業で教授した内容から出題する

【評価方法】

第1回～第4回：20点

第5回～第16回：50点

第17回～20回：20点

第21回～22回：10点

【テキスト】

臨床外科看護総論 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器 医学書院

成人看護学 急性期看護Ⅰ 南江堂
成人看護学 急性期看護Ⅱ 南江堂
新体系看護学全書 経過別成人看護学③ 慢性期看護

【参考文献】

新体系 看護学全書 循環器 メヂカルフレンド社
病気がみえる 消化器 メディックメディア
病気がみえる 循環器 メディックメディア

【授業外における学修方法及び時間】

1. ナーシングチャンネル 周手術期看護
2. 次回の講義に対する事前の課題を提示するため、毎回1時間程度の事前学習を要する
3. ナーシングチャンネル 第7巻 第8巻 循環系

専門分野Ⅱ

【科目】成人看護方法論Ⅲ	【単位数・時間】1 単位（30 時間）
【開講時期】通年	【配当年次】2 年
【担当講師】間宮みどり ¹⁾ 児玉みゆき ²⁾ 清武香 ³⁾	
【所属・職位等】1)専任教員 2)都城医療センターがん疼痛看護認定看護師 3)都城医療センター緩和ケア認定看護師	【実務経験】1)看護師 12 年

【授業における到達目標】

1. 終末期ある患者と家族の特徴を理解する。
2. 終末期にある患者と家族の全人的苦痛を理解する。
3. 終末期にある患者と家族を支える看護について理解する。
4. 人の尊厳とは何かを理解し、その人らしく最期まで生きることの意義を考える。

【授業の概要】

終末期看護及び緩和ケアを必要とする成人とその家族を支えるために、人間の尊厳を考え、最期まで生きることを支えるケアについて学習する。

【アクティブ・ラーニング】

- ・終末期の経過期別の状況から、患者・家族の特徴について事例を通して意見交換や討議を行う。
- ・亜急性期の経過をたどる終末期にある患者・家族の事例を用いて、全人的苦痛の理解と緩和ケアについて意見交換や討議を行う。
- ・臨死期にある患者・家族の事例を用いて看取りのケアやグリーフケア、倫理的課題について意見交換や討議を行う。

【授業計画】

回数	内容・方法	講師	備考
第1回	終末期にある患者・家族の特徴と看護 ・亜急性あるいは慢性な経過をたどりながら終末期に移行する患者・家族の看護 ・全身の機能低下とホメオスタシスとのバランス保持による生命維持 ・迫りくる死を意識せざるを得ない日常を送る患者・家族の苦悩	間宮	
第2～4回	亜急性の経過をたどる終末期にある患者・家族の看護 ・全身倦怠感、食欲不振、痛み、便秘、不眠、呼吸困難などの身体症状の出現や身体機能の衰えた状態にある患者・家族の看護 ・亜急性の経過をたどる終末期にある患者・家族の全人的苦痛	緩和ケア認定看護師 がん疼痛看護認定看護師	
第5～8回	亜急性の経過をたどる終末期にある患者・家族の看護 ・様々な日常生活行動の障害 ・病状への不安や死に向かう恐怖 ・社会的役割の喪失や孤独感、自尊感情の低下 ・自己の存在や生きる意味・目的などが脅かされている苦悩	間宮	第1回～第4回が終了後に看護過程を展開する。 亜急性の経過をたどる事例を通して理解する。

回数	内容・方法	講師	備考
	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の予期悲嘆 ・亜急性の経過をたどる終末期にある患者・家族の全人的苦痛に対する看護 		
第9～11回	慢性の経過をたどる終末期にある患者・家族の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・慢性的な疾患・機能障害の増悪や回復を繰り返しながら徐々に症状が進行している状態にある患者・家族の看護 ・死を回避するための対症療法（呼吸療法、薬物療法、輸血療法など） ・身体機能の悪化に伴う呼吸困難、倦怠感、疼痛、感染症、廃用症候群などの苦痛症状や体力の低下 ・日常生活行動の障害 ・リハビリテーション ・地域包括ケアチームによる地域でその人らしく生きるための退院調整 ・アドバンスケアプランニング 	緩和ケア認定看護師	
第12～15回	臨死期にある患者・家族の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・慢性的な疾患・機能障害の増悪や回復を繰り返しながら徐々に症状が進行している状態にある患者・家族の看護 ・死を回避するための対症療法（呼吸療法、薬物療法、輸血療法など） ・身体機能の悪化に伴う呼吸困難、倦怠感、疼痛、感染症、廃用症候群などの苦痛症状や体力の低下 ・日常生活行動の障害 ・リハビリテーション ・地域包括ケアチームによる地域でその人らしく生きるための退院調整 ・アドバンスケアプランニング ・臨死期にある患者・家族の全人的苦痛に対する看護 	間宮	第5回～第8回が終了後に開講する。臨死期にある事例を通して理解する。

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

グループディスカッションの際には事前にレポート課題を提示する。

【科目関連及び進度について】

成人看護学概論、臨床看護総論、解剖生理学、病態生理学、治療法総論、フィジカルアセスメント、看護技術に関する授業の学びを関連付け、臨床判断に基づいて思考する。

進度については、「終末期にある患者・家族の特徴と看護」の概要に基づいて経過期に応じた対象の特徴と看護を開講する。また、看護過程については、緩和ケア認定看護師とがん疼痛看護認定看護師による講義（第5回～11回）を終了後、「亜急性の経過をたどる終末期にある患者・家族の看護」から「臨死期にある患者・家族の看護」の経過において展開する。

【評価方法】

終了試験 70 点

看護過程レポート 30 点

【テキスト】

新体系看護学全書 経過別成人看護学 4 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア
（メジカルフレンド）

病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程＋病態関連図（学研）

看護過程に沿った対症看護 第 5 版 病態生理と看護のポイント（学研）

新体系 看護学全書 専門分野Ⅱ 成人看護学 1 成人看護学概論・成人保健（メジカルフレンド社）

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器（医学書院）

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 血液・造血器（医学書院）

【参考文献】

国民衛生の動向

【授業外における学修方法及び時間】

15 時間の自己学習時間は校外授業、本科目に関連するナースングチャンネルの視聴、文献講読、看護過程の展開等の課題に取り組む。

専門分野Ⅱ

【科目】老年看護学概論	【単位数・時間】1 単位(30 時間)
【担当講師】後藤広行 ¹⁾ 草原麻紀 ²⁾	【開講時期】第 1 学期
【所属・職位等】専任教員	【配当年次】1 年
	【実務経験】1) 看護師 16 年 2) 看護師 11 年

【授業における到達目標】

老年期にある対象の特性及び対象のおかれている状況について理解し、老年期の看護の役割を理解する。

【授業の概要】

本授業では、高齢者の自我発達に基本を置いたうえで、下記の①～③について学ぶ。①老いに伴う変化と向き合いながら生活している高齢者を理解する。②高齢者が生活している社会や高齢者を取り巻く保健医療福祉制度について理解する。③よりよい社会・地域づくりのための多職種協働・連携について学び、④高齢者の尊厳が守られ、安心して生活できる地域づくりや老年看護の役割について考えを深める。

【アクティブ・ラーニング】

- ・事例を用いたグループワークを行い、全体発表・検討会を行う。
- ・授業においては、自らの考えを発言する機会を多くする。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
第 1 回	高齢者の理解	草原	
第 2 回	1. 老いの意味 2. 老年期の理解：人間発達論からとらえた老年期 発達段階・発達課題からとらえた老年期 3. 老いと生活史		
第 3 回	身体機能の加齢変化とアセスメント		
第 4 回	(グループワーク)		
第 5 回	高齢者の暮らし 1. 世帯構造 2. 高齢者の生活リズム、生活習慣、生活様式		
第 6 回	高齢者の保健・医療・福祉の変遷と動向		
第 7 回			
第 8 回	介護保険制度、地域包括ケアシステム		
第 9 回	高齢者の健康レベルに合わせた多職種協働・連携 1. 予防のための多職種協働・連携 2. 療養生活のための多職種協働・連携 3. 地域包括ケアシステムの構築に向けた協働・連携		
第 10 回	家族の機能と看護：家族システム理論	後藤	
第 11 回	高齢者の権利擁護		
第 12 回	1. 高齢者の倫理的課題と法的整備について 2. 高齢者虐待の防止、身体拘束について (事例分析・検討：原則の倫理の視点から)		
第 13 回	老年看護に活用できる理論（事例の活用） 1. サクセスフルエイジング 2. ウェルネスアプローチ 3. レジリエンス 4. エンパワメント		

第 14 回	老年看護の特徴と役割		
第 15 回			

【科目関連および進度】

成人看護学概論において、「成人期の特徴」「成人の健康の動向」まで進んだ時期に、老年看護学概論を開講する。また、医療・保健・福祉制度については、社会福祉の講義が終了した後に、老年看護学概論の「高齢者の保健・医療・福祉の変遷と動向」が始まるように進度を調整する。

【試験・課題等の内容】

高齢者の理解を深めるために高齢者のライフサイクルを調べる課題等を示す

グループワークで活発な意見交換を行い学びを深めるために、調べ学習やレポートなどの課題を示す

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

老年看護学概論（改訂版第2版）「老いを生きる」を支えることとは 正木治恵 南江堂

国民衛生の動向 2021/2022 厚生労働統計協会

国民の福祉と介護の動向 2021/2022 厚生労働統計協会

【参考文献】

最新 老年看護学 第3版 水野敏子、水谷信子著

【授業外における学修方法及び時間】

次回の授業に対する事前の課題を提示するため、毎回1時間程度の事前学習を要する。

専門分野Ⅱ

【科目】 老年看護方法論Ⅰ	【単位数・時間】 1 単位・30 時間
【担当講師】 後藤広行	【開講時期】 後期
【所属・職位等】 看護師 16 年	【配当年次】 1 年

【授業における到達目標】

高齢者の加齢変化や健康障害により生じる身体的・心理的・社会的な健康状態の特徴を捉え、高齢者の生活機能に着目したアセスメントと援助について理解する。

【授業の概要】

高齢者の「もてる力」に着目し「その人らしい生活」を支えるための看護について学習する。生活行動（活動、休息、食事、排泄、身じたく、コミュニケーション）の視点から高齢者の生活機能を捉え、それを整える援助について学習する。

【アクティブ・ラーニング】

生活行動に係る様々な事例場面から生活機能を整える援助について自らの考えを述べる。

【授業計画】

回数	内容（方法）	備考
第 1 回	高齢者の加齢変化と健康障害による生活行動への影響 1 1) 睡眠と覚醒のリズム 2) 呼吸機能 3) 循環機能 4) 動作と移動（基本動作）の特徴	
第 2 回	高齢者の加齢変化と健康障害による生活行動への影響 5) 認知機能 6) 感覚器機能 7) 体温 8) 皮膚・組織の脆弱性	
第 3 回	高齢者への環境整備 1) 安全な環境の整備 2) 身体・認知機能の低下を防ぐ環境の整備	
第 4 回	高齢者のコミュニケーションのアセスメントと看護 1) 感覚器機能低下のある高齢者とのコミュニケーションを促進する援助 2) 認知機能低下のある高齢者とのコミュニケーションを促進する援助	
第 5 回	高齢者の活動のアセスメントと看護 1) 活動する意欲に働きかける援助 2) その人らしい活動参加への援助	
第 6 回	高齢者の休息のアセスメントと看護 1) 身体的な休息を促す援助 2) 心理的な休息を促す援助	
第 7 回	高齢者の食事のアセスメントと看護 1 1) 高齢者の食事の目的 2) 高齢者の食生活と食事行動の特徴	
第 8 回	高齢者の食事のアセスメントと看護 2 1) 食欲の低下している高齢者への援助 2) 摂食・嚥下機能が低下している高齢者への援助 3) 認知機能障害のある高齢者への援助	
第 9 回	高齢者の排泄のアセスメントと看護 1 1) 高齢者の排尿・排便に係る身体的・心理的・社会的な特徴	
第 10 回	高齢者の排泄のアセスメントと看護 2 1) 頻尿や失禁の不安のある高齢者への援助 2) 認知機能障害のある高齢者への排尿・排便の援助 3) 身体機能低下のある高齢者への排尿・排便の援助	
第 11 回	高齢者の身じたくのアセスメントと看護 1 1) 高齢者の身じたくの目的 2) 高齢者の身じたくに生じる特徴	

回数	内容（方法）	備考
第 12 回	高齢者の身じたくのアセスメントと看護 2 1) 認知機能低下のある高齢者への身じたくを整える援助 2) 清潔が保つことが困難な高齢者への身じたくを整える援助	
第 13 回	高齢者特有のリスクと看護 1) 転倒、廃用症候群のリスクアセスメント 2) 転倒、廃用症候群の予防と援助	
第 14 回	高齢者特有のリスクと看護 1) 熱中症、せん妄のリスクアセスメント 2) 熱中症、せん妄の予防と援助 3) 身体拘束の倫理的課題	
第 15 回	災害時の高齢者への看護 1) 災害時環境下における高齢者に生じる健康課題 2) 高齢者に生じる健康課題へ援助	

【科目関連及び進度について】

- ・老年看護に関わる主要概念、関係法規、地域包括ケアシステムについて理解し、老年看護の対象を具体的にイメージしながら学習する。
- ・高齢者の身体機能や認知機能を理解するために解剖生理学の学習を振り返りながら関連づけしてすすめていく。

【試験・課題等の内容】

事例に沿った演習を行うため、計画の立案や技術練習などを行う

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

看護学テキスト・NICE 老年看護学技術 最後までその人らしく生きることを支援する 南江堂

【参考文献】

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院
 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院
 国民衛生の動向 2019/2020 厚生労働統計協会
 国民の福祉と介護の動向 2019/2020 厚生労働統計協会
 老年看護学②健康障害をもつ高齢者の看護 メヂカルフレンド社

【授業外における学修方法及び時間】

次回の授業に対する事前の課題を提示するため、毎回 1 時間程度の事前学習を要する。
 ナーシングチャンネルなどの動画の視聴などを行う

専門分野Ⅱ

【科目】 老年看護方法論Ⅱ 【単位数・時間】 1 単位 30 時間
 【担当講師】 後藤 広行¹⁾ 河野 仁彦²⁾ 田上 淑子³⁾ 中神雪絵⁴⁾ 馬場美里⁵⁾
 【開講時期】 第 1 学期 【配当年次】 2 年
 【所属・職位等】 1)専任教員 2)医療法人一誠会 都城新生病院長
 3)NPO 法人 ゆめ法人 4)都城医療センター看護師 5)都城医療センター副看護師長
 【実務経験】 1)看護師 16 年

【授業における到達目標】

- ・高齢者が療養生活を継続していくための関わりの特徴について理解し、地域でその人らしく暮らすための支援の在り方について説明することができる。
- ・認知症高齢者の看護について説明することができる。
- ・各事例を通して、高齢者に特徴的な疾患の看護について説明することができる。

【授業の概要】

本授業では、老年看護学概論や老年看護方法論Ⅰにて学習した高齢者の捉え方や高齢者に応じた生活支援の方法を土台に、高齢者の療養生活の支援の在り方について教授する。高齢者の療養生活の支援については、高齢者の薬物療法、手術療法、リハビリテーション看護、地域連携における退院時の看護について説明する。その後、ラクナ梗塞患者の事例展開を行い、療養生活への支援の在り方を具体的に学習する。

また、認知症の病態や症状、治療について教授する。認知症高齢者への看護については、認知症と生きる高齢者が、地域での生活を継続していくための様々な支援と看護について考える授業である。

【アクティブ・ラーニング】

- ・概念的な理解をベースに、事例をもとに自らの考えを述べたり、意見交換しながら、高齢者の生活を支える看護について考えを深める。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
第 1 回	高齢者に対する入院時と退院に向けての看護 外来診療および検査時の看護	後藤	第 9 回以降、第 12 回以降は、同時進行可 第 5 回目～第 8 回目は、第 9 回～11 回が終了した後に計画する。また、隔週の実施計画とする。
第 2 回	薬物療法を受ける高齢者の看護		
第 3 回	地域連携における退院へ向けた看護 ・退院支援・退院調整の定義 ・退院支援過程における看護 ・地域連携における高齢者看護 ・地域における多職種連携の多様性		
第 4 回	終末期にある高齢者の看護 ・高齢者の尊厳を支える看護		
第 5 回	【事例展開】ラクナ梗塞：回復～慢性期 高齢者の生活機能のアセスメント		
第 6 回	【事例展開】ラクナ梗塞：回復～慢性期 療養生活上の課題の明確化		

回数	内容（方法）	講師	備考
第 7 回	【事例展開】ラクナ梗塞：回復～慢性期 退院後の生活を考慮した看護実践 （シミュレーション演習） ・ストレングス理論を活用した高齢者の持てる力を発揮した看護 ・継続的な地域生活を目指した看護		
第 8 回			
第 9 回	高齢者の急性期における看護 ・高齢者に対する急性期看護の特徴 ・手術療法を受ける高齢者の看護	馬場	
第 10・ 11 回	高齢者の回復過程における看護 ・高齢者のリハビリテーションの特徴と看護 ・加齢とリハビリテーション	中神	
第 12 回	認知症の病態・症状 脳血管性認知症、アルツハイマー病、ピック病、 レビー小体型認知症	河野	
第 13 回	精神障害 うつ状態、せん妄		
第 14 回	認知症の高齢者の看護	田上	第 12 回・13 回が終了した後に計画
第 15 回	高齢者のうつと看護		

【科目関連および進度】

- ・成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの経過別看護の特徴に関する講義が終了した後に開講する。

【試験・課題等の内容】

- ・健康障害のある高齢者の看護における事例展開は各自で学習を行い、追加・修正をする
- ・その他、講義の学びを深めるために事前学習を行う

【評価方法】

- ・健康障害のある高齢者の看護（第 1 回～8 回）：終了試験 25 点+看護過程レポート 25 点（50 点）
- ・高齢者の認知症・うつ（第 12 回～13 回）：終了試験 15 点
- ・認知機能に障害のある高齢者の看護（第 14 回～15 回）：終了試験 15 点
- ・高齢者の急性期から回復過程にある患者の看護（第 9 回～11 回）：終了試験 20 点

【テキスト】

老年看護学概論（改訂版第 2 版）「老いを生きる」を支えることとは 南江堂
 老年看護学技術 最後までその人らしく生きることを支援する 南江堂

【参考文献】

生活機能からみた老年看護過程 ＋病態・生活機能関連図 医学書院
 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程 医学書院

【授業外における学修方法及び時間】

授業の振り返りと次回の授業の準備で毎回 1 時間ほどの時間を要する
 事例展開を行うため疾患の学習やレポートの追加・修正を行う

専門分野Ⅱ

【科目】小児看護学概論	【単位数・時間】1単位(30時間)	
【担当講師】小倉裕香	【開講時期】第2学期	【配当年次】1年
【所属・職位等】専任教員	【実務経験】看護師6年	

【授業における到達目標】

- ・小児各期における発達段階の特徴と、小児及び家族を取り巻く環境を理解できる。
- ・小児看護における看護の役割について理解できる。

【授業の概要】

健康な小児の成長・発達について理解し、児が健やかに育つための支援について児と家族の特徴をふまえて理解できるよう教授する。講義では、VTR等も用いて児と家族がイメージできるよう授業を行っていく。

【アクティブ・ラーニング】

- ・事例を用いたグループワークや生活援助に必要な看護技術を体験し、全体発表・検討会を行う。
- ・授業においては、自らの考えを述べる機会や他者の考えを聞く機会を設ける。

【授業計画】

回数	内容・方法	備考
1回目	小児看護の変遷と小児看護の役割	週に1回のペースで計画する
2回目	諸統計からみた小児と家族の健康課題 小児と家族を取り巻く社会	
3回目	子どもの成長・発達	
4回目	・形態的・機能的発達 ・心理・社会的発達	
5回目	乳・幼児と家族の看護	
6回目	学童期の児と家族の看護	
7回目	思春期の児と家族の看護	
8回目	基本的生活習慣を整えるための援助	8・9回目は 2コマ続きで計画する
9回目	(グループワーク・発表)	
10回目	子どもの主体性を育てる 子どものストレスコーピング	週に1回のペースで計画する
11回目	現代家族の特徴と家族の看護	11・12回目は 2コマ続きで計画する
12回目		
13回目	子どもの事故防止と安全	週に1回のペースで計画する
14回目	小児看護における倫理	14・15回目は 2コマ続きで計画する
15回目	小児看護における倫理的課題と看護	
	終了試験	

【科目関連及び進度】

看護学概論や専門分野Ⅰの知識をもとに小児看護学について学ぶ。また、本科目における学びは、小児看護方法論Ⅰ、小児看護方法論Ⅱと関連させて、発展させる。

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

【評価方法】

筆記試験（配点：80点）、課題レポート（配点：20点）

【テキスト】

小児看護学概論ー子どもと家族に寄り添う援助ー 改訂第3版 南江堂

小児看護技術ー子どもと家族の力をひきだす技ー 改訂第3版 南江堂

写真でわかる小児看護技術ー小児看護に必要な臨床技術を中心にー, インターメディカ
国民衛生の動向（厚生労働統計協会）

【授業外における学修方法及び時間】 ※15 時間

1. 小児看護学に関するナースングチャンネルを事前に視聴する。
2. DVDを視聴し、小児の成長・発達についてイメージ化して理解する。
 - 「乳幼児の発達と保育～こころとからだを育てるあそびの環境～0歳児」
 - 「乳幼児の発達と保育～こころとからだを育てるあそびの環境～1・2歳児」
 - 「乳幼児の発達と保育～こころとからだを育てるあそびの環境～3・4・5歳児」
3. 生活援助に必要な看護技術に向けた課題への取り組み

専門分野Ⅱ

【科目】小児看護方法論Ⅰ 【単位数・時間】1単位(30時間)
 【担当講師】入江慎二
 【開講時期】通年 【配当年次】2年
 【所属・職位等】
 都城医療センター看護師周産期・母子医療副センター長、新生児集中治療室長

【授業における到達目標】

小児の成長・発達及び各疾患の病態・症状・診断・治療について理解できる。

【授業の概要】

小児の正常な身体の成長・発達をふまえ、小児に特有の各疾患の病態・症状・診断・治療について教授し、小児看護学方法論Ⅱで学ぶ健康障害をもつ小児の看護につなげていく。

【アクティブラーニング】

- ・小児の成長・発達や解剖生理を想起しながら理解し、小児特有の疾患の学びにつなげる。
- ・事前学習を行い、授業で自発的に質疑する。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
1回目	正常な身体の成長・発達、形態的・機能的発達		週に1回のペースで講義を計画する。
2回目	呼吸器系疾患：肺炎		
3回目	感染症：麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎		
4回目	感染症：急性灰白髄炎、流行性髄膜炎、手足口病		
5回目	膠原病・アレルギー疾患：小児気管支喘息、アトピー性皮膚炎		
6回目	循環器系疾患：ファロー四徴症、川崎病、乳幼児突然死症候群		
7回目	代謝系疾患：Ⅰ型小児糖尿病		
8回目	腎・泌尿器系疾患：ネフローゼ症候群、ウィルムス腫瘍		
9回目	運動器系疾患：先天性股関節脱臼		
10回目	内分泌系疾患：成長ホルモン分泌不全性低身長症		
11回目	血液・造血器系疾患：血友病		
12回目	脳神経系疾患：脳性麻痺		
13回目	染色体異常・胎内環境により発症する先天異常：ダウン症候群		
14回目	精神疾患：発達障害、神経症性障害		
15回目	事故・外傷：頭部外傷、誤飲・誤嚥、溺水、熱傷、熱中症		

【科目関連及び進度】

小児看護学概論で学んだ小児の成長・発達に関する知識や、解剖学や病理学での知識と関連させて学ぶ。なお、本科目における知識は小児看護学方法論Ⅱで活用する。

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。
終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

筆記試験（配点：100 点）

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院

【参考文献】

小児疾患診療のための病態生理 1 改訂 5 版（小児内科 2014 年 46 巻増刊号）

小児疾患診療のための病態生理 2 改訂 5 版（小児内科 2015 年 47 巻増刊号）

小児疾患診療のための病態生理 3 改訂 5 版（小児内科 2016 年 48 巻増刊号）

【授業外における学修方法及び時間】※15 時間（900 分）

1. DVD を視聴し、気管支喘息の患児の看護、川崎病について理解する。
Vol.1 喘息発作で入院した小児の看護事例
Vol.3 急性胃腸炎で入院した小児の看護事例
Vol.5 川崎病で入院した小児の看護事例
2. 小児に特有な各疾患の病態・症状・診断・治療の理解を深めるための学習

専門分野Ⅱ

【科目】小児看護方法論Ⅱ 【単位数・時間】 2単位(45時間)
 【担当講師】小倉裕香¹⁾ 新地沙織²⁾ 梶原尚子³⁾ 田代郁代⁴⁾ 山田恵⁵⁾ 飯干知美⁶⁾
 【開講時期】通年 【配当年次】2年
 【所属・職位等】1)専任教員 2)3) 都城医療センター看護師 4) 都城医療センター看護師長
 5)都城医療センター新生児ケア認定看護師 6)宮崎病院副看護師長
 【実務経験】看護師6年

【授業における到達目標】

成長・発達及び健康障害のある小児と家族の特徴と必要な看護について理解できる。

【授業の概要】

成長・発達及び健康障害のある小児と家族の特徴について、代表的な疾患を用いながら講義・演習を交えて授業を展開する。各疾患については、小児看護方法論Ⅰで学んだことを活用し、VTR等も用いて健康障害をもつ小児をイメージ化できるように授業を行っていく。

【アクティブラーニング】

事例を用いたグループディスカッションや発表、ロールプレイをとおして、自ら思考したり、他者の意見を聞いたりすることで学習を深められるよう進める。

【授業計画】

回数	内容（方法）	担当	備考	
1	病気や入院が小児と家族に与える影響とその看護	小倉	週に1回のペースで講義を計画する。	
	入院中の子どもと家族の看護			
2	小児に起こりやすい症状のアセスメントと看護 ・発熱、痙攣	新地		
3	小児に起こりやすい症状のアセスメントと看護 ・脱水、嘔吐、下痢			
4	小児に起こりやすい症状のアセスメントと看護 ・呼吸困難、痛み			
5	検査・処置を受ける小児の看護 ・与薬（経口投与、持続点滴） ・吸入（演習）	小倉		
6	検査・処置を受ける小児の看護 ・腰椎穿刺 ・骨髄穿刺 ・吸引（演習）			
7	子どもの成長・発達を促す遊びの援助	小倉		2回から同時進行で計画可。
8	子どもの成長・発達を促す遊びの援助（演習、ロールプレイ）			
9	外来における看護	田代		
10	在宅療養中の小児と家族の看護 ・先天的な問題を持つ患児と家族の看護			
11	小児の急性期における看護 ・手術を受ける患児と家族の看護	梶原		
12	小児の慢性期における看護 ・喘息をもつ患児と家族の看護			

回数	内容（方法）	担当	備考
13	小児の終末期における看護 ・白血病の患児と家族の看護	梶原	
14	低出生体重児と家族の看護	山田	母性看護方法論Ⅰ(新生児の看護)終了後に計画する。
15	低出生体重児と家族の看護		
16	重症心身障害児(者)とその家族の看護	飯干	16・17回 終了後に校外計画する外実習は講義終了後に計画する。
17	重症心身障害児(者)とその家族の看護		
18	重症心身障害児(者)とその家族の看護（校外実習）		
19	健康障害のある小児の看護(看護過程の展開) ネフローゼ症候群の患児の看護 ・小児の看護過程とは ・行動のアセスメント	小倉	1～13 終了後、計画する。 19 回～22 回は隔週とする。 22 回はロールプレイを行うため、教員4名が演習で指導できるよう調整する。
20	健康障害のある小児の看護(看護過程の展開) ・事例の全体像の把握 ・看護診断・看護計画の立案		
21	健康障害のある小児の看護(看護過程の展開) ・腎生検を受ける患児の看護		
22	健康障害のある小児の看護(看護過程の展開) ・プレパレーションを取り入れた検査時の援助（演習）		
23	終了評価		

【科目関連及び進度】

小児看護学方法論Ⅰ 3回目終了後から本科目を開始し、小児特有の疾患に関する学びと関連させて学ぶ。

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

【評価方法】

筆記試験（配点：75 点） 課題レポート及びプレパレーションの演習評価（配点：25 点）

【テキスト】

小児看護学概論—子どもと家族に寄り添う援助— 改訂第3版 南江堂

小児看護技術—子どもと家族の力をひきだす技、改訂第3版 南江堂

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院

写真でわかる小児看護技術 改訂第3版：小児看護に必要な臨床技術を中心に、インターメディカ

【授業外における学修方法及び時間】

1. 次回の授業に対する事前課題を提示するため、毎回1時間程度の事前学習を要する。
2. 小児看護学に関するナースングチャンネルを事前に視聴する。
3. DVDを視聴し、気管支喘息の患児の看護、川崎病の患児の看護について理解する。

Vol.1 喘息発作で入院した小児の看護事例 Vol.3 急性胃腸炎で入院した小児の看護事例
Vol.5 川崎病で入院した小児の看護事例

専門分野Ⅱ

【科目】母性看護学概論	【単位数・時間】1 単位(30 時間)
【担当講師】内村美子	【開講時期】第 2 学期
【所属・職位等】元鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校副学校長	【配当年次】1 年

【授業における到達目標】

1. 母性の概念と母性看護の役割を理解できる。
2. 母性各期の特徴を理解し、健康の保持増進のための保健の必要性を理解できる。
3. 生命と倫理について考え、生命誕生を援助する看護者としての倫理観を養う。

【授業の概要】

広い視野で母性看護の役割や生命倫理について学べるように教授する。

【アクティブ・ラーニング】

- ・文献やニュース等の事例を用いてグループワークを行い、意見交換を行うことで、全体発表・検討会を行い、様々な視野や考え方の理解を深める。
- ・授業においては、自らの考えを発言する機会を設定し、他者の意見も聞き、視野を広げられるように進める。

【授業計画】

回数	内容・方法	備考
第 1 回	1. 母性看護学の位置づけ 1) 母性看護学とは 2) 母性看護学と他看護学との関連	週に 1 回のペースで講義を計画する。
第 2 回	2. 母性看護の概念 1) 母性とは 2) 母子関係と家族発達 3) セクシャリティ	
第 3 回	4) リプロダクティブヘルス・ライツ 5) ヘルスプロモーション	
第 4 回	6) 母性看護のあり方 7) 母性看護における倫理 8) 母性看護における安全・事故防止	
第 5 回	3. 母性看護の変遷と展望 1) 母性看護の歴史的変遷と現状	
第 6 回	2) 母性看護に関する統計	
第 7 回	3) 母性看護に関する法律や制度	
第 8 回	4) 母性をとりまく社会の現状と課題	
第 9 回	5) 母性保護の意義 6) 母性看護活動における看護職者の役割	
第 10 回	4. ライフサイクル各期の特徴と看護 1) ライフサイクルにおける女性の健康課題と看護の必要性 2) 思春期の健康課題と看護 (1) 月経に関する健康課題 他	

回数	内容・方法	備考
第 11 回	3) 成熟期の健康課題と看護 (1) 月経に関する健康課題 他	
第 12 回	4) 更年期・老年期の健康課題と看護 (1) 更年期障害 他	
第 13 回	5. リプロダクティブヘルスケア 1) 人間の性と生殖 2) 家族計画	
第 14 回	3) 性感染症 4) HIV/AIDS 5) 人工妊娠中絶	
第 15 回	6) 喫煙女性の健康と看護 7) ドメスティックバイオレンス・児童虐待と看護 8) 国際化社会と看護	

【科目関連及び進度について】

専門分野Ⅰの知識をもとに母性看護学を学ぶが、母子関係や思春期については小児看護学との関連、女性のライフサイクル各期の特徴と看護は、成人看護学および老年看護学と関連する。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

終了試験 80% 課題レポート 20%

【テキスト】

新体系看護学全書 母性看護概論／ウィメンズヘルスと看護 母性看護学① メヂカルフレンド社

【参考文献】

病気が見える(9)婦人科・乳腺外科 メディックメディア

病気が見える(10)産科 メディックメディア

【授業外における学修方法及び時間】

- ・講義内容に関連したナーシングチャンネルの視聴
- ・次回の授業に対する事前の課題や内容を提示するため、毎回1時間程度の事前学習を要する。

専門分野Ⅱ

【科目】母性看護学方法論Ⅰ

【単位数・時間】2単位(45時間)

【担当講師】西畑久美子¹⁾

山田恵²⁾

一柳明日香³⁾

【開講時期】通年

【配当年次】2年

【所属・職位等】1)みまた助産院院長

2) 都城医療センター新生児ケア認定看護師

3)専任教員

【実務経験】3)看護師7年

【授業における到達目標】

正常な経過をたどる妊娠・分娩・産褥・新生児期の特徴と看護について理解する。また、母子愛着形成や新たな役割獲得に向けた支援について理解する。

【授業の概要】

妊娠・分娩・産褥期における身体的・心理的・社会的特徴と看護、新生児の生理的特徴と看護について教授する。また、母性看護学における対象理解と必要な看護について考えるため看護過程を展開し、母親のセルフマネジメントを支援するための学習支援について学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

- ・母性看護学概論における学びを想起し、事例を用いながら学びを深め、グループワークや発表において自発的に質疑する。
- ・他者の学びや意見を聞くことで、自身の視野を広げられるよう意見交換を取り入れる。

【授業計画】

回数	題目	内容・方法	講師	備考
第1回	1. 妊娠期の身体的特徴	1) 妊娠の生理 2) 妊娠の成立 3) 胎児の発育とその生理および付属物 4) 妊婦の身体的変化	西畑	
第2回	2. 妊婦の理解と看護	1) 妊娠期の心理・社会的特性 (1)妊婦の心理 (2)妊婦と家族・社会		
第3回		2) 妊婦と胎児のアセスメント (1)妊娠の経過と診断 (2)胎児の発育と健康状態診断 (3)妊婦と胎児の健康状態のアセスメント (4)妊娠期のアセスメントの重要性		
第4回		3) 妊婦と家族の看護 (1)妊婦の保健相談 (2)妊婦の保健相談の実際 (3)親になる為の準備教育		
第5回	3. 分娩の要素	1) 分娩とは 2) 分娩の3要素		
第6回		3) 胎児と子宮および骨盤との関係 4) 分娩の機序		
第7回	4. 産婦の理解と看護	1) 分娩の経過 (1)分娩の進行と産婦の身体的変化 (2)産痛 (3)胎児に及ぼす影響 (4)産婦の心理社会的変化 2)産婦・胎児・家族のアセスメント (1)産婦と胎児の健康状態アセスメント (2)産婦と家族の心理社会面のアセスメント (3)産婦・家族における看護上問題点の明確化	西畑	

回数	題目	内容・方法	講師	備考
第 8 回		3)産婦と家族の看護 (1)産婦のニーズと看護目標 (2)安全分娩への看護 (3)安楽な分娩への看護 (4)出産体験が肯定的になるための看護 (5)基本的ニーズに関する看護 (6)家族発達を促す看護 4) 分娩期の看護の実際 (1)分娩第 1 期の活動期の看護 (2)分娩第 1 期の活動期終盤の看護 (3)分娩第 2 期の看護 (4)分娩第 3・4 期の看護		
第 9 回	5. 産褥経過の理解	1) 産褥の定義 2) 産婦の復古現象 3) 乳汁分泌 4) 全身の変化		
第 10 回	6. 褥婦の理解と看護	1) 褥婦のアセスメント (1)産褥経過の診断 (2)褥婦の健康状態のアセスメント		
第 11 回		2) 褥婦と家族の看護 (1)身体機能回復及び進行性変化への看護 (2)児との関係確立への看護 (3)育児技術に関わる看護 (4)家族関係再構築への看護 3) 退院後の看護 (1)育児不安と育児支援 (2)職場復帰		
第 12 回	7. 新生児の生理	1) 新生児の生理 2) 新生児の健康診断	山田	
第 13 回	8. 新生児の理解と看護	1) 新生児のアセスメント (1)新生児の診断 (2)新生児の健康状態のアセスメント		
第 14 回		2) 新生児の看護 (1)出生直後の看護 (2)出生後から退院までの看護		
第 15 回	1. 母性看護学における看護の特徴	1) ウェルネス診断 2) セルフケア確立に向けた援助 3) 愛着形成・役割獲得に向けた看護目標・看護計画	一柳	
第 16 回	2. 妊娠期の看護	1) 妊婦のアセスメント		
第 17 回		2) 妊婦の看護（演習） ※技術演習 レオポルド触診法 腹囲・子宮底測定		演習を行うため、実習室で教授する。
第 18 回	3.分娩期の看護	1) 産婦のアセスメント 2) 産婦の看護		
第 19 回	4. 産褥期・新生児の看護	1) 褥婦のアセスメント 2) 新生児のアセスメント 3) 褥婦と新生児の看護	一柳	
第 20 回		新生児の沐浴（演習）		演習を行うため、教員 4 名で指導する。
第 21 回		妊産褥婦を対象とした学習支援		
第 22 回	5. ハイリスク妊婦・褥婦の看護	1) ハイリスク妊婦のアセスメントと看護 2) ハイリスク褥婦のアセスメントと看護 3) まとめ		
第 23 回		技術チェック：沐浴		
		終了試験		

【科目関連及び進度について】

専門分野Ⅰ及び母性看護学概論の学びを想起し、母性看護方法論Ⅰ・Ⅱに関連させて学ぶ。

【試験・課題等の内容】

- ・学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。
- ・終了試験は授業で教授した内容から出題する。
- ・グループディスカッションの際には事前にレポート課題を提示する。
- ・沐浴の技術チェックは合格をもって単位習得とする。

【評価方法】

筆記試験（配点:60点）、課題レポート（配点:40点）

【テキスト】

新体系看護学全書 母性看護概論／ウィメンズヘルスと看護 母性看護学① メヂカルフレンド社
新体系看護学全書 マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 母性看護学②メヂカルフレンド社

【参考文献】

写真でわかる母性看護技術 インターメディカ
病気が見える(9)婦人科・乳腺外科 メディックメディア
病気が見える(10)産科 メディックメディア
ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 医歯薬出版
ウェルネスからみた母性看護過程 医学書院

【授業外における学修方法及び時間】

- ・次回の授業に対する事前の課題を提示するため、毎回1時間程度の事前学習を要する。
- ・ナースিংチャンネルの視聴

専門分野Ⅱ

【科目】母性看護方法論Ⅱ	【単位数・時間】1単位(30時間)
【担当講師】1)古田 賢	中間麻美 ²⁾ 迫間衣里 ³⁾
【開講時期】第2学期	【配当年次】2年
【所属・職位等】1)都城医療センター産婦人科医師	2)都城医療センター助産師 副看護師長
3) 都城医療センター助産師	

【授業における到達目標】

妊娠・分娩・産褥・新生児期の異常な経過をたどる対象を理解し、適切な看護の知識と援助方法を学ぶ。

【授業の概要】

遺伝相談と看護、不妊治療と看護、妊娠の異常と看護、分娩の異常と看護、新生児の異常と看護、産褥の異常と看護、児を亡くした褥婦と家族の看護、精神障害がある妊婦・産婦・褥婦の看護、継続看護（妊娠期から産褥期にかけて）を教授する。

【アクティブ・ラーニング】

- ・母性看護学概論における学びを想起し、事例を用いながら学びを深め、グループワークや発表において
自発的に質疑する。
- ・他者の学びや意見を聞くことで、自身の視野を広げられるよう意見交換を取り入れる。

【授業計画】

回数	内容・方法			講師	備考
第1回	異常な妊娠・分娩・産褥のメカニズム	1.遺伝相談	1)遺伝相談とは 2)出生前診断 3)出生前診断の実際 4)着床前診断 5)胎児治療と遺伝子治療		週に1回のペースで計画する
		2.不妊治療	1)不妊とその原因 2)不妊検査 3)不妊治療		
第2回		3.妊娠の異常	1)ハイリスク妊娠(妊娠糖尿病を含む) 2)妊娠期の感染症 3)妊娠疾患(妊娠悪阻を含む) 4)多胎妊娠 5)妊娠持続期間の異常 6)妊娠合併症 7)子宮外妊娠 8)胎児および附属物の異常		

回数	内容・方法			講師	備考
第 3 回		4.分娩の異常	1)産道の異常 2)娩出力の異常 3)胎児の異常による分娩障害(胎位・胎向・回旋の異常) 4)胎児の付属物の異常 5)分娩時損傷 6)分娩第3期および分娩直後の異常 7)分娩時異常出血と処置 8)産科処置と手術(分娩誘発、会陰切開、骨盤位牽出術、帝王切開術)		
第 4 回		5.新生児の異常	1)新生児仮死 2)新生児呼吸窮迫症候群 3)分娩外傷 4)低出生体重児 5)新生児溶血性黄疸		
第 5 回		6.産褥の異常	1)産褥熱 2)支給復古不全 3)乳房・乳頭の異常 4)産褥血栓症 5)精神障害		
第 6 回	異 常 な 妊 娠 ・ 分 娩 ・ 産 褥 の 看 護	1. 遺伝相談と看護 2. 不妊治療と看護	1)出生前診断を受ける人への看護 1)不妊治療を受けている対象の心理・社会的特徴 2)不妊夫婦の看護		
第 7・8 回		3. 妊娠の異常と看護	1)ハイリスク妊娠(妊娠糖尿病を含む) 2)妊娠期の感染症 3)妊娠疾患(妊娠悪阻を含む) 4)多胎妊娠 5)妊娠持続期間の異常 6)妊娠合併症 7)子宮外妊娠 8)胎児および付属物の異常		
第 9・10 回		4. 分娩の異常と看護	1)分娩の異常時の看護 2)産科処置と手術(分娩誘発、会陰切開、骨盤位牽出術、帝王切開術)時の看護 3)異常のある産婦の看護 (1)破水が生じた産婦の看護(前期破水) (2)分娩遷延のリスクがある産婦の看護 (3)胎児ジストレスを生じる恐れのある産婦の看護 (4)急速遂娩の産婦の看護 (5)緊急帝王切開を受ける産婦の看護 (6)分娩時異常出血のある産婦の看護		
第 11 回		5. 帝王切開を受ける対象の看護	1)妊娠期(産前) 2)手術中 3)産褥期(術後)		
第 12 回		6. 新生児の異常と看護	1)新生児仮死 2)分娩外傷 3)低出生体重児 4)高ビリルビン血症		
第 13 回		7. 産褥期の異常と看護	1)産褥熱 2)子宮復古不全 3)乳房・乳頭の異常 4)産褥血栓症 5)精神障害		

回数	内容・方法		講師	備考
第 14 回		8. 児をなくした 褥婦・家族の 看護 9. 精神障害が ある妊婦・産 婦・褥婦の看 護	1) グリーフケア 1) マタニティーブルーズ 2) 産後うつ病	
第 15 回		10. 継続看護 (妊娠期から 産褥期にか けて)	1) 女性のライフサイクルと周産期の看護 2) 妊娠・分娩・産褥期の継続看護	

【科目関連及び進度について】

専門分野Ⅰ及び母性看護学概論の学びを想起し、母性看護方法論Ⅰ・Ⅱに関連させて学ぶ。
産後うつ病については、精神看護学方法論の学びに関連させて学ぶ。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

筆記試験 100%

【テキスト】

新体系看護学全書マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 母性看護学② メヂカルフレンド社

系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院

【参考文献】

病気が見える(9)婦人科・乳腺外科 メディックメディア

病気が見える(10)産科 メディックメディア

【授業外における学修方法及び時間】

ナーシングチャンネルの視聴

専門分野Ⅱ

【科目】精神看護学概論	【単位数・時間】1単位・15時間	
【担当講師】田上博喜	【開講時期】前期	【配当年次】1年
【所属・職位等】国立大学法人宮崎大学医学部看護学科	助教	

【授業における到達目標】

1. 精神の健康と病の概念を述べることができる。
2. 精神保健医療福祉の精神障害者の処遇と、歴史と変遷について述べるができる。
3. 心理的ストレス・危機に関する代表的な理論を列挙し類別することができる。
4. 現代における精神保健、医療現場や大学など様々な場における精神保健の在り方や看護の特性について記述することができる。

【授業の概要】

精神の健康（メンタルヘルス）と病の概念や心の発達と社会生活における危機的状況を学習し、精神的健康の保持増進と精神障害を持つ人々の歴史や社会的環境について理解する。また、精神看護の基本的な機能とケアの原則について理解する。

【アクティブ・ラーニング】

授業において、自分の考えを発言する機会を多くする。

【授業計画】

回数	内容（方法）	備考
第1回	「精神看護学」で学ぶこと 1 1) 精神保健で扱われる現象 2) 精神的健康の保持・増進としての精神保健	
第2回	「精神看護学」で学ぶこと 2 3) 地域精神保健 4) 精神看護の分野	
第3回	精神保健医療福祉の歴史と現在の姿 1) 精神医療の歴史 2) 精神障害をもつ人を守る法・制度 3) 精神保健福祉法における医療の形態と患者の処遇	
第4回	「精神(心)」のとらえかた 1) 脳の構造と認知機能 2) 精神(心)の構造とはたらき	
第5回	精神(心)の発達に関する主要な考えかた 1) エリクソンの漸成的発達理論 2) ボウルビイの愛着理論 3) マズローの欲求5段階説 4) ピアジェの認知発達理論	
第6回	家族と精神(心)の健康 1) 家族の機能 2) 家族ライフサイクル 3) 家族システム	
第7回	精神(心)の危機状況と精神保健 1) 危機理論・危機モデル 2) ストレスとコーピング 3) 適応と不適応 4) セルフマネジメント	

【科目関連及び進度について】

解剖生理学（神経系）と心理学の開講後に開講する。

【試験・課題等の内容】

課題レポート

【評価方法】

科目終了時客観試験 100 点（課題レポート評価 出席状況〔講義・演習への参加状況を含む〕）

【テキスト】

新体系 看護学全書 1 精神看護学 精神看護学概論・精神保健 （メヂカルフレンド社）

【参考文献】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学①精神看護の基礎（医学書院）

国民衛生の動向（厚生労働統計協会）

国民の福祉と介護の動向（厚生労働統計協会）

【授業外における学修方法及び時間】

講義内容の予習、復習や課題レポート等に講義前後 1 時間程度の学習は必要である。

専門分野Ⅱ

【科目】精神看護方法論Ⅰ	【単位数・時間】1単位・15時間	
【担当講師】河野仁彦	【開講時期】第1学期	【配当年次】2年
【所属・職位】医療法人一誠会 都城新生病院 院長		

【授業における到達目標】

1. 精神疾患/障害にみられる症状・状態像が理解できる。
2. 精神疾患/障害の診断のための検査が理解できる。
3. 精神疾患/障害の主な治療法が理解できる。
4. 小児・青年期の精神疾患/障害が理解できる。

【授業の概要】

精神疾患の病態と現れる症状と状態像を学習し必要な支援について考える。また、診断のための検査と治療法の基本的な知識、検査や治療における看護師の役割についても学習する。

【アクティブ・ラーニング】

授業中に発問・討議するため、自らの意見を述べる。

【授業計画】

回数	内容・方法	備考
第1回	1. 精神症状の分類 2. 精神疾患の検査 1) 診察 2) 一般検査・画像検査 3) 心理検査	
第2回		
第3回	精神疾患/障害の病態・症状・状態像・検査・治療 神経発達症群/神経発達障害群	
第4回	精神疾患/障害の病態・症状・状態像・検査・治療 統合失調症スペクトラム障害	
第5回	精神疾患/障害の病態・症状・状態像・検査・治療 1) 双極性障害及び関連障害群 2) 抑うつ障害群	
第6回	精神疾患/障害の病態・症状・状態像・検査・治療 1) 不安症群/不安障害群 2) 強迫症及び関連症群/強迫性障害及び関連障害群 3) 物質関連障害及び嗜癖性障害群	
第7回	精神疾患/障害の病態・症状・状態像・検査・治療 1) 心的外傷後ストレス障害（PTSD） 2) 食行動障害及び摂食障害群 3) パーソナリティ障害群	

【科目関連及び進度について】

精神看護の歴史や主要なモデルや理論、精神の機能について学習する精神看護学概論終講後に開講する。

【試験・課題等の内容】

試験範囲は、授業の全範囲

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

新体系看護学全書 精神看護学 2 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社

【参考文献】

新体系看護学全書 精神看護学 1 精神看護学概論・精神保健 メヂカルフレンド社

【授業外における学修方法及び時間】

本単元は 30 時間の自己学習を必要とする科目である。
したがって、授業中に提示する課題に取り組むこと。

専門分野Ⅱ

【科目】精神看護方法論Ⅱ 【単位数・時間】2単位・45時間
 【担当講師】田上博喜¹⁾ 後藤広行²⁾ 中山秋子³⁾
 【開講時期】前期 【配当年次】2年
 【施設・職位】1) 国立大学法人宮崎大学医学部看護学科 助教
 2) 専任教員 3) 一般社団法人メディカルシステム 藤元病院看護部長
 【実務経験】2) 看護師 16年

【授業における到達目標】

1. 精神障害をもつ人との関わり方がわかる。
2. 精神障害をもつ人のセルフケアのアセスメントの視点がわかる。
3. 精神障害をもつ人のセルフケアの援助がわかる。
4. 精神障害をもつ人の生活の支援についてわかる。

【授業の概要】

精神障害をもつ人と看護師の関係を基盤とした看護介入の方法を学習する。
 精神障害により生活のしづらさを抱えている人との患者-看護師関係の構築、セルフケアに着目した看護展開、疾患や障害に応じた看護の実践を学ぶ。看護の実践では生活の場に応じた支援の実践を学びながら、病院と地域での支援のあり方について理解していく。

【アクティブ・ラーニング】

授業中に発問・討議をして自らの意見を述べる機会をつくる。
 課題レポートに取り組む。

【授業計画】

回数	内容・方法		講師	備考
第1回	精神障害をもつ人との患者-看護師関係の構築 1 1) 精神障害をもつ人との関わり方 2) 精神障害をもつ人とのコミュニケーション		後藤	
第2回	精神障害をもつ人との患者-看護師関係の構築 2 1) 精神障害をもつ人との関係の振り返り			
第3回	精神障害をもつ人のセルフケアの援助		田上	
第4回	患者による自己管理への支援（セルフマネジメント）			
第5回	看護過程 展開	情報収集とアセスメント		
第6回		情報収集とアセスメント		
第7回		看護診断、目標設定、計画立案、実施、評価の視点		
第8回		看護診断、目標設定、計画立案、実施、評価の視点		
第9回	精神疾患・ 症状をもつ 人の看護	精神科病棟の特徴と看護 1) 治療的環境の整備 2) 事故防止と安全管理、 3) 人権擁護の実践	中山	
第10回		統合失調症患者の看護		
第11回		双極性障害をもつ患者の看護 うつ病をもつ患者の看護		
第12回		パーソナリティ障害をもつ患者の看護 物質関連障害及び嗜癖性障害群患者の看護	中山	
第13回		不安障害をもつ患者の看護 パニック障害をもつ患者の看護 心的外傷後ストレス障害をもつ患者の看護		
第14回		小児・青年期の精神障害患者の看護		

回数	内容・方法		講師	備考
		(自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害、摂食障害)		
第 15 回		身体合併症を持つ患者の看護		
第 16 回	経過期の看護と関連	急性期の看護	後藤	
第 17 回		回復期の看護		
第 18 回		慢性期の看護		
第 19 回	地域生活への支援	地域精神保健福祉と社会参加	後藤	
第 20 回		精神障害をもつ人の地域生活支援の実際		
第 21 回		精神障害をもつ人を介護する家族への支援		
第 22 回	精神看護の発展 1) リエゾン精神看護 2) 司法精神医学と看護 3) 災害の精神保健			
第 23 回	終了試験			

【科目関連及び進度について】

精神に障害のある人の看護の展開と援助を精神看護における主要概念、看護理論、関係法規と関連づけながら学習していく。

【試験・課題等の内容】

随時課題レポート

【評価方法】

終了試験・課題レポート

【テキスト】

新体系看護学全書 精神看護学 1 精神看護学概論・精神保健 メヂカルフレンド社
新体系看護学全書 精神看護学 2 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社

【参考文献】

本看護学テキスト NiCE 病態・治療論 12 精神疾患 南江堂

【授業外における学修方法及び時間】

45 時間の自己学習を必要とする科目である。したがって、授業中に提示する課題に取り組むこと。

専門分野Ⅱ

【科目】成人看護学実習Ⅰ	【単位数・時間】2単位（90時間）
【担当講師】神野美子 ¹⁾ 上野敏幸 ²⁾	
【開講時期】通年	【配当年次】2年・3年
【所属・職位等】1) 2) 専任教員	【実務経験】1) 看護師28年 2) 看護師7年

【授業における到達目標】

1. 慢性的な病とともにある成人期の患者及び家族の特徴をもとに、今後の成り行きを明らかにする。
2. 慢性的な病とともにある成人期の患者及び家族への退院への支援に向け実践できる。
3. 慢性的な病とともにある成人期の患者及び家族とのかかわりを通して、援助関係を形成できる。
4. 慢性的な病とともにある成人期の患者及び家族に対して継続看護及び社会資源の活用について述べるができる
5. 医療チームの一員であることを自覚して看護者として倫理的な行動がとれる。
6. 看護実践における自己の行動を振り返り、看護観を深め自己の課題を明確にする

【授業の概要】

慢性的な病とともにある成人期の患者・家族の特徴をとらえ健康問題・生活上の課題を理解しその人に応じた看護について学ぶ。

【実習期間】

令和3年2月8日～10月22日のうち連続する12日間

【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター 2病棟・泌尿器科外来・整形外科
5病棟・血液内科外来・リンパ浮腫外来
ストーマ外来

【授業計画】

詳細は、成人看護学実習Ⅰ要項参照

【評価方法】

評価規準をもとに看護実践や実習態度、実習記録を評価する。（配点100点）

【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習要項に示している実習前の事前学習、受け持ち患者の疾患及び症状、検査、治療、看護に伴う学習を行う。
2. 受け持ち患者に必要な看護技術の事前練習を行う。

専門分野Ⅱ

【科目】成人看護学実習Ⅱ

【単位数・時間】2単位(90時間)

【開講時期】通年

【配当年次】2年・3年

【担当講師】船木 見奈子

【所属・職位等】専任教員

【実務経験】看護師 11年

【授業における到達目標】

1. 周手術期にある対象の身体的特徴について理解できる。
 - 1) 手術前の対象の身体的特徴について述べることができる
 - 2) 手術後の対象の身体的特徴について述べることができる
2. 周手術期にある対象と家族の心理・社会的特徴が理解できる。
 - 1) 手術前の対象・家族の心理的・社会的特徴を述べることができる
 - 2) 手術後の対象・家族の心理・社会的特徴を述べることができる
3. 周手術期にある対象の術前・術後の回復過程を促進するための援助が実施できる
 - 1) 術前の身体的援助ができる
 - 2) 術前の心理的援助ができる
 - 3) 手術中に対象に行われている治療・処置・看護の実際について考察することができる
 - 4) 術後合併症予防に向けた援助ができる
 - 5) 退院に向けて、対象・家族に対する身体的援助ができる
 - 6) 退院に向けて、対象・家族に対する心理的・社会的援助ができる
 - 7) 予測される術後合併症や看護上の課題を明確にし、実施した援助を評価できる
4. 医療チームの一員であることを自覚して看護者として責任ある行動が理解できる
 - 1) 医療チームとしての責任を考え、報告・連絡・相談しながら、チームとして協働した行動ができる
 - 2) 周手術期の看護に関心をもち、自己表現できる

【授業の概要】

病棟において周手術期にある患者と家族とのかかわりをとおして、手術前から退院するまでの看護について学ぶ。

【実習期間】

令和3年2月8日～令和3年10月22日のうち連続する12日間

【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター 3病棟・手術室

【授業計画】

詳細は、成人看護学実習Ⅱ実習要項参照

【評価方法】

評価基準をもとに看護実践や実習態度、実習記録を評価する。(配点：100点)

【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習要項に示している実習前の事前学習、受け持ち患者の疾患及び症状、検査、治療、看護に伴う学習を行う。
2. 受け持ち患者に必要な看護技術の事前練習を行う。

専門分野Ⅱ

【科目】成人看護学実習Ⅲ

【単位数・時間】2単位(90時間)

【開講時期】通年

【配当年次】2年・3年

【担当講師】間宮 みどり

【所属・職位等】専任教員

【実務経験】看護師 12年

【授業における到達目標】

1. 終末期の経過をたどる成人期の患者及び家族の特徴について理解できる。
 - 1) 終末期の経過をたどる成人期の患者の状況及び特徴について述べるができる。
 - 2) 終末期の経過をたどる成人期の患者の全人的苦痛について述べるができる。
 - 3) 終末期の経過をたどる成人期の患者の家族の特徴を述べるができる。
2. 終末期の経過をたどる成人期の患者及び家族に対する終末期看護が実践できる。
 - 1) 臨床判断に基づいて経過期に応じたケアを実践することができる。
 - 2) 最期までその人らしく生きることを支えるための終末期看護を実践できる。
3. 終末期における倫理的問題について理解できる。
 - 1) 受け持ち患者の倫理的な問題解決を導く意思決定プロセスについて述べるができる。
 - 2) 患者が体験している死や全人的苦痛と向き合い、倫理観及び死生観について述べるができる。
4. 終末期における医療チーム一員として自己の役割を認識し、多職種連携や社会資源の活用について述べるができる。
 - 1) 緩和ケアチームや地域包括ケアチームの一員としての自己の役割について述べるができる。
 - 2) 終末期にある患者が望む生活や状況に応じ、必要な社会資源について述べるができる。

【授業の概要】

病棟において終末期にある患者・家族とのかかわりをとおして、全人的苦痛のある患者・家族の特徴を理解し、最期までよりよく生きることを支える終末期看護について学ぶ。

【実習期間】

令和3年2月8日～令和3年10月22日のうち連続する12日間

【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター 5病棟

【授業計画】

詳細は、成人看護学実習Ⅲ実習要項参照

【評価方法】

評価基準をもとに看護実践や実習態度、実習記録を評価する。(配点：100点)

【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習要項に示している実習前の事前学習、受け持ち患者の疾患及び症状、検査、治療、看護に伴う学習を行う。
2. 受け持ち患者に必要な看護技術の事前練習を行う

専門分野Ⅱ

【科目】老年看護学実習Ⅰ

【単位数・時間】2単位(90時間)

【開講時期】第2学期

【配当年次】2年

【担当講師】後藤 広行¹⁾ 草原麻紀²⁾

【所属・職位等】1) 2) 専任教員

【実務経験】1) 看護師16年 2) 看護師11年

【授業における到達目標】

1. 地域で生活している高齢者の身体的・心理的・社会的特徴が個人によって異なることを理解し、生活上のニーズを知ることができる。
2. 高齢者のQOLの向上を目指した援助が実践できる。
3. 地域で生活している認知症高齢者の特徴を理解し、その人に応じた看護を実践することができる。
4. 高齢者に関わる保健・医療・福祉施設の機能・連携とメンバーの役割について理解することができる。
5. 高齢者に対する自己の看護観を深めることができる。

【授業の概要】

シルバー人材センターや介護老人福祉施設・介護老人保健施設、デイサービス・デイケア、グループホームなど地域で生活している高齢者やその家族との関わりをとおして、地域で生活する高齢者の特徴を理解し、日常生活を支える看護を実践する

【実習期間】

令和3年11月29日～12月17日の12日間

【実習施設】

都城市シルバー人材センター

＜介護老人福祉施設＞

社会福祉法人 常緑会 特別養護老人ホーム 星空の都なかごう
社会福祉法人 恵愛会 特別養護老人ホーム 恵寿苑
都城市社会福祉事業団 特別養護老人ホーム 白寿園
社会福祉法人 常緑会 特別養護老人ホーム 星空の都みまた
社会福祉法人 観音の里 特別養護老人ホーム 高城園
宮崎県社会福祉事業団 特別養護老人ホーム 霧島荘

＜介護老人保健施設＞

医療法人 魁成会 こんにちはセンター

＜デイサービス＞

社会福祉法人 常緑会 星空の都 デイサービスセンターなかごう
社会福祉法人 恵愛会 恵寿苑 デイサービスセンター
都城市社会福祉事業団 庄内デイサービスセンター
社会福祉法人 常緑会 星空の都 デイサービスセンターみまた
社会福祉法人 観音の里 高城園デイサービスセンター
高齢者総合支援センターきりしま 霧島荘デイサービスセンター

＜デイケア＞

医療法人 魁成会 こんにちはセンター

＜グループホーム＞

有限会社 未来企画 グループホーム オルゴール
社会福祉法人まりあ グループホーム まりあ
社会福祉法人 常緑会 グループホーム ふるさと
社会福祉法人 恵愛会 グループホーム めぐみ

【授業計画】

詳細は、老年看護学実習Ⅰ要項参照

【評価方法】

評価基準をもとに看護実践や実習態度、実習記録を評価する。(配点：100点)

【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習要項に示している実習前の事前学習、受け持ち高齢者や地域で生活する高齢者の身体・精神・社会的側面の理解を深めるための学習を行う。
2. 受け持ち高齢者に必要な看護技術の事前練習

専門分野Ⅱ

【科目】老年看護学実習Ⅱ

【単位数・時間】2単位(90時間)

【開講時期】通年

【配当年次】2年・3年

【担当講師】後藤 広行¹⁾ 草原 麻紀²⁾ 【所属・職位等】1) 2) 専任教員

【実務経験】1) 看護師 16年 2) 看護師 11年

【授業における到達目標】

1. 高齢者の加齢変化と健康障害が身体的・心理的・社会的な健康に及ぼしている影響を理解し、今後の健康上の成り行きを予測することができる
2. その人らしく、本人の望む生活目指した看護を実践できる。
3. 高齢者を尊重した看護実践を通して退院支援・退院調整における看護師の役割を理解できる。
4. 倫理的課題解決に向けた自己の行動を述べることができる。
5. 学習者、看護者としての倫理的態度で実習に臨むことができる

【授業の概要】

健康障害のある高齢者やその家族との関わりをとおして、加齢変化や健康障害が日常生活に及ぼす影響について理解し、高齢者がその人らしく地域で生活していくことを支えるための看護を学ぶ。

【実習期間】

令和3年2月8日～令和3年10月22日連続する12日間

【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター 在宅サポート病棟

【授業計画】

詳細は、老年看護学実習Ⅱ要項参照

【評価方法】

評価基準をもとに看護実践や実習態度、実習記録を評価する。(配点：100点)

【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習要項に示している実習前の事前学習、受け持ち高齢者の疾患及び症状、検査、治療、看護に伴う学習を行う。
2. 受け持ち高齢者に必要な看護技術の事前練習

専門分野Ⅱ

【科目】小児看護学実習

【単位数・時間】2単位(90時間)

【開講時期】通年

【配当年次】2年・3年

【担当講師】小倉裕香

【所属・職位等】専任教員

【実務経験】看護師6年

【授業における到達目標】

1. 小児看護学実習（健康な小児の理解）
 - 1)健康な小児の個別の成長・発達について、身体的・精神的・社会的特徴を述べるができる。
 - 2)健康な小児の成長・発達に応じた援助が実践できる。
 - 3)保育園における健康教育と事故防止の実際を理解できる。
 - 4)保健医療福祉チームの一員として、小児を尊重し、看護師の役割を自覚し責任ある行動を取ることができる。
2. 小児看護学実習（健康障害のある小児の看護）
 - 1)健康障害のある小児の特徴について理解できる。
 - 2)患児及び家族の健康障害に応じた看護が実践できる。
 - 3)小児をとりまく保健医療福祉チームの連携と活用する社会資源を理解できる。
 - 4)小児を尊重し、保健医療福祉チームの一員として、責任ある行動を取ることができる。
 - 5)小児とその家族との関わりを通して、小児看護観を深めることができる。
3. 小児看護学実習（子育て支援：ファミリー・サポート・センター）
 - 1)子育ての現状とその支援について理解することができる。
 - 2)保健医療福祉チームの一員として、小児を尊重し、看護師の役割を自覚し責任ある行動を取ることができる。

【授業の概要】

小児看護学実習（健康な小児の理解）では、保育園・保育所において健康な小児とのかかわりをとおして、健康な小児の特徴や成長・発達に応じた援助について学ぶ。

小児看護学実習（健康障害のある小児の看護）では、病棟において健康障害のある児を担当し、患児と家族に対して、成長・発達及び健康障害に応じた看護について学ぶ。

小児看護学実習（子育て支援：ファミリー・サポート・センター）では、子育ての現状とその支援について学ぶ。

【実習期間】

令和3年2月8日(月)～令和3年10月29日(金)のうち連続する12日間

【実習施設】

社会福祉法人しらゆり福祉会 幼保連携型認定こども園 早水保育園

社会福祉法人 都北保育園 とほく認定こども園

社会福祉法人小鳩会 志比田こども園

こおりもと保育園

都城市ファミリー・サポート・センター

独立行政法人国立病院機構都城医療センター 2病棟・小児科外来

【授業計画】

詳細は、小児看護学実習要項参照

【評価方法】

評価基準をもとに看護実践や実習態度、実習記録を評価する。(配点：100 点)

【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習要項に示している実習前の事前学習、受け持ち患児の疾患及び症状、検査、治療、看護に伴う学習を行う。
2. 受け持ち患児に必要な看護技術の事前練習

専門分野Ⅱ

【科目】母性看護学実習		
【単位数・時間】2単位（90時間）	【開講時期】通年	【配当年次】2年・3年
【担当講師】一柳 明日香		
【所属・職位等】専任教員	【実務経験】看護師7年	

【授業における到達目標】

1. 周産期にある対象の身体的特徴および心理・社会的特徴を理解できる。
2. 新生児の特徴が理解できる。
3. 周産期にある対象の健康上の課題を明らかにできる。
4. 周産期の対象の健康の維持増進に向けた援助を実践できる。
5. 新生児の安全・安楽な援助が実践できる。
6. 母子とその家族の愛着形成・役割の獲得に向けた看護が実践できる。
7. 対象と信頼関係の構築ができ、受け持ち母子の思いを尊重して看護できる。
8. 母性における継続看護と社会資源の活用必要性が理解できる。
9. 自己の母性観・父性観を深めることが出来る。
10. 保健医療チームの一員としての自覚を持ち、責任ある行動がとれる。
11. 看護に関する探究心や関心を持ち、主体的に学習できる

【授業の概要】

妊産褥婦及び新生児の特徴を理解し、母子とその家族の健康を維持・増進するために必要な看護を学ぶ。

【実習期間】

令和3年2月8日～令和3年10月1日のうち連続する12日間

【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター 母子医療センター・新生児集中治療室
都城市子育て世代活動支援センター「ぷれぴか」

【授業計画】

詳細は、母性看護学実習要項参照

【評価方法】

実習終了後、評価基準をもとに評価を行う。（配点：100点）

【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習要項に示している実習前の事前学習、受け持ち妊婦の病態及び症状、検査、治療、看護に伴う学習を行う。
2. 妊婦・産婦・褥婦・新生児にまつわる必要な看護技術の事前練習
3. 褥婦の退院後の生活で利用可能な社会資源

専門分野Ⅱ

【科目】精神看護学実習

【単位数・時間】2 単位（90 時間）

【開講時期】通年

【配当年次】2・3 年

【担当講師】後藤広行

【所属・職位等】専任教員

【実務経験】看護師 16 年

【授業における到達目標】

1. 精神に障害のある患者の特徴を総合的に理解することができる
2. 精神障害のある患者のセルフケアの状態に応じた看護が実践できる
3. 精神障害のある患者とのコミュニケーションを通して患者―看護師関係を構築し、治療的環境の意義が理解できる
4. 医療チームメンバーの中での看護師の役割を理解できる
5. 医療チームの一員であることを自覚し、看護者として責任ある行動がとれる。

【授業の概要】

精神に障害のある患者及び家族との関わりを通して、精神障害が患者のセルフケアに及ぼす影響を理解し、精神に障害のある人の社会生活適応や自立に向けた看護を学ぶ。

【実習期間】

令和3年2月8日～年6月18日のうち連続する12日間

【実習施設】

一般社団法人藤元メディカルシステム 藤元病院 6・7・8病棟

【授業計画】

詳細は、精神看護学実習要項参照

【評価方法】

実習終了後、評価基準をもとに評価を行う。（配点：100 点）

【授業外における学修方法及び時間】

詳細は、精神看護学実習要項参照

統合分野

【科目】在宅看護論総論	【単位数・時間】1 単位（30 時間）	
【担当講師】草原麻紀	【開講時期】2 学期	【配当年次】1 年
【所属・職位等】専任教員	【実務経験】看護師 11 年	

【授業における到達目標】

1. 在宅看護の意義と必要性、対象の特性と地域を基盤にした看護の役割を理解する。
2. 地域における保健医療福祉活動と看護の役割について理解する。

【授業の概要】

在宅看護は在宅で生活するあらゆる発達段階及び健康レベルの人と家族を対象とし、在宅看護が提供される場も広がりを見せていることから、その目的と特徴、在宅看護に求められていることを考察しながら学習する。各看護学で学習したことをもとに疾病予防及び健康の保持・増進のための看護を学ぶ。療養の場を在宅に決定することの意義や対象の特性から看護の役割への理解を深める。

【アクティブ・ラーニング】

地域包括ケアシステムの理解を進めるために、ジグソー学習を行う。

実在する地域に焦点を当て、地域包括ケアシステムの 5 つの視点を中心とした社会資源の把握を行い、事例を用いて、地域完結型の社会システムの在り方について考える機会する。

グループワークで、調べ学習、情報提供を繰り返し行うことによって、能動的な学習、協調性を養い、地域の実情の理解を深めていく。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
第 1 回	在宅看護の目的と特徴		
第 2 回	在宅看護における QOL		
第 3 回	在宅看護における看護師の役割と機能		
第 4 回	在宅看護の対象者の特徴①		
第 5 回	在宅看護の対象者の特徴②		
第 6 回	在宅看護の制度 在宅看護の仕組み		
第 7 回	ケアマネジメントの概念と機能		
第 8 回	介護保険制度①		
第 9 回	介護保険制度②		
第 10 回	訪問看護制度		
第 11 回	在宅看護における看護師の倫理		
第 12 回	在宅看護の対象者の権利 在宅看護における法律問題		
第 13 回	入退院時における医療機関と訪問看護の連携		
第 14 回	地域包括ケアシステム①（演習）		第 14・15 回は連続するのがのぞましい
第 15 回	地域包括ケアシステム②（演習）		

【科目関連及び進度について】

老年看護学概論：老年看護学第 7 回「超高齢社会の現状」第 8～9 回「高齢者の保健・医療・福祉の動向」終了後に本科目第 3 回「在宅看護における看護師の役割と機能」を履修するのがのぞましい。

社会福祉：社会福祉第 5～8 回「介護保険制度」終了後に、本科目第 8～9 回「介護保険制度」第 10 回「訪問看護制度」を履修するのがのぞましい。

家族関係論（3 年次履修）

公衆衛生学（2 年次履修）

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

レポート課題は、授業中に提示する。

【評価方法】

試験の成績、レポート課題にて評価する。

終了試験 90% ＋ レポート課題 10%

【テキスト】

ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア 在宅看護論①（メディカ出版）

国民衛生の動向（厚生労働統計協会） 国民の福祉と介護の動向（厚生労働統計協会）

【参考文献】

ナーシング・グラフィカ 在宅療養を支える技術 在宅看護論②（メディカ出版）

系統看護学講座 統合分野 在宅看護論（医学書院）

看護倫理（南江堂）

【授業外における学修方法及び時間】

毎回シラバスで授業範囲を確認しテキストを読んで授業に臨む。

在宅にかかわる法制度や社会資源は、関係法規・公衆衛生・社会福祉・老年看護学で履修する内容と関連付けて学習することができる。

居住する地域のことや、社会の動向に日ごろから関心を寄せる。本授業で取り上げる語句は、昨今のニュースや新聞などでよく取り上げられるものを多く含む。普段の生活の中で、これらに積極的に目を向け、学習に役立てる。

統合分野

【科目】 在宅看護方法論Ⅰ
【単位数・時間】 2単位（30時間）
【担当講師】 草原麻紀¹⁾ 鳥丸 章子²⁾ 平野香奈³⁾
【開講時期】 第1学期 **【配当年次】** 2年
【所属・職位等】 1) 専任教員 2) 都城医療センター 地域医療連携部副部長
 3) 都城医療センター 皮膚・排泄ケア認定看護師
【実務経験】 1) 看護師 11年

【授業における到達目標】

1. 在宅における生活ケア援助技術と医療的ケア援助技術を理解できる。
2. 社会資源の活用方法や関連職種との連携を理解する。

【授業の概要】

1. 在宅における家族の意味や家族機能変化をふまえた援助について学ぶ。
2. 基礎看護学で学んだ基本的看護技術をもとに、在宅療養における日常生活援助を考える機会とする。家庭の場での応用や家族への指導、看護者としての倫理、社会資源の活用も含めて学習する。
3. 病院における地域連携室の機能、実際の活動から、病院から在宅へ移行する療養者の治療処置看護の実際を学ぶ。
4. 病院における退院指導・退院後訪問活動の実際から、在宅療養者が受ける感染予防、創処置、ストーマ管理について学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

- ・事例を用いたグループワークを行い、全体発表・検討会を行う。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
第1回	1. 在宅療養の場における家族のとらえ方	草原	
第2回	2. 在宅療養者の家族への看護		
第3回	3. 在宅看護における生活ケアの援助技術 1) 食のアセスメントと援助		
第4回	2) 排泄のアセスメントと援助		
第5回	3) 清潔のアセスメントと援助		
第6回	4) 移動のアセスメントと援助		
第7回	5) 呼吸のアセスメントと援助		
第8回	4. 在宅看護における医療的ケアの援助技術 1) 経管栄養法 中心静脈栄養法	鳥丸	
第9回	2) 在宅酸素療法		
第10回	3) 在宅人工呼吸療法		
第11回	4) CAPD		
第12回	5) 感染の予防と対応 創処置・褥瘡処置	平野 平野	
第13回	6) ストーマ管理（人工膀胱・人工肛門） 間欠的自己導尿法・膀胱留置カテーテル		
第14回	5. 在宅看護における安全と健康危機管理 1) 日常生活における安全管理	鳥丸	
第15回	2) 災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理		

【科目関連及び進度について】

看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ（1年次履修）

看護技術Ⅵ：看護技術Ⅵ「呼吸の管理に必要な看護技術」履修後に本科目第9回「2. 在宅療養者の治療処置看護の実際③酸素療法」・第10回「気管カニューレ 人工呼吸療法」を履修するのがのぞましい。

看護技術Ⅶ：看護技術Ⅶ「与薬」終了後に本科目第11回「持続皮下注法」「創傷管理」履修後に本科目第14回「在宅療養者の治療処置看護の実際⑦感染の予防と対応 創処置・褥瘡処置」を履修するのがのぞましい。

家族関係論（3年次履修）

災害看護（3年次履修）

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

レポート課題は、授業中に提示する。

【評価方法】

試験の成績、レポート課題にて評価する。

授業計画 内容の1～3の範囲 50% + 授業計画 内容の4～5の範囲 50%

【テキスト】

ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア 在宅看護論①（メディカ出版）

ナーシング・グラフィカ 在宅療養を支える技術 在宅看護論②（メディカ出版）

根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）

【参考文献】

系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②（医学書院）

系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③（医学書院）

看護技術プラクティス第3版（学研メディカル秀潤社）

【授業外における学修方法及び時間】

毎回シラバスで、テキストの該当する範囲を確認し授業に臨む。

自身の生活や家族の生活の様子に今一度目を向け、家庭にあるものを日常生活援助技術で利用したり、工夫して活用したりすることができないか、日頃の周囲の環境や物品に関心を寄せる。

本科目は、統合分野の為、あらゆる分野との関連がある。特に看護技術や臨床看護総論、災害看護の基礎知識をもとに在宅での留意点などを学んでいくため、既習学習と関連させて学習する必要がある。

統合分野

【科目】 在宅看護方法論Ⅱ
 【単位数・時間】 1 単位 (30 時間)
 【担当講師】 草原麻紀¹⁾ 栗山誓子²⁾
 【開講時期】 第 2 学期 【配当年次】 2 年
 【所属・職位等】 1) 専任教員 2) 訪問看護ステーション管理者・訪問看護師
 【実務経験】 1) 看護師 11 年

【授業における到達目標】

1. 療養者及び家族の健康問題別の看護の方法を理解する
2. 在宅看護の場の特徴をふまえた看護過程の展開方法を理解する。

【授業の概要】

1. 事例を用いて、在宅における経過期別看護、症状別看護を学ぶ。
2. 訪問看護の活動の実際から、在宅における終末期看護について学ぶ。
3. 各看護学で学習した知識・思考過程を応用し、在宅看護における看護過程の展開を学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

看護過程の展開演習において、個人学習・グループワーク・発表を相互に行い、他者の意見を傾聴するとともに自身の考えを明確に伝え、反応に応じて評価を客観的に行う主体的な協同学習に取り組む。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
第 1 回	1. 在宅における経過期別看護、症状別看護 1) 慢性的な経過をたどる療養者と家族への在宅看護 i	草原	第 1・2 回は 2 週間のうちに履修するのがのぞましい
第 2 回	2) 慢性的な経過をたどる療養者と家族への在宅看護 ii		
第 3 回	3) 小児の療養者と家族に対する在宅看護		
第 4 回	4) 認知症のある療養者と家族への在宅看護		
第 5 回	5) 精神症状のある療養者の看護		
第 6 回	6) 在宅で終末期を迎える療養者と家族の看護①	栗山	
第 7 回	7) 在宅で終末期を迎える療養者と家族の看護②		
第 8 回	2. 在宅における看護過程の展開 1) 特徴とポイント①	草原	
第 9 回	2) 特徴とポイント②		
第 10 回	3) 情報の整理とアセスメント（演習）		
第 11 回	4) アセスメントと生活上の課題（演習）		
第 12 回	5) 生活上の課題と看護目標・看護計画（演習）		
第 13 回	6) 計画の実施（演習）		第 13・14 回は連続するのがのぞましい
第 14 回	7) 計画の実施と考察（演習）		
第 15 回	8) 地域での生活を継続するために必要な看護（演習）		

看護技術Ⅳ（1 年次履修）

臨床看護総論（1 年次履修）

病理学Ⅳ：病理学Ⅳ第「脳血管障害」を履修後に、本科目第 1 回「慢性的な経過をたどる療養者と家

族への在宅看護ⅰ」を履修するのがのぞましい。

老年看護方法論Ⅱ：老年看護方法論Ⅱ「高齢者の認知症、うつ」を履修後に、本科目第4回「認知症のある療養者と家族への在宅看護」を履修するのがのぞましい。

家族関係論（3年次履修）

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

レポート課題は、授業中に提示する。

【評価方法】

試験の成績、レポート課題にて評価する。

1. 在宅における経過期別看護、症状別看護 50% ：終了時試験による評価
2. 在宅における看護過程の展開 50% ：演習レポート課題による評価

【テキスト】

ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア 在宅看護論① （メディカ出版）

ナーシング・グラフィカ 在宅療養を支える技術 在宅看護論② （メディカ出版）

【参考文献】

系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ （医学書院）

系統看護学講座 専門Ⅱ 脳・神経 成人看護学⑦ （医学書院）

その他、授業内容に応じて各科目テキストを使用する。

根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

【授業外における学修方法及び時間】

毎回シラバスを確認し、テキストの該当する範囲の事前学習を行う。

看護過程の展開においては、演習が主となる。計画的・積極的に課題に取り組む姿勢と講義前後に1時間程度の学習時間の確保が必要である。

統合分野

【科目】医療安全Ⅰ
【単位数・時間】1単位 15時間
【担当講師】1) 原田尚子 2) 北野喜恵
【開講時期】第2学期 【配当年次】1年
【所属・職位等】1) 都城医療センター副看護部長
2) 都城医療センター医療安全管理部副部長

【授業における到達目標】

医療安全の基本的な考え方を理解し、安全な看護を提供するために必要な感性を身につける。

【授業の概要】

医療事故が起こりやすい特性について、人間の3つの行動モデルの視点から学ぶ。
また、医療安全対策の基本的な考え方や安全対策として組織と個人の立場や危機の種類からみた対策として事例を取り上げ学習していく。特に、療養上の世話を行う上で起こりやすい事故について考え、事故を予防するためのリスク感性を磨く。

【アクティブ・ラーニング】

事例を用いたグループワークを行い、全体で意見交換を行う。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
第1回	医療安全を学ぶことの意義	原田	
第2回	医療事故の考え方	北野	
第3回	療養上の世話の事故防止	北野	
第4回	診療の補助の事故防止	北野	
第5回	医療安全とコミュニケーション	北野	
第6回	看護学生の実習と安全	原田	
第7回	医療安全と医療の質保証	原田	
第8回	終了試験	北野・原田	

【科目関連及び進度について】

看護学概論にて、保健師助産師看護師法における看護師の業務について学習し、様々な日常生活援助について学習した後に、開講する。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の実践と統合（医学書院）
新体系看護学全書 統合分野 看護実践マネジメント／医療安全（メジカルフレンド）
医療安全ワークブック 第4版（医学書院）

【授業外における学修方法及び時間】

毎回1時間程度の事前学習を要する。

統合分野

【科目】医療安全Ⅱ

【単位数・時間】1 単位（15 時間）

【担当講師】 1) 原田尚子 2) 北野喜恵

【開講時期】通年 【配当年次】3 年

【所属・職位等】 1) 都城医療センター副看護部長
2) 都城医療センター医療安全管理部副部長

【授業における到達目標】

看護の場面で遭遇する機会が多い事故の発生要因を理解し、防止対策を考えることができる。

【授業の概要】

医療事故や医療事故訴訟に関する事例を活用しながら授業を行う。医療安全対策としての組織的な取り組みについて学ぶ。また、医療事故の構造の総合的な理解と事故予防のためのメタ認知能力を養うために、医療事故事例の分析やリフレクションを行う。

【アクティブ・ラーニング】

事例を用いたグループワークを行い、全体で意見交換を行う。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
第 1 回	医療事故後の対応、看護学生の実習と安全組織的な安全管理体制への取り組みと展望	原田	
第 2 回	診療の補助業務における安全対策	北野	
第 3 回	療養上の世話における安全対策 1	北野	
第 4 回	療養上の世話における安全対策 2	北野	
第 5 回	業務領域をこえて共通する間違いと発生要因	北野	
第 6 回	医療安全とコミュニケーション	北野	
第 7 回	事例分析（RCA 分析）	北野	
第 8 回	終了試験	原田・北野	

*「講師」は、特にオムニバス形式の場合、単元担当者または当該授業時間の担当者名を記載する。「備考」は、開始時期や授業間隔について記載する。

【科目関連及び進度について】

看護マネジメントと関連させながら学習する。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[2]医療安全（医学書院）
新体系 看護学全書 統合分野 看護実践マネジメント／医療安全（メジカルフレンド）
医療安全ワークブック 第4版 （医学書院）

【授業外における学修方法及び時間】

毎回 1 時間程度の事前学習を要する。

統合分野

【科目】看護マネジメント論 【単位数・時間】1単位(30時間)
 【担当講師】山中真弓¹⁾、井上光子²⁾ 【開講時期】第1学期 【配当年次】3年
 【所属・職位等】1)教育主事 2)都城医療センター看護部長
 【実務経験】1)看護師8年、厚生労働技官3年

【授業における到達目標】

看護におけるマネジメントの様々な考え方を知り、看護マネジメントの自らの考えを述べることができる。

【授業の概要】

患者家族に看護を提供するためには、組織的にマネジメントする必要がある、その視点を学ぶ。また、これまで学んだ知識を統合し、看護の質の保証について実践することができる。

【アクティブ・ラーニング】

課題レポートや事例を用いた検討会を行う。

【授業計画】

回数	内容・方法		担当	備考
第1回	マネジメントに必要な理論	マネジメントとは何か マネジメントの考え方の変遷 古典的組織論、人間関係論、近代組織論、 動機づけ理論	教育主事	
第2回		目標による管理、システム論		
第3回		リーダーシップの各理論		
第4回		看護管理とは何か		
第5回	看護サービスのマネジメント	看護サービスとは 組織目的達成のマネジメント	看護部長	
第6回		看護サービス提供のしくみ 人材のマネジメント		
第7回		施設・設備環境のマネジメント 物品のマネジメント		
第8回		情報のマネジメント 看護サービスの質の保証		
第9回	看護ケアのマネジメント	看護ケア提供の仕組みと機能	教育主事	
第10回		患者の権利の尊重		
第11回		チーム医療と他職種との連携		
第12回		看護管理に必要な法制度		
第13回	看護職のキャリアマネジメント	看護職のキャリア形成 看護専門職としての成長		
第14回	マネジメントの実際	事例を用いた看護マネジメント(演習)	教育主事	
第15回		事例を用いた看護マネジメント(演習)		

【科目関連及び進度】

マネジメントの視点は臨地実習において必要な視点である。また、総合看護実習では本科目の学びを実際に実習で展開する実習である。

【試験・課題等の内容】

課題レポート授業で提示する。

事例を用いた看護マネジメントに関する演習を行う。

試験は授業全般である。

【評価方法】

終了試験 80 %

課題レポート 20 %

【テキスト】

系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践1 看護管理 医学書院

看護の統合と実践 看護実践マネジメント/医療安全 メヂカルフレンド社

【参考文献】

看護管理学習テキスト 看護マネジメント論 日本看護協会

【授業外における学修方法及び時間】

本科目は15時間の自己学習を要する。次回の授業に対する事前の課題を提示するため、毎回1時間程度の事前学習を要する。

統合分野

【科目】 災害看護
【単位数・時間】 1 単位 (15 時間)
【担当講師】 神野美子¹⁾、西 裕也²⁾ 田代芽衣³⁾ 都城消防署消防士
【開講時期】 第 1 学期 **【配当年次】** 3 年
【所属・職位等】 1) 専任教員 2) 都城医療センター副看護師長 3) JICA デスク宮崎
【実務経験】 看護師 28 年

【授業における到達目標】

1. 災害や被災した人、地域、社会の特徴を理解し、災害直後から支援できる看護の基礎知識が理解できる。
2. 救急時の応急処置の方法を学ぶ。

【授業の概要】

災害看護の概念と構造、災害看護の実際を学ぶ授業である。さらに救急法演習を通して救急法の実際を学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

事例を用いたグループワークを行い、全体発表・検討会を行う。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
1 回目	災害の定義、災害の種類と疾病構造（講義）	神野	
2 回目	災害看護の特徴と看護活動、災害とこころのケア （講義、グループディスカッション）	神野	
3 回目	災害サイクルからみた必要な医療・災害各期の看護支援（講義）	西	
4 回目	被災者特性に応じた災害看護の展開（講義）	西	
5 回目	被災者特性に応じた災害看護の展開 （講義、グループディスカッション）	西	
6 回目	救急法演習（AED）、心肺蘇生法	都城消防署	
7 回目	災害看護における紙上訓練	神野	
8 回目	国際看護	田代	

＊「講師」は、特にオムニバス形式の場合、単元担当者または当該授業時間の担当者名を記載する。「備考」は、開始時期や授業間隔について記載する。

【科目関連及び進度について】

専門分野Ⅱの知識を本科目につなげ、さらに看護管理、医療安全の学習進度を踏まえて授業計画を立案する。

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

グループディスカッションの際には事前および事後にレポート課題を提示する。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

系統看護学講座 看護の統合と実践（3） 災害看護学・国際看護学（医学書院）

【参考文献】

東日本大震災、熊本地震のドキュメント

【授業外における学修方法及び時間】

1. 次回の授業に対する事前の課題を提示するため、毎回 1 時間程度の事前学習を要する。
2. 災害看護に関するナースングチャンネルを事前に視聴する。（60 分）

統合分野

【科目】統合看護技術	【単位数・時間】1 単位（30 時間）
【担当講師】草原 麻紀 ¹⁾ 山中 真弓 ²⁾ 黒木輝美 ³⁾ 内藤亜紀 ⁴⁾ 桑原真奈 ⁵⁾ 榎田美香 ⁶⁾ 上玉利奈津希 ⁷⁾	
【開講時期】通年	【配当年次】3 年 3) ～ 7) 都城医療センター看護師
【所属・職位等】1) 専任教員 2) 教育主事	
【実務経験】1) 看護師 11 年 2) 看護師 8 年、厚生労働技官 3 年	

【授業における到達目標】

1. 多重課題、複数の対象への看護
対象の状態に応じて、看護技術を組み合わせ、応用して提供するための思考と実践が行える。
2. 課題研究演習
科学的根拠に基づいて、自己の看護実践を検証する。
実践した看護を振り返り、自己の課題を明確にすることができる

【授業の概要】

1. 看護の事例から、臨床判断モデルを用いて、臨床判断を高めるための判断や実践について学ぶ。
また、看護実践の基礎となる看護倫理についても、Jonsen 4 分割表を用いて臨床場面における倫理的判断について学ぶ。
2. 臨地実習で受け持った患者の事例を取り上げ、実施した看護について事例研究を行う。

【アクティブ・ラーニング】

臨床に近い状況の設定、模擬患者及び PC タブレット端末による撮影を用いたシミュレーション教育を導入し、講義を展開する。

【授業計画】

回数	内容（方法）	担当者	備考
第 1 回	臨床判断とは 気づくトレーニングから、看護師の臨床判断について学ぶ	草原	
第 2 回	看護倫理について Jonsen 4 分割表を用いた分析をとおして、臨床場面における倫理的判断について学ぶ		
第 3・4 回	シナリオシミュレーターを用いた臨床判断演習		
第 5・6 回	患者の状態に応じた看護実践 ・事例の対象理解 ・演習課題の提示		
第 7 回	患者の状態に応じた看護実践	草原 黒木 内藤 桑原 榎田 上玉利	演習では模擬患者に協力を依頼する。
第 8・9 回	看護実践の振り返り（全体検討）		
第 10・11 回	シナリオシミュレーターを用いた臨床判断演習		
第 12 回	まとめ		
第 13 回	事例研究	山中	

回数	内容（方法）	担当者	備考
第 14・15 回	研究発表	山中	

【科目関連及び進度】

専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱにおける学びを統合し、事例における臨床判断、臨地実習で受け持った患者の事例を取り上げた事例研究について学ぶ。

【試験・課題等の内容】

試験問題は、授業の内容の範囲から出題。

演習課題及びレポート課題は、授業中に提示します。

【評価方法】

試験の成績、演習課題、レポート課題にて評価する。

1. 多重課題、複数の対象への看護 60 点
2. 課題研究演習 40 点

【テキスト】

系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践1 看護管理 医学書院

看護の統合と実践① 看護実践マネジメント／医療安全 メヂカルフレンド社

黒田裕子の看護研究 Step by Step 医学書院

【参考文献】

必要に応じて、文献・資料を紹介する

【授業外における学修方法及び時間】

本科目は、統合分野であり、これまでの知識・技術を活用して学びを深めていく。よって、授業時間以外にも、学習時間を確保し、主体的かつ計画的に学べるよう課題を提示する。

統合分野

【科目】在宅看護論実習
【単位数・時間】2単位（90時間）
【担当講師】草原麻紀
【開講時期】第2学期
【配当年次】3年
【所属・職位等】専任教員
【実務経験】看護師11年

【授業における到達目標】

1. 市町村における地域保健活動の実際を理解し、看護の役割と機能及び連携を学ぶ。
2. 居宅介護支援事業所における在宅生活を支える支援の実際を理解し、専門職の役割と機能及び連携を学ぶ。
3. 訪問看護ステーションの役割、機能を理解し在宅療養者とその家族がもつ生活上及び医療上の問題を知り看護者の役割を学ぶ。また在宅療養者とその家族に応じた援助の実際を理解する。

【授業の概要】

在宅で療養している人と家族が持つ健康及び生活上の課題を理解し、その人に応じた看護について学ぶ

【実習期間】

令和3年8月23日～令和3年10月22日のうち連続する12日間

【実習施設】

市町村	
都城市役所	三股町健康管理センター
居宅支援事業所	
ケアプランサービス ゆう	星空の都 居宅介護支援センターみまた
霧島荘居宅介護総合支援事業所	指定居宅介護支援事業所 夢路
訪問看護ステーション	
都城市郡医師会立訪問看護ステーション	くぼはら訪問看護ステーション
訪問看護ステーションことぶき	三股町訪問看護ステーションなごみ
訪問看護ステーション優癒	リハケアステーション都城
訪問看護ステーションほほえみの園	訪問看護ステーション光

【授業計画】

詳細は、在宅看護論実習要項参照

【評価方法】

実習終了後、評価基準をもとに評価を行う。（配点：100点）

【授業外における学修方法及び時間】

詳細は、在宅看護論実習要項参照

統合分野

【科目】看護総合実習

【単位数・時間】2 単位(90 時間)

【開講時期】2 学期

【配当年次】3 年

【担当講師】草原麻紀

【所属・職位等】専任教員

【実務経験】看護師 11 年

【授業における到達目標】

1. 看護チームの一員として、受け持ち患者に必要な看護を安全に実践できる。
2. 24 時間看護が継続されるよう、看護を実践することができる。
3. 患者に必要な資源を活用し、看護を実践することができる。
4. 看護師としての倫理観を持ち、看護師としての役割と責任について理解できる。

【授業の概要】

チームの一員として、看護実践に必要なマネジメントを理解し、対象を取り巻く人々との調整や連携を学ぶ。

【実習期間】

令和3年11月1日(月)～11月19日(金)のうち連続する 12 日間

【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター 1 病棟～5 病棟

【授業計画】

詳細は、看護総合実習要項参照

【評価方法】

実習終了後、評価基準をもとに評価を行う。(配点：100 点)

【授業外における学修方法及び時間】

授業ノートの整理と見直しを行い、実習期間中は学習したノートを持参する。学習内容に不足がある場合は、追加学習を行う。

1. 実習病棟に特徴的な疾患について（病態・治療処置・看護目標や看護の方法）
2. 看護マネジメント論で学習した病棟での看護マネジメント
3. 医療安全Ⅰ・Ⅱで学習した医療安全対策と管理
4. 統合看護技術